不變の業務を營む必要あり。普通銀行業務として取扱ふは、割引、擔保貸附、ルポール、取立、手數料業務等にして、之より生ずる利益亦餘程多大である。

第二　營業の實績

巴里和蘭銀行の業務は上述の如く範域宏く又盛大にして、今日迄の營業實績を見るも其の活動は餘程大規模である。今一八七二年創業の日より一九一二年迄に於ける其の營業狀態を見るに實に左表の如し。

年次	資本積立金	當座勘定		所有有價證券及發行加入額合計	手形	
		當座預金	貸越口		受取	支拂
	百万法	百万法	百万法	百万法	百万法	百万法
一八七二年	一二五・〇	八七・八	七五・〇	三〇・七	五〇・九	一二・九
一八八〇年	（半額拂込）六二・五	五八・五	二九・二	五五・四	五・五	一・二
一八八五年	（一八七八年五月以降）同右	四六・三	二四・五	五〇・七	二五・四	一二・九
一八九〇年	同右	八二・九	五一・四	六二・六	二五・四	二三・三
一八九五年	同右	八九・一	三九・七	八〇・六	三九・二	八・五
一九〇〇年	同右	一二五・三	八・二	七〇・七	三四・九	三・三
一九〇五年	同右	一三九・七	一六七・八	八〇・六	八一・三	四五・一
一九〇六年	同右	三一八・二	二〇六・七	一〇二・三	一〇五・七	五三・九
一九〇七年	七五・〇	一九〇・二	一九八・五	九九・七	七二・九	七二・四
一九〇八年	同右	二三四・七	一六六・八	一〇四・三	四八・九	四一・六
一九〇九年	同右	二二五・〇	一四七・八	九九・〇	五九・三	四九・九
一九一〇年	同右	二七九・六	一七七・二	一一七・六	五三・二	六一・九
一九一一年	同右	二五三・三	二〇七・七	一三三・二	六一・七	五七・八
一九一二年	一〇〇・〇	二六九・二	二五九・二	一四四・二	一二三・六	八九・五

右表中の當座預金は、大抵外國政府又は自ら其の株式、社債の發行、引受を爲せる大會社の預金にして、名目は當座なれども、多數の場合に於て定期預金と同樣にて、一定の時期に於て、又は豫告を以て、引出さるゝものなれば、急遽の取附に會ふの虞なし、又當座貸越も多くは堅實なる一流會社に對するものにて、危險甚だ少し。

右表中「所有有價證券及發行加入額」の金高を示せば左の如し。

	國債	株式及社債	各種發行加入
	百万法	百万法	百万法
一八七二年	八・一	八・六	一四・〇
一八八〇年	七・一	四〇・一	八・二

	一				
一八八五年		四〇・三	一〇・四		
一八九〇年	二二・二	三二・三	八・一		
一八九五年	一二・八	五四・三	一三・五		
一九〇〇年	七・一	四九・四	一四・二		
一九〇五年	一二・八	五四・三	一三・五		
一九〇六年	一七・八	六四・七	一九・八		
一九〇七年	八・四	六五・二	二六・一		
一九〇八年	一一・六	六七・八	二四・九		
一九〇九年	一〇・三	七二・九	一五・八		
一九一〇年	一一・八	七四・〇	三一・八		
一九一一年	六・一	九二・六	三四・五		
一九一二年	五・三	八四・三	五四・六		

尙此等有價證券及び各種發行加入の種類別を示せば、最近數年間に於て左の如し。

國債　株式　社債　各種發行加入

動產銀行の業務は勢ひ財界の波瀾に制せられ、多少浮沈を免かれざるものなれば、必らずしも之に依て始終確實に利益を擧ぐることを得べしとは見ることを得ず。試みに預金銀行中最有力なる「クレデイ、リョネ」と、動產銀行の首班たる巴里和蘭銀行の實績とを比較するに、「クレデイ、リョネ」の利益は年々順次增加する傾向なるが、巴里和蘭銀行にあつては、財界の變動の爲め時々急激の打擊を蒙ることあるを以て、其の利益も爾く秩序的に增加せず、種々波瀾曲折を示して居る。其の例證を擧ぐれば、一九〇七年は米國恐慌の年なりしが、其の影響多大なりしと見え、其の前年の一九〇六年には、純益二千二百六十七萬八千法の巨額に上れるに拘らず、一九〇七年の純益は急轉直下して僅々九百七十四萬五千法となり、翌一九〇八年に至りて、漸やく一千三百八十六萬三千法まで恢復したのである。而も其の實一九〇七年

一九〇九年末	二三	二八四	五四
一九一一年末	二八	三二一	五八
一九一二年末	二三	三二二	五二

（一九一〇年末の種類別は未だ確實なる資料を得ず、故に省く）

に於ては、投資、發行加入等の財務營業より生ずる利益は皆無にして、同年の利益は單に普通銀行業務より得しものである。今左に一九〇一年以降一九一二年迄の總收入、總支出、純益及び配當率を示さん、殊に純益の數字に波瀾多きは注意すべき事實である。

營業年度	總收入	總支出	純益	配當率
一九〇一年	八、三一九千法	三、四六五千法	四、八五四千法	一〇%
一九〇二年	九、四五二	二、一五五	七、二九七	一〇%
一九〇三年	九、八九三	二、二九二	七、六〇一	一〇%
一九〇四年	二三、二三三	三、八二二	一九、四一一	一二%
一九〇五年	一四、六八四	三、八八〇	一〇、八〇四	一二%
一九〇六年	二六、五三二	三、八五四	二二、六七八	一二%
一九〇七年	一四、七八八	五、〇四三	九、七四五	一二%
一九〇八年	一七、二六八	三、四〇五	一三、八六三	一三%
一九〇九年	二六、〇二四	四、二五二	二一、七七二	一五%
一九一〇年	二〇、九七七	三、八二〇	一七、一五七	一五%
一九一一年	一九、三七五	三、八二三	一五、五五二	一五%
一九一二年	二〇、一九五	三、九五三	一六、二四二	一五%

右の表に依れば動産銀行業務に曲折波瀾多きこと既に明瞭であるが、而も他方に於て巴里和蘭銀行の取扱ふ普通銀行業務の利益は、依然繼續的にして、順次增加し來り、同行の業務に不動的性質を與へて居るのである。同行の營業報告には詳細の說明あるを以て、其の發行、投資業務の利益と普通銀行業務の利益とを分離することを敢て不可能にはあらざれども、其の實此二種の業務は相互に密接の關係あり、兩々相俟つて利益を擧るものなれば、强て之を分離するは、却つて誤謬を生ずる虞あるが故に之を避く。要するに普通銀行業務の成績は、其の性質上漸進的にして、同行の財務營業とは反對の傾向を示して居るのである。

斯く動産銀行業務に變動多しと雖も、其の配當率は順次確實に增加せることは、右の表に示すが如し、是は前述の如く其の營業の性質上收益に波瀾多きを以て、特に注意して配當率を確定的ならしむる結果である、卽ち利益多き時は繰越金を增

し、利益少き時は特別積立金を以て配當額を鹽梅し、以て順次增率する政策を取つて居るのである。縱令一時收益多大なるも、將來之を持續する見込立たざる場合は、濫りに配當率を增さず、實例を擧ぐれば、一九〇六年及び一九〇九年の兩年には、純益多大なりしかども、前者の配當率は一割二分、後者は一割五分に止めし位にて、利益の多少に拘らず、一定の方針に依て配當して居るのである。是れ當局者が其の業務の性質に適應する方策を取れる結果にして、其の營業振巧妙なりと謂ふべしである。

其の營業盛大にして、一般の信用厚く、優に佛國一流銀行の一として數へられ、其の株式も高市價を保ち、一九一三年の現物取引市價は、五百法拂込株が最高一千八百二十五法、最低一千六百五十法を唱へた。

第二節　「ユニオン、パリジアンヌ」銀行

La Banque de l'Union Parisienne.

原名を直譯せば、巴里合同銀行の意であるが、此には佛國にての通稱を用ゐて、「ユニオン、パリジアンヌ」と呼ぶ、巴里和蘭銀行に比すれば遙かに小規模なれども、今日は其の次位に居る動產銀行である。之は一八七四年に創立せられし「巴里銀行」(La Banque Parisienne) の後身にして、今日の名稱と組織を以て設立せられしは、一九〇四年のことである。此「巴里銀行」は巴里和蘭銀行が合併せし「巴里銀行」(La Banque de Paris) とは其の原名の示す如く別物である。其の資本は當初僅々一百萬法なりしが、一八七八年より一八八一年迄の財界狂熱時代に於て七百萬法に增資し、其の後漸次確實なる營業方針を取り來りしが、「ユニオン、ゼネラル」銀行 (L'Union Générale) が失敗せし後、漸次增資して二千萬法とした。前記の如く一九〇四年之を改造して「ユニオン、パリジアンヌ」と爲し、資本を四千萬法と定めしが、翌一九〇五年、六千萬法に增加し、其の後又增資して、今日は八千萬法(全額拂込)にて、株券は無記名式である。

此銀行の關係者は、舊「巴里銀行」時代より重に新敎徒にして、殊に現今は所謂高等(ハイ)銀行(ニンク)中古く且つ信用ありて佛國銀行界に新敎派を代表する諸財務家を以て其の支持者として居る。其の營業方針堅實なるを以て、克く財界の波瀾に堪へて順調の發達を爲し、資本の增加と共に業務も着々發展し來つた。

其の營業振は巴里和蘭銀行と趣を異にし、動產銀行業務を營むと共に、大に普通銀行業務に盡力し、盛に割引及び當座取引を爲すを以て、其の收益の大部分は普通銀行業務より得るが如し。然し普通銀行業務とはいへ、個人に對するよりも寧ろ外國の政府、都市、又は大會社に對する取引多くして、何れも確實なるものである、其の他には外國銀行と聯絡を通じて普通業務を行つて居る。斯く普通銀行業務に盡力する爲め、往々普通銀行として數へらるゝ場合あれども、而も財的業務に關係すること亦甚だ多く、其の性質に於ては依然一個の動產銀行である。

財的業務に關係して中々有力である。近年に於ては、亞爾然丁、勃牙利、日本、伯羅西爾國サン、ポウロ州政府、其の他の公債の發行に關係し、又

伊太利銀行(Credito Italiano)

アゾフ、ドン(露西亞)商業銀行(La Banque de Commerce de l'Azof-Don)

「ソシヱテ、マルセイヱーズ」(Société Marseillaise)

の增資に關與せしが、自ら投資し居る銀行、會社も餘程多數である、其の重なるものを示せば左の如し。

歐洲

露國合同冶鑛會社(L'Union Métallurgique Russe)

モスコウ合同銀行(La Banque de l'Union de Moscou)

羅馬尼商業銀行(La Banque Commerciale Roumaine)

ソフヒア巴爾幹銀行(La Banque Balkanique de Sofia)

亞典(アゼンス)銀行(La Banque d'Athènes)

(最後の亞典銀行には「ユニオン、パリジアンヌ」の代表者二名、其重役たり)

南北米大陸

佛亞不(アルゼンチン)動產抵當銀行(La Banque Hypothécaire Franco-Argentine)

佛伯(ブラシル)財務及商業會社(La Société Financière et Commerciale Franco-Brésilienne)

墨西哥中央銀行(La Banque Centrale Méxicaine)

グユアナジユアトウ(墨西哥)銀行(La Banque de Guanajuato)

墨西哥國立銀行(La Banque de l'Etat du Mexique)

佛米財務會社(La Société Financière Franco-Americaine)

最近には其の投資し居る亞典(アゼンス)銀行及び或英國シンジケートと協力して、

「コリンス(希臘)葡萄生産及商業奬勵特許會社」(La Société Privilégiée pour favoriser la production et le commerce du raisin de Corinthe)

を創立し、又巴里和蘭銀行及び白耳義にて最古の銀行たる「白耳義一般會社」(La Société Générale de Belgique)と協力して

ビヱノス、アイレス州(亞爾然丁)鐵道會社(La Compagnie des Chemins de fer dans la Province de Buenos-Ayres)

を創立した、此會社は亞爾然丁ビヱノス、アイレス州に於て合計一千八百「キロメートル」の鐵道を布設する計畫を有するものである。又他のシンジケートと協力して「羅馬尼石油會社」及び他の一會社をも創立した。更に又「白耳義一般會社(ソシエテ、ビネラル、ド、ベルヂツク)」及びアントワープの或銀行と協力して、白耳義と公果國及び亞爾然丁間の貿易を助長する目的にて

アントワープ合同銀行(La Banque de l'Union Anversoise)

を創立し、自ら其の資本の四分の一即ち五百萬法を引受けた。其の他一九一〇年及び一九一一年に於ける重なる業務を擧ぐれば、

佛塞(セルビヤ)銀行(La Banque Franco-Serbe)

摩洛哥會社(La Compagnie Marocaine)

土地及工業貸附銀行(伯剌西爾)(La Caisse Générale des Prêts Fonciers et Industriels)

等の銀行を創立し、

露國ドーチツツ、ユウリヱウカ會社(La Société russe de Donetz-Yourievka)

の改造及び

國際護謨トラスト(Trust International de Caoutchouc)

の組織に與つて力あり、又

玖馬島西班牙銀行(La Banque Espagnole de l'Ile de Cuba)

の增資に助力し、露國モスコウ府の

ジロウ商會(La Maison Giraud)

を改造して株式會社と爲すことに盡力した。

斯くて「ユニオン、バリジアンヌ」は其の設立せる外國銀行と同盟して、普通銀行業

務を營み、多額の利益を擧げて居る、一九〇九年末の營業報告を見るに、引受（アクセプタシオン）の金額は四千六百萬法を超過して居た位である。又海外銀行との關係に依り、此等外國に對する佛國製品の輸出に貢獻する所甚だ多大である。

海外の業務斯く發展せるに拘らず、內國の業務は豫想に反して伸暢し居らず、要するに力を海外に用ゐ、却て內國に疎なるが爲ならむ。內國の投資事業は巴里瓦斯會社、巴里配電會社、其の他二三に過ぎざるが、殊に巴里配電會社設立の際は自ら多數の株式を引受けたのである。最近には鑛業調査を目的とする「鑛業協會」（L'Association Minière）と稱する會社の株式を所有せり。

其の營業狀態は本節末尾の表に依て知らるゝ如くなるが、殊に當座勘定中の當座預金と貸越當座の內譯は、營業報告に明示せざれども、預金は此銀行の後援者たる富豪なる諸銀行の預入資金ならんと思はる。發行加入額及び所有有價證券の內譯も亦明示せず。利益は漸次增進し、配當率も近年は一割を維持して居る。此銀行の背後には、信用、財力ある銀行多數ありて之を支持するが故に、克く信用を維持し、動產銀行として活動することを得るのである。近年此銀行は自ら盡力して增資せしめたる「ソシエテ、マルセイエーズ」（La Société Marseillaise）てふマルセイユにある有力なる地方銀行と聯絡を保つて營業して居る。是れ恰も巴里和蘭銀行と「ソシエテ、ゼネラル」とが相接近せる事實に類似し、近來佛國にて行はるゝ動產銀行と預金銀行との提携の一事例と見るべきものである。

「ユニオン、パリジアンヌ」營業成績表

年度	資本	積立金（繰越金加算せず）	當座勘定 當座預金	當座勘定 貸越	發行加入額（國債、株式、社債）	所有有價證券 手形	所有有價證券 受取支拂	純益	配當率	貸借對照表合計
	百万法	百万法	百万法	百万法	百万法	百万法	百万法	百万法		百万法
一九〇四年	四〇・〇	—	二七・八	二九・二	八・〇	二〇・二	一一・九	二・六	—	九八・六
一九〇五年（九ヶ月）	六〇・〇	一〇・一	六三・五	六八・四	八・八	二四・一	三一・八	四五・〇	五・四	一八九・七
一九〇六年	六〇・〇	一〇・三	七一・〇	六七・五	一一・〇	二六・七	三三・二	五九・七	七 %	一九四・七
一九〇七年	六〇・〇	一〇・七	五九・六	六三・九	一二・九	三一・八	二六・二	四九・三	八 %	一八九・九
一九〇八年	六〇・〇	一〇・九	八一・九	六九・五	一三・一	二八・九	三八・三	五九	八 %	二〇七・九
一九〇九年	六〇・〇	一七・二	九五・九	七三・九	九・一	三三・五	四六・〇	九四	九 %	二三四・二
一九一〇年	六〇・〇	一一・七	一五九・八	八四・四	一三・七	三五・八	四八・二	一四・一	一〇 %	三〇八・六
一九一一年	六〇・〇	一七・四	三一五・八	一六六・七	一三・六	三五・六	四八九	一四・五	一〇 %	四七五・八

一九一二年	六〇・〇	未詳	一六二・三	二九・二	一七五	四五五	未詳	未詳	未詳	一〇%	未詳

第三節　佛國商工銀行　一名　ルーヴイエ銀行

Banque Française pour le Commerce et l'Industrie.

一九〇一年に設立せられし新銀行である。元と萬國銀行(La Banque International)と佛國南阿銀行(La Banque Française de l'Afrique du Sud)の二行が恐慌に遭ひ苦境に陷ゐりし結果、合併したのである。後者の支配人にて後日大藏卿となりしモーリス、ルーヴイエ氏の斡旋にて組織せられ、同氏自ら頭取となりしため、人呼んで「ルーヴイエ銀行」と言ふ。ルーヴイエ氏は有力なる財務家なりしかば、其勢力を用ゐて「ソシエテ、ゼヰラル」「コントワール、ナショナル」及び巴里和蘭銀行に依頼し、株式を引受け同時に其代表者を重役會に出させることゝしたが「クレデイ、リヨネ」にも同樣の交渉を試みしが、由來「クレデイ、リヨネ」は獨立主義を持し、他銀行と提携することを好まざるを以て、株式を引受けしも、代表者を出さざりき。然かし「ソシエテ、ゼヰラル」「コントワール、ナショナル」巴里和蘭銀行等の大銀行と關係を結ぶことを得しは、確かに成功にして、此等大銀行の力を假りて大發行業務に關與せんと企てたのである。設立の資本は六千萬法にて、其内四千萬法は曩に合併せし二行の買收費なりしが、其後增資せざるを以て、資本は今尚前記の六千萬法(全額拂込濟)である。但し一株は二百五十法である。

開業匆々好景氣なりしが、程なくルーヴイエ氏大藏卿に擧げられ、頭取を辭した、而も氏に代るべき人物なかりしを以て、後日一九〇六年氏が大藏卿を辭して頭取に再任する迄は、業務自然不振勝にして、自ら發行を爲さず、唯大發行團に加入して一部の下引受を爲すに過ぎなかつた。但し其間尚數種の會社を設立せしことは認めねばならぬ。一九〇六年以來はルーヴイエ氏再任後とて、流石に氏の勢力現はれ、大に活動した。其の設立せし會社中にはハヴアナ銀行(La Banque de la Havane)、巴里瓦斯會社等あり、又巴里市内交通機關に關する諸種の企業に與り、亞爾然丁共和國政府の爲に多大の財的業務を取扱つた。其後漸次活動の範圍を擴張し、伊太利銀行(Credito Italiano)、ブラッセル萬國銀行(La Banque International de Bruxelles)及び在倫敦秘露銀行(La Banco del Peru y Londres)の株式を引受けた。殊に一九〇九年より一九一二年迄

には、左記會社銀行の設立に協力した。

土耳古企業シンジケート(Le Syndicat des Entreprises en Turquie)
(土耳古の道路修築を目的とす)

南太西洋汽船會社(La Compagnie de Navigation Sud-Atlantique)
(佛國南米間郵便航路の特權を有す)

摩洛哥一般會社(La Compagnie Générale du Maroc)

ボリビヤ國民銀行(La Banque National de Bolivie)

其の他巴里に於ける重要なる財的業務に關係せるもの亦尠からず。

然れども從來は大抵大銀行に附隨して營業したので、獨立に若くは自ら主動者となりて財的業務に當れるは、寧ろ近年のことである。即ち一九〇九年には自ら主動者となりて伯羅西爾國公債四千萬法を發行し、一九一〇年には自ら國際的資本團の主宰となりて土耳古不動產抵當銀行(資本三百萬土耳古磅)の設立を計畫し、又自ら一資本團を組織して、太西洋汽船會社(La Compagnie Transatlantique)の社債三千萬法の借入に盡力し、一九一一年には、自己の名にて土耳古政府と五十萬法の短期貸附契約を締結し、更に一九一二年には、自ら主動者となりて亞弗利加貫通鐵道調査會(La Société d'Etudes du Chemin de Fer Transafricain)を創立した。

此銀行は普通銀行業務に力を注ぐこと、「ユニオン、パリジアンヌ」よりも更に多し、而も之とて佛國内の商工業者に對する取引よりも、外國銀行に對するものが多いのである、其の取引先なる外國銀行及び内地の商工會社は此銀行に宛て爲替手形を振出し、此銀行之を引受けて融通するのであるが、其引受額は一九一二年七月末に於て四千二百三十萬法に上つて居た。又大銀行に比し預金利子を高くし以て預金の吸收を圖るため、預金は比較的多く集まり來る。預金高は、一九〇五年には四千九百七十萬法なりしが、一九一〇年には一億七千七百二十萬法に上り、一九一二年七月末には、更に二億零一百萬法餘其内九千六百萬法餘は通知預金に增加した。

「ルーヴィエ」銀行の營業狀態は頗る健全である、一九一一年正月末の狀況に依れば、要求拂預金の額一億八千六百萬法に對して、現金、預金、確實なる手形等、即時支拂に應じ得べき金額二億四千九百七十萬法ありき。一九一二年七月卅一日貸借對照表に依れば、其の所有有價證券及び發行加入額左の如し。

所有々價證券		七八、一八三、八七八、三七
發行加入額		一五、七二五、四七五、二五
合　計		九三、九〇九、三五三、六二

右の數字の內譯は其の營業報告に明記し無きが故に、詳細を知ること難しと雖も、以て其の動產銀行として活動せる狀況を察するに足る。配當率は最初四分、一九〇五年度以後五分を持續し、一九一二年度は六分なりき。積立金は一九一二年七月末にて七百三十萬法餘なりき。創立後業務着々發展し、今日は既に信用ある銀行となつて居る。但し前節の「ユニオン、パリジアンヌ」に比すれば、其の業務の程度遙かに低く、固より同日に論ずるを得ず。

第四節　佛國動產銀行

Crédit Mobilier Français.

一九〇二年に創立せられ、同じく新銀行である。而も實は往年ペレイル兄弟の創立せし「クレデイ、モビリエイ」の後身にして、同行が一九〇二年愈解散するや、其五百法株一個を一百法株一個と代へ、其業務を繼承したのである。此際「資本家事務局」(Office des Rentiers)と名くる小銀行ありしが、財政困難の爲め、遂に此銀行に合併した。此銀行の株式は前記の如く最初一株百法なりしが、一九〇八―九年度より五百法とした。資本金は當初僅に七百五十二萬五千法なりしが、一九〇五年一千萬法に、一九〇六年二千五百萬法に增加し、其後業務の發展に伴ひ、一九〇九年四千五百萬法に、一九一〇年六千萬法に增加した。其後又々增資して現在は八千萬法である。

此銀行はペレイルの銀行の遺蘗にして、純然たる動產銀行である。當初は微々振はず、近年漸やく巴里財界に重んぜらるゝに至つた。一九〇五―六年、有力なる財務業者タルマン商會(Thalmann et Cie.)と親密なる關係を結び、同商會の幹旋にて南米に關する重要なる財的業務を得、之と協力して資金募集に當り、幸に成功した。一九〇九年漸やく巴里和蘭銀行に接近し、之に附隨して大發行團に加はることを得、之より漸やく財界に認められるゝに至つた。前記一九〇九年中塞爾比亞國四分半利公債の發行あるや、始めて巴里有名なる發行銀行の仲間に加はり、其の業務の一部に關係せしが、之に依て新業務を得ると同時に、自己の地位信用を高むる機會に接し

たのである。然れども他の財務銀行に比すれば、尚遜色あるを免れず、其の關係せる發行物も、最初は他銀行の取扱ふものに比すれば、稍劣等なる嫌があつた。

營業年度は毎年六月末日を以て終了するが、今最近の事實を見るに、一九〇八―九年度には、比較的に多數の發行を爲せり、其の重なる發行物左の如し。

ビユエノス、アイレス州（亞爾丁）四分半利及び五分利州債

サンタ、フエ州（亞爾丁）六分利州債

伯羅西爾國政府保證付同國ゴヤツズ鐵道社債

一九〇九―一〇年度には、サン、サルバドル國公債四千五百萬法と伯羅西爾國公債一億萬法を發行し、又自ら一資本團の主動者となりて、土耳古公債一億五千萬法の發行につき土耳古政府と交渉を重ねしが、佛國政府の反對に遭うて頓挫した。一九一〇―一一年度には

ボリビヤ國公債三千七百八十萬法

ミナス（伯羅西爾）鐵道社債三萬口

佛國海外鐵道會社（Cie. Française de Chemin de Fer à l'Etranger）社債三萬五千口

を發行し、米國セント、ルイ鐵道會社々債の發行に關係し、又或瑞西國鐵道會社の創立にも關與した。一九一一―一二年度には、再度ビユエノス、アイレス州四分半利州債二千五百萬法を發行し、

伯羅西爾國四分利公債六千萬法

亞爾然丁國四分半利公債三億五千萬法

ビユエノス、アイレス電氣會社々債

バヒア（亞爾然丁）商港會社々債

の發行に參加し、

彼得具羅土商業銀行（La Banque de Commerce Privée de Petrograd）

アントワープ銀行（Crédit Anversois）

其他露國銀行二三の增資に助力した。

現在自ら投資し居る事業の重なるものは、右の彼得具羅土商業銀行を始めしと、「アルゼリア及チユニス不動產抵當銀行」「巴里配電會社、ポルト、リコ鐵道布設を目的とする或西班牙會社、外國の不動產抵當銀行二種等である、以上の外にペレイルの

「クレデイ、モビリエイ」の遺産として、太西洋汽船會社(La Compagnie Générale Transatlantique)の利益金より三百二十萬法を差引きたる殘額の二割五分を取る權利を繼承して居るが、此會社の成績近來良好なるを以て、之が爲め相當の收入を得て居る。

他の動產銀行と同じく、傍ら普通銀行業務をも營み、割引貸附、「ルポール」を扱ひ、預金を取り、取引所注文を取次ぐ。

一九一二年六月卅日締切貸借對照表に依れば、其の所有有價證券及び發行加入額左の如し。

所有有價證券(國債、株式、社債)	二七、七二一、一八三・七〇(法)
發行加入額	九、七〇二、五一七、七三
合計	三七、四二三、七〇一・四三

右の數字は「ルーヴイエ」銀行のそれに比すれば半額にも足らざれども、尙以て此銀行が相應に動產業務を營み居ることを窺ふに足る。但し有價證券及び發行加入額の內譯は明かならず。尙前記貸借對照表に依れば、預金は一億二千二百五十萬法其內三千六百萬法は期限付預金にして、積立金は九百十萬法であつた、配當は此數年間七分を維持して居る。近來顯著なる發展を爲したれども、其の營業の程度は「ルーヴイエ」銀行に比して遙かに下位に居る。

第七章　地方銀行

緒言

第一　地方銀行存續の理由

第四章に於て三大預金銀行を叙述せる際、一言し置ける如く、銀行集中は方今文明國一般の趨勢にして、佛國に於ても「クレデイ、リョネ」「ソシエテ、ゼネラル」「コントワール、ナショナル」の三銀行が支店を全國要地に設置し、大に其の營業範圍を擴張せし結果、此等大銀行の手に銀行業務を集注せしむる傾向となつた。然れども地方銀行は之が爲めに全然滅亡せずして、其の多數は今日尚存續し、中には益其の業務を擴張せるものもあり、是れ果して如何なる理由に基づくや、今少しく之を研究せん。

第一の理由は、三大預金銀行の章に言及せる如く、佛國大銀行の政策が、地方銀行合併主義にあらずして、唯其支店を地方に設置し、地方銀行と並行して、營業せしこ

とである。勿論之が爲め小資本の地方銀行は、中央大銀行の競爭に堪へずして、自ら廢業せしが、有力なる者は尚此間に介在して、而も新事情に適應する方策を取り業務を擴張したのである。英國及び獨逸にては、中央大銀行が地方に支店を開き遂に之を合併し、或は最初より地方銀行を併せて自己の支店と爲したので、其の政策は合併主義であつた。之に反して佛國は競爭主義なりしを以て、競爭に堪へざる者は自然廢滅せしも、之に堪ゆる者は存續することを得たのである。勿論佛國大銀行が地方銀行を合併せし事實は無きに非ずと雖も、其の件數は極めて少し。合併を爲せしは、主として「コントワール、ナショナル」なるが、今其の事實を指摘すれば、同行は一八九〇年ボルドウ市のラファルグ商會（Lafargue et Cie.）を合併し、一八九三年マザメ市のジー、フールジュニェ商會（J. Fourgenié aîné）及びトウルーズのオザンヌ商會（Ozanne）を合併し、一八九五年ルーアン市のルーアン銀行（LaBanque Rouennaise）、一八九六年コンニヤック市のデウヴアル商會（Duval et Cie.）、一八九七年同じくコンニアック市のドレジニェ商會（De'egimier）、一九〇三年モント、カルロウのスミス商會（Smith）、一九〇四年トロワイエのメリリオン、ヴイニュ商會（Merillion etVignes）を合併し、何れも

自己の支店とした。此以外には、クレデイ、リヨネ」がグルノーブル市の私立銀行なるゲイヤール商會(Maison Gaillard)を合併せしのみにて、以上が中央大銀行が地方銀行を合併せし事實の全部である。佛國大銀行は斯の如き態度を持し、敢て求めて合併を謀らざりしが故に、其間競爭に堪ゆる資力ある地方銀行は自ら存續するのである。

第二の理由は、地方銀行は其の特種の任務を有することである。之は英國、獨逸又は其の他の邦に於ても同樣なるが、地方銀行は其の所在地方と特別の因緣あるものなれば、縱令小銀行とはいへ、尙地方特種の業務に服し、其の存在の理由を發見することを得べし。今、佛國に就て言はんに、中央大預金銀行の地方支店に於ては、其の所在地方にて集むる預金は必らずしも之を其の地方に投下せず、業務上の聯絡ある限り縱令遠隔の地にても資金の必要ある所に之を投下し、以て營業上有利なる方策を取るのであつて、要するに地方的因緣を離れ、其の宏大なる機關を利用し、全國に亘りて營業するのである。之に反して地方銀行は營業範圍が一地方に局限せられ居るため、其の地方の資金を以て其の地方の發達に必要なる商工業に資本を供給す、即ち地方的に營業するものにて、而も小規模の業務を爲し、小額資金の需要に應するのである。此點に於て中央大銀行と地方小銀行とは、兩々相對立すべき各自の營業範圍を有して居ると謂ふことを得べし。加之、其の營業振に於ても、中央大銀行の支店と地方銀行とは、自ら異同あり、中央大銀行の支店は、勿論多額の資金を有すと雖も、其の支店支配人は重大事件に就ては、一々本店に報告し、其の指圖を待たねばならぬ、又彼は地方の事情に通ずること到底地方銀行當局者に及ばざるを以て業務に當るにも多少の考慮と調査を要す、隨つて相等の時間を經過せざれば決斷を下し難し。然かも地方銀行にては、重役、支配人何れも現場に在り、且つ地方的事情及び取引者の個人的狀態を知悉するため、迅速に決斷を下すことを得べく、隨て地方的事情を有する商工業の資金需要に應する點に於て、前者よりも敏活なるべきは、自然の數である。是れ地方銀行が特種の任務を有すと言ふ所以である。

第二　地方銀行の發達

中央大銀行の支店增加すると共に、微力なる地方銀行は漸次壓倒せられ其の迹を絕ちしが、地盤鞏固にして競爭に堪ゆるものは、其の間に介在して尙克く發展し、

地方金融機關として、方今佛國銀行系統中の一要素となつて居る。現今地方銀行は約六百あり其の店舗は本支店を合して一千を超え、其の資本は合計十七億法に上る、故に優に佛國金融界の一勢力たるを失はず。

大預金銀行が其の勢力を地方に扶植すると同時に、地方銀行は之と競爭する爲め、從來の方針を改め、新事情に適應する手段を取らざるに至りしは、自然の勢である。是に於てか其の有力なる者は、漸次資本を增加し、中央大銀行が其の業務を地方に及ぼせしと同じく、地方の一小區域より進んで大區域に其の業務を擴張し始めたのである、佛語にて「ロカール」[local]は一市内、又は一小地方の意にして、「レジオナール」[Régional]よりいへば、一地方即ち東部、南部といふが如き大區域を指すのであるが、今此等地方銀行は「ロカール」の銀行より進化して「レジオナール」の銀行となつたのである。而して中央大銀行が地方銀行を合併せしこと比較的に寡少なるに拘らず、此等大地方銀行は却つて小地方銀行を買收して、漸次に其の營業區域を擴大して來た、是れ亦一種の銀行集中である。其の實例を擧げんに、東部に於ては、普通「ソシエテ、ナンセイヤンヌ」と略稱する「ナンシイ工業信用及預金會社」(Société Nancéienne de Crédit Industriel et de Dépôts)、「ルノール銀行」(Banque Renauld)、「ナンシイ銀行」(Banque de Nancy)、「コントワール、デスコント、ド、ナンシイ」(Le Comptoir d'Escompte de Nancy)の四行は、資本合計一億三千七百五十萬法を有し、漸次同方面の小地方銀行を買收して其の營業を合併した。北部に於ては北部銀行(Le Crédit du Nord)、北部大地方銀行(La Banque Régionale du Nord)、アダム銀行(La Banque Adam)の三行にて、資本合計九千萬法を有し、專ら此方面の事業に投資して居る。西南部に於てはボルドウ銀行(Banque de Bordeaux)は資本一千六百萬法を有し、小地方銀行八種を買收して其の業務を繼承した。中央部なる里昂に於ては、「バンク、プリヴェイ」(Banque Privée Lyon-Marseille)及び、「ソシエテ、リョネーズ」(La Société Lyonnaise)の二行大に業務を擴張し、南部マルセイユにては、「ソシエテ、マルセイエーズ」(La Société Marseillaise)が、小地方銀行より發達して今日は有力なる大地方銀行となつて居る。斯くして各部に於て其の地方一圓に亘つて營業する大地方銀行が並立對峙する形勢となつたのである。

此等大地方銀行は、何れも其の所在大地方の商業に資金を供給して居るが、既記の如く中央大銀行支店に比しては、地方的事情に精通し、又決斷迅速なるを以て、大

に地方經濟界に稗益することを得べく、隨て地方的有價證券に關する業務に與かり、地方會社の株式社債を發行し、又自ら地方事業に投資して居る。其の後業務の擴張と共に時々佛國全體に亘る國民的有價證券と謂ふべき大會社の株式社債にも投資するに至り、近來殊に外國有價證券にも投資する傾向を生じて居る。之に就ては或は批評する者あり、地方銀行の任務は地方商工業の發達に資すべきものにて、而も地方商工業の金融を要求するもの多々あるが故に、外國有價證券の投資抔は、其の營業範圍外に在るべきものであると主張す。理論に於ては間然する所なしと雖も、近來中央大銀行が盛に外國有價證券を發行し、其の地方支店を通じて之を全國に賣出すが故に、地方銀行が此勢に乘じて、內地有價證券に比し利廻良き外國有價證券に投資するに至るは、蓋し自然の勢である。

其の後大地方銀行の發展顯著にして、既に外國有價證券にも投資するに至りし程なれば、巴里の大銀行と競爭する爲め、自然中央市場と密接なる聯絡を保つの必要あるを以て、彼等自ら巴里に支店を置くに至つた。ボルドウ市の「ボルドウ銀行」、リール市の北部銀行(トラヴェ・デュ・ノルド)及び、リール銀行」(Banque Lilloise)、里昂市の「バンク、プリヴェ」及び舊アルサス州ミユルホウズ市(獨逸名にてミユルハウゼン)の「ミユルホウズ銀行」(Banque de Mulhouse)其の他多數は今日夫々巴里に支店を有して居る。是は中央大銀行の地方的分布に對する地方銀行の中央集注である。

加之、地方銀行が中央と聯絡を保つべき一機關が別に設けられた。一八九九年、地方大銀行等聯盟して、一團體を組織し、委員を巴里に置き財界及び商工事業界の調査を爲し、其の會員たる地方銀行に報告し、巴里に於ける有價證券の發行に加入せしむることゝした。此團體を地方銀行協會(サンヂカ・デ・バンク・レジヨナル)と呼ぶ。要するに地方銀行組合の設立せる中央調査機關に外ならぬ。其の目的は同協會規約第四條に示す如く、一會員に財的業務に關する報道を與ふること、(二)會員の關係すべき財務上及び工業上の事項を研究調査すること、(三)會員をして新設會社の組織に關係し其の株式を引受けしむる爲め諸般の便宜を與ふること、四會員の發行加入の爲め有利なる條件を獲得することである。然かし此協會は何處の地方銀行にても會費を納むれば自由に入會することを得るを以て、別に鞏固なる團結とは謂ふことを得ず。其後の狀況を示せば、一九一一年には會員銀行數は四百以上、其の包有せる銀行店舗數は一千二百

に達し、地方銀行の有力者なる「ソシエテ、マルセイエーズ」「バンク、ブリヴェ」「北部銀行」「ソシエテ、ナンセアンス」及びアルサス州の銀行を始め、地方銀行の大多數は之に加盟し、巴里の銀行にて加盟したる者さへあつた。地方銀行は此機關に依り餘程便利を得たのである。即ち之に依て巴里市場に於ける發行業務の形勢を知り、投資の機會を得らるゝため、佛國は勿論外國の有價證券にも投資するの便宜あるのみならず、又地方有價證券を巴里にて發行し、且つ他日地方にて高値に賣放つ見込ある有價證券を巴里市場にて買入るゝ等、諸種の業務を爲すことを得るのである。

然れとも地方銀行協會は、單純なる調査機關に過ぎず、其の行動の範圍制限せられ居るため、未だ以て充分に地方銀行の資金を活用する手段を見出すことを得ず。地方銀行として中央市場に於て敏速に發行業務を營み、而も自ら發行保證者となるには、一層具體的に地方銀行を代表する機關を要す、換言せば單に調査機關に非ずして、權力ある實行機關を要するのである、是に於てか前記の地方銀行協會の實行機關として、地方銀行團の代表者たるべき中央金融機關を巴里に設置した、實に一九〇五年のことにて、此銀行を「地方銀行中央會社」(La Société Centrale des Banques de Province)と呼ぶ。當初の資本は少額なりしが、今日は一億法に達し、佛國有力の銀行となつて居る。其の目的は有價證券を發行し、之を地方に賣出すに在るが、現今は外國有價證券を取扱ふこと多く、又之に依て大に利益を擧て居る。此銀行は地方銀行の一として、本章第七節に叙述するを以て、此には詳說せず。

大小地方銀行の總數は約六百なれども、其の多數は一小區域の金融機關にて、其の資本は甚だ小額である。其の内拂込資本五百萬法以上のものは少數なるが、其の内より更に拂込資本一千萬法以上のものを擇べば、僅々十餘行に過ぎず。今此十數行の内重要なるものを取り、夫々其の所在地方に依て區別し、第一節以下に略叙せん。其の性質は大體に於て預金銀行なるが、唯其の程度に於て純正の預金銀行なるもあり、又其の他の業務を多く加味せる者もあれども、元來一地方の金融機關なれば、一般普通の銀行業を營むのであつて、必要上何れも地方的發行業務に關係す、故に必ずしも嚴重に預金銀行、動産銀行等の名目を以て分類するには及ばず。但前記の「地方銀行中央會社」のみは特別にして、其の創立の目的既に發行業務に在るを以

て、自然純正なる動産銀行である、此銀行は巴里に設置せられて居るが、元來地方銀行の代表機關にて、性質上地方銀行であり、且つ其の業務も特種の性質を有するを以て、他と區別して最後に叙述せん。

第一節　巴里「クレデイ、アンデウストリエル」

La Société Générale du Crédit Industriel et Commercial.

地方銀行中最重要なるものにして、首府巴里に設置せられ居るも、夫の大銀行の如く地方に支店を有せざるを以て、寧ろ巴里地方の銀行と認むるを可とす。地方銀行の文字は此の銀行には少しく不適當なるが、地方的銀行の意に解すれば意義自ら明瞭ならむ。此銀行は屢次第四の大預金銀行と稱せられ「クレデイ、リヨネ」「ソシエテ、ゼチラル」「コントワール、ナショナル」と並稱せらるゝことあれども、そは此銀行が巴里に在りて、前記三行と同じく預金銀行業務に從事する爲めにて、實際に於ては三大銀行とは趣を異にし、地方に支店なく、其の資本遙かに少額にして、業務の範圍亦同日に論ずべからざるを以て、寧ろ首府にある地方的銀行として此に掲ぐるを適當とす。

一八五九年に創立せられ、株式會社である、其の名稱は表題原文に示す如くにて、直譯せば「商工金融會社」の意なるが、一般に「クレデイ、アンデウストリエル」Crédit Industriel)と略稱す。其の本性は預金銀行である。資本金は最初六千萬法四分一拂込なりしが、一九〇〇年に八千萬法、一九〇六年一億法四分一拂込に增資した、即ち現在の資本額である。其の當初の目的は一八六〇年創立勿々の株主總會に於て報告せられし如く、『資本家の嚢裡に不生產的に死藏せらるゝ資金を吸集し之を生產的に使用して、短期商工資金たらしむる』のであつて、恰も英國の株式組織銀行と同一方針を取つたのである。然かし永く此方針を持續することを能はず、自然佛國銀行界に行はるゝ、動產業務其の他に關係するに至りしが、然も之とて疾くより「クレデイ、リヨネ」に倣ひ、謹愼なる營業方針を取り來り、縱令財的業務に關係するにしても、餘程警戒して之に臨むのである。

此銀行は其の政策として敢らに地方支店を設置せざるを以て、其資本金も比較的少額にて足るのである、然かし創立以來既に五十餘年を經過せるを以て、積立金

は割合に增加して居る、一九一二年十二月卅一日現在では、積立金額が二千一百五十萬法に上つて居る、地方支店を設けざれども、地方銀行中、巴里に支店を有せざるものと特別關係を結び、此等地方銀行は巴里の業務を「クレデイ、アンデユストリエル」に委托し、「クレデイ、アンデユストリエル」は又巴里の大發行物中、自己の引受額の一部を此等地方銀行に下引受させて居る。

地方銀行の創立に關與せしこと少からざれども、而も其の方針は長く之に關係することを避くるに在るを以て、其の設立せる地方銀行の株式は、相當の時機に於て之を賣拂ふを常とし、且つ其の創立せる銀行の重役會に自己の代表者を出さず、是れ「クレデイ、リヨネ」の營業方針を學んで居るのである。隨て其の所有有價證券の金額は多大に上らず、其の積立金の半額を超ゆること極めて稀である。

斯く地方には支店を置かざれども、巴里及び其近郊には之あり、蓋し大銀行に對抗する必要上已むを得ないのである。而も此等巴里及び近郊の支店は漸次增加し來り、一九一三年一月末に於ては、合計五十二なりき。外國には一八九五年以來倫敦に一支店を有するのみにて、他には無し、但白耳義との取引自然多きを以て、其の關係ある地方銀行多數と協戮して、一九〇二年同盟銀行として白耳義に「白耳義工業金融會社」(La Société Belge de Crédit Industriel)を設立した。

其の業務は、普通銀行業一般に亘り、割引、貸附、手形の支拂、取立及び引受、預金取扱、ルポール、保護預り、取引所注文取次等にして、同時に佛國銀行一般の慣例に隨ひ有價證券の發行、應募等を行ふ。其の預金利子は大抵、當座年五厘、七日通知預金年一分、六個月定期預金年一分五厘である、勿論六箇月以上の定期預金も取扱ふ。但し定期預金は大體に於て多額に上らず。創立以來の營業狀態は、大約左表に示すが如し。

年次(毎十二月卅一日)	預金手形 百万法	七日通知預金 百万法	當座預金 百万法	當座貸越 百万法	引受 百万法	年度中の割引手形 百万法
一八六〇年	一六・七	—	—	—	—	—
一八七二年	一八・二	二・八	二七・二	一三・一	二・三	—
一八八〇年	四二・二	五・九	六〇・一	三三・〇	五・八	八二二・八
一八九〇年	四二・一	二五・五	五四・九	一八・六	一〇・六	一二九二・九
一九〇〇年	四四・九	三一・八	五二・五	一九・六	一八・三	一、五七〇・九
一九一〇年	六三・四	三五・二	一一三・八	二三・五	二六・一	一、一三七・七

一九一一年	六〇·〇	三九·三	一〇五·五	二三·七
一九一二年	六六·五	四九·九	九七·六	二九·二
一九一三年	二〇·八	一、〇九〇·五	三〇·〇	—

其の資金潤澤にして、而も流動的に投下せられ居るを以て、直に預金の引出に應ずる力あり。今最近三個年に於て要求拂金額の合計と、現金、預ケ金手形、ルポール、有價證券擔保貸附等迅速に支拂に應じ得べき財源の合計とを對照せば、左の如し。

	要求拂金額合計	支拂財源合計
	百萬法	百萬法
一九一〇年	二一三	二二七·三
一九一一年	二一四·五	二二六·八
一九一二年	二三九	二二五·二

斯く其の狀態健全にして、預金銀行として理想的なるが故に、世間の信用厚く、評判も亦良し。其の他巴里に現はるゝ大發行物には、大抵關係せざるものなく、其の發行物を賣出す能力も亦多大である。

當初は多額の配當を爲し、一八六四年度の如きは、百二十五法拂込の一株に對し二十五法五十賛を配當せし程なりしが、其の後減少して、一九〇〇年には十二法の配當となつた。最近十年間には利益又々增加し來り、近年十五法即ち一割二分の配當率を維持して居る。其の株式の相場は高く、一九一三年三月一日の現物取引相場は、百二十五法拂込株が七百十法の高値を唱へたりき。

此銀行の特色は、恰も家族的なるに在り。其の取引客は此銀行と個人的因緣に結ばれて永く變らず、其の取引狀態も亦變化少なく、殆んど永久的である。又其の頭取、支配人、秘書役長等は、何れも舊大藏省官吏にして、相互に個人的交誼あり。行員は大抵地方人にて、其内には同地方の出身者もあり、其の人格は醇樸にして相互に懇親である。

第二節　中央部＝里昂

第一　「バンク、プリヴエ」

La Banque Privée Industrielle, Commerciale, Coloniale, Lyon-Marseille.

其の名稱は原文の如く長く「里昂及馬留塞商工殖民私立銀行」の意なるが、普通は

原名最初の二字を取つて「バンク、プリヴエ」と略稱す「バンク、プリヴエ」とは私立銀行の意なれども、實は依然株式會社である。本店を里昂に、支店を巴里、馬留塞以下の大都會に置き、有力なる地方銀行である。預金銀行にあらずと斷言すること能はざれども、其の主として取扱ふ所は財的業務である。

一八四八年革命時代に創立せられし里昂割引銀行(Comptoir Lyonnais)より產まれしものにて、一八九八年に設立せらるる。最初の資本は四百萬法なりしが、後、一千萬、二千萬と順次增加し、一九一二年五千萬法(全額拂込)となつた。卽ち現在の資本額である。但し其株式は一株四百法にて、無記名式である。支店は中央部及び南部の要地に設けられ、合計九十七の多數に達す。里昂馬留塞間の商業關係親密なる爲め、自然此兩市に亘る業務多し。名譽頭取ポニアトウスキー公爵は、露國の產なるを以て、此銀行と露國政府との關係自ら親善にして、露國の財的業務に關係すること頗る多大である。其の株式は巴里及び里昂の兩取引所に係けられて居る。

地方的工業會社を創立せし事例少からず、而して其代表者を此等會社の重役會に出して居る。一般財的業務に關係せること亦少からず、殊に巨額の財的業務に關係し、而も外國物多く、瑞典公債、露國鐵道社債、米國鐵道社債等あり、一九〇六年には露國公債に應募し、又伊太利公債の借換にも與かつた。重要都市に支店多き爲め、資出力も亦多大である。

然れども往年は其の營業振不謹愼にして損失を招き、又資本の固定を來せり、一九〇八年末に於て、要求拂金額七千四百萬法に對し、卽時回收し得べき金額の合計は、四千五百萬法に過ぎざりし位である。故に一九〇九年三月改革を斷行し、一旦減資し、後改めて新株を發行し、又々二千萬法に增資した。而して利益金は之を損失の補塡に充て、一九〇八年の如きは、配當を二分に止めしが、改革の結果、翌一九〇九年には早く旣に五分の配當を爲すに至り、漸次健全なる狀態となつた。一九一二年十二月卅一日締切貸借對照表中重要なる數字左の如し。

	百萬法
割引手形	四一・六七
有價證券及び商品擔保貸附	二三・一八
當座貸越	八一・五二
所有有價證券	七・三八

發行加入額	八・五一
預金	一〇二・八三
純益	二・二八
配當率	五分

當座貸越が多額に上れるは注意すべく、又商品擔保貸附額は「有價證券及び商品擔保貸附」の項目に含まれて居るが、其の金額も亦少からず。マルセイユにては、輸入原料品に貸附け、里昂にては絹物に貸附け、殊に銀行自ら絹物倉庫を持て居る。

發行及び賣出は、此銀行の重要業務である。近年巴里和蘭銀行と同盟し、巴里和蘭銀行は此銀行の株式多數を買收し、代表者を其の重役會に出して居る。之が爲め此銀行は最大財務銀行たる巴里和蘭銀行の發行業務に加入することを得ると共に、自己の發行業務に就て其の助力を受ることを得ることゝなつた。佛國財界に於ける「バンク、プリヴエ」の位地は此同盟に依て大に高められたのである。

第二一 「ソシエテ、リヨネーズ」

La Société Lyonnaise de Dépôts, de Comptes Courants et de Crédit Industriel.

原名は、里昂預托、當座勘定及工業金融會社」の意なるが、單に「ソシエテ、リヨネーズ」と略稱す。組織は株式會社にて、本質は預金銀行である。本店は里昂に在り、支店、出張所數個所、同市内にありて、市外には無し、故に其の業務は里昂市内に限られ、大地方銀行とは謂ふことを得ず。一八六五年に設立せられ、當初の資本は二千萬法にて、後一旦五千萬法に增資し、一八八六年減資して三千萬法四分一拂込とした、即ち現在の資本額である。其の株式は里昂取引所に掛けらる。

減資以後は一層謹愼なる營業方針を取り來つた、里昂が佛國の重要都市たると、此銀行が一小金融機關なるに拘らず、信用を有するとに依り、預金も一時多額に上りしが、近年大銀行の競爭の爲め大に減少せる傾向である。由來里昂は「クレデイ、リヨネ」の根據地にして、其の勢力絶大なると、前項に掲げし「バンク、プリヴエ」の競爭とあるを以て、大に壓迫を受るのである。故に廿五年前には、預金總額七千萬法なりしが、一九一二年末には四千萬法に減じて居た、而も尙拂込資本の數倍である。

一九一二年十二月卅一日締切貸借對照表中重要なる數字は左の如し。

割引手形	三五・一一（百萬法）
有價證券及び商品擔保貸附	一一・三九
預金	四〇・二九
純益	一・五六
配當率	一割一分強

此銀行は一小地方銀行に過ぎざれども、其の重役は大抵里昂及び附近の大工業會社の代表者にして、自然此地方に信用を有し、且つ預金業務に重きを置くを以て、特に此に掲ぐ。

第三節　東部――ナンシイ

「ソシエテ、ナンシエンヌ」

Société Nancéenne de Crédit Industriel et de Dépôts.

原名は「ナンシイ工業金融及預金會社」なるが、「ソシエテ、ナンシエンヌ」と略稱す。株式會社にて、本質は預金銀行である。一八八〇年資本一千六百萬法半額拂込にて創立せしが、一八九九年に二千萬法、一九〇四年に三千萬法、一九〇七年に五千萬法、一九一二年末に一億法四分一拂込に增加した、卽ち現在の資本額である、其の公稱資本は巴里の「クレデイ、アンデウストリエル」と同額にして、地方銀行中第二位に在り。資本に於て第一位を占る地方銀行は第四節に述べんとする「北部銀行」である、「ソシエテ、ナンシエンヌ」の本店は、東部の最重要都市なるナンシイに設けられ、其の支店は、東部一圓に開かれ、其の數三十三である。

東部は工業盛大にして、殊に鐵鑛の產出多く、此地方のみにて佛國產鐵額の殆んど全部を供給する位なれば、一般に殷富にして、工業會社の數も亦甚だ多し。隨て商取引高も自然多額に上り、銀行業は繁忙である。扨て此地方の銀行家の代表者等、佛蘭西銀行に集會し、東部の爲めに手形交換機關を設置することを協議せし位である、此協議は今尙具體的の結果を示さざれども、一般に信ぜらるゝ所に依れば、巴里に手形交換所の制度に倣うて、手形交換所をナンシイに創立するに至るは、遠き將來にあらざるべしといふ形勢既に此の如くなれば、獨り此銀行に限らず、佛領ローレンヌ州地方の銀行は、何れも皆業務繁多である。

此銀行は、東部地方の鑛業會社多數の創立に關與し、又其の他の工業及び鐵道會社の創立及び擴張に盡力した、要するに此地方の狀況が自然此種の財的業務を産出するのである、然れども此銀行は、主として預金銀行の業務に携はるが故に、其の營業は相當に繁多にして、拂込株金二千五百萬法を以ては、營業資金に不足を感する程である。一九一二年末に於ては、株金二千五百萬法に積立金一千五百八十萬法と預金とを加へて、尙其の營業資金に不足を告る狀況であつた、蓋其の業務が斯く繁忙なるは、同行が此地方の小銀行多數を買收合併し、自然其の營業區域を擴大せしことも亦一原因を成して居る、其の合併せる銀行中には、由緒あり信用あるものもありしが故に、其の業務を繼承するのみにても、相當に繁忙を告るのである、而して此地方が殷賑なる工業地にして、此銀行の支店が既記の如く、三十三の多數に達せることも、亦他の一原因である。

一九一二年十二月卅一日締切貸借對照表中重要なる數字は左の如し。

割引手形	一四・九（百萬法）九
有價證券及び商品擔保貸附	四九・五八
當座貸越	八九・五八
所有有價證券	四・八一
預金	一一九・八五
純益	二・六三
配當率	一割

所有有價證券は右の如く四百八十萬法餘あれども、發行加入額は絶無なり以て財的業務に關係すること比較的少きを知るに足る。一割の配當率は多年間持續せられ、其の營業成績は良好なり。

巴里に支店を有せざる爲め、「クレデイ、アンデウストリエル」と聯絡を通じて、巴里に於ける業務を營んで居る、又リール市の北部銀行（クレデイ、デウ、ノルド）、マルセイユの「ソシエテ、マルセイユーズ」及び里昂の「ソシエテ、リヨネーズ」とも密接なる營業關係を保つて居る。

一九一四年八月以來の歐洲大亂の際、東部産鐵地は永く獨逸軍の占領する所となりしため、此地方工業の損害甚だしく、隨つて此銀行の營業上の損失も亦少からざると察せらる。

第四節　北部銀行＝リール

北部銀行
Crédit du Nord.

株式會社である、其の性質は、預金銀行にして、財的業務を取扱ふこと少し。一八四八年革命の際、リール市に設置せられし「コントワール、デスコント」に其源を發し、一八六六年之を改造して今日の組織としたので、由緒ある銀行にて、北部地方にては最も有力である。本店はリール市に在り、支店數は二十七に達し、巴里を始めとし、北部の重要市邑たるアミアン、アラス、ルーベイ、ヴァランシエンス、ダンケルク、ルーアン、アーブル等に設けられ、其の勢力はノルマンデイ地方にも及んで居る。資本金は、漸次增加せられ、一九〇〇年に二千萬法より三千萬法に增し、一九一〇年に六千萬法となり、一九一三年二月、一億法と爲し、更に同年九月、同じくリール市の個人銀行「アンリー、ドヴイルダ」商會 Banque Henri Devilder et Cie.)を買收する爲め、一億二千五百萬法四分一拂込」に增加した、是れ現在の資本額である。地方銀行中公稱資本多額なるは、巴里の「クレデイ、アンデユストリエル」「ナンシイ市の「ソシエテ、ナンシエンス」及び此銀行とであるが、前二者は一億法にして、此銀行のみ一億二千五百萬法に達し、地方銀行中第一位を占て居る。

北部地方は殊に毛織物工業盛大にして、ルーベイ市は實に其の中心である、同市に於ける工場數は二百以上にして、平年使役する職工は五萬乃至六萬に達し、同市にて生産する毛織物は一年二億法に上ると稱せらる、其の他此の附近にて生産する毛織物が、ルーベイに集まり染色又は仕上げらるゝもの、一年に七千五百萬法乃至一億法に上るといふ、形勢此の如きを以て、原料の買入、仕上品の賣出等の關係よりして、手形割引業務自然に多く、之が爲め此銀行が利益を享ること亦多大である。故に「北部銀行」は其の定款にも明記せる如く、手形割引を第一の業務とし、擔保貸附、預金、當座貸越、取引所注文取次等は、寧ろ第二として居る。而してルーベイを始め、此地方の工業地に支店を設置せるため、其の業務は餘程盛大にして、一九〇〇年より一九一一年迄の十年間に於て、其の總收益は十五割方、純益は二十五割方增加した。是れ其の營業が健全に而も迅速に發展せることを示すものである。

一九一二年十二月卅一日締切貸借對照表中重要なる數字左の如し。

割引手形	五二・六四（百萬法）
有價證券及び商品擔保貸附	六二・四〇
當座貸越	四二・三二
所有有價證券、發行加入額及びルポール	二・二四
引受	一八・七七
預金	一〇七・一二
純益	四・〇五
配當率	一割五分餘

配當率は一九〇〇年の四分より順次增加して、一九一〇年は一割四分餘となり、一九一二年には前記の如く一割五分を越えたのである。

今日迄存續せる地方大銀行中には、往々多額の資金を固定させて居るものあれども、此銀行は正反對にて、常に其の資本を流動的に用ゐ居るを以て、要求拂金高に對する回收迅速なる資金は常に多大である。必らずしも地方的發行業務に關係せざるにはあらざれども、由來北部地方の傾向として、發行物少きを以て、此種の業務自然に少く、唯此地方の會社數種の株式を所有し、此等會社の爲め發行を爲すのみである。此銀行の信用多大なることは、同行に預入れらるゝ有價證券の時價が、一九一二年十二月卅一日に於て、總計二億八千四百萬法と見積られしことを見ても明白である。其の株式の市價は甚だ高く、一九一三年十月、リール取引所に於ける現物相場は、百二十五法拂込にて八百八十四法の高値を唱へし位である。

其の後一九一四年八月以來の歐洲戰亂の際、リール市及び其の附近地方は久しく獨逸軍に占領せられ、且つ獨逸軍の爲めに屢次寄附の强制及び掠奪に遭ひしを以て、此銀行の損害も決して些少ならざりしと思はる。

第五節　南部――馬留塞

「ソシエテ、マルセイエーズ」 La Société Marseillaise de Crédit Industriel et Commercial et de Dépôts.

原名は「馬留塞商工金融及預金會社」の意味なるが、單に「ソシエテ、マルセイエーズ」と略稱す。株式會社にて、預金銀行と財務銀行の兩性質を兼備し、マルセイユの本店

は預金銀行業務を營み、巴里支店は主として財務銀行業務を營んで居る、故に人以て動產銀行と爲すものもあり。マルセイユを本據とする大地方銀行である。

一八六五年マルセイユに創立せられ、最初の資本金は三千萬法(五百萬法拂込)なりしが、一八八〇年巴里支店を設置すると共に、六千萬法四分一拂込)に增資せり。然るに其の後損失の爲め四千萬法半額拂込)に變更し、一八八九年更に三千萬法半額拂込」に減少した。一九〇〇年には巴里支店が發展の徵候を示し來り、業務增加せるを以て、又々五千萬法に增資し、一九一四年更に五千五百萬法に增資した、是れ即ち現在の資本額である。然かし全額拂込には非ず、其の株式は一株五百法、總數十一萬株なるが、一九一四年九月末に於て、其の內七萬六千株は全額拂込、一萬六千九百二十八株は半額拂込、殘餘の一萬七千七十二株は四分の一拂込であつた。支店は巴里に設置せる者を最も重要とし、其他はマルセイユ市內に在り。

マルセイユは佛國第一の商港にして、地中海方面に於ける外國貿易の關門となり、又アルゼリアとの交通路に當るのみならず、同時に工業繁盛なる都會である。同地工業の生產額は一八二〇年に於て僅々四千萬法なりしが、一九一〇年には十三億八千萬法に上りし位である。此銀行は土地の繁盛に依り利益を蒙ること多く、市內及び附近の工業會社及び商人に對して信用を開き、擔保貸附を爲し、或は荷爲換を取扱ふ等、充分の業務を有して居る。殊に商品擔保貸附は、其の重要業務にして、マルセイユ港に輸入せらるゝ埃及棉花に對する貸附も亦多額である。

財的業務に就ては、希臘の財務業者を通じて、希臘及び土耳古に於ける此種業務に盡力す。勿論佛國內にても發行、賣出を爲し、或は大工業會社を創立せし事例も少からず、又個人營業を株式組織に改造し、或は會社の增資に助力せることも多くマルセイユにある大會社にして、此銀行と特種の關係を有せざるもの少し。

一九一二年十二月卅一日締切貸借對照表中重要なる數字左の如し。

	百萬法
割引手形	五六・三八
有價證券擔保貸附	二〇・九五
當座貸越(商品擔保貸附を含む)	七四・八〇
所有有價證券及び發行加入額	一四・三六
引受	三三・五六

預金　八一・五〇
純益　三・三五
配當率　九分

營業成績は近年良好となり、配當率も順次昂上し來れり。創立後一時不評判なりしが、近來は大に信用を高め、佛人中には巴里の「クレデイ、アンデウストリエル」と同樣、此銀行を佛國大銀行中に數ふる者さへあり。

一九一三年正月、巴里の動產銀行なる「ユニオン、パリジアンヌ」と同盟せしが、爾來其の勢力大に增加せり。此同盟契約の條件として、佛國南部に支店九個所を新設する筈なれば、將來其の勢力は益南部地方に伸展せん。

第六節　西南部——ボルドウ

ボルドウ銀行

La Banque de Bordeaux

株式會社にて、主として預金銀行の業務を營む、一八九九年に設立せらる、然も其實は一八五四年に創立せられし「スウラ、ド、トランクウ、ラ、トウル商會」(Soula de Trinc-oud, la Tour et Cie.)にて、來歷古く且つ信用ありし個人銀行を擴張せしものにて、其根據甚だ固し。設立當時の資本金は僅に一千二百萬法なりしが、一九〇五年一千六百萬法(全額拂込)に、一九一四年二千萬法(全額拂込)に增資した、是れ現在の資本額である。一九〇五年增資の際巴里に支店を開き、又ボルドウ市內にも數個の支店を設け、其後ボルドウ附近の葡萄酒產地に十數個の支店及び出張所を設けたり。

西南部の地味は葡萄の栽培に適し、葡萄酒の產出多額にて、佛國の重要產物として、海外に輸出せらるゝ程なれば此地方の富の程度は一般に高し。然るに曾て一度大虫害ありて葡萄園を荒し、收穫を激減し、爲めに葡萄栽培人中破產者相踵ぎ一大恐慌を來せしことあり。爾來此地方の具眼者は單一農作物たる葡萄にのみ依賴するの危險を感じ、別に經濟上の發展を謀らんと欲し、種々畫策せし結果、工業に着手するに至り、爾後西南部の工業は著しく發展した。加之此等地方の有力者はボルドウが太西洋に面する港灣として優秀の位置を占むるを利用し、之を開發して外國貿易港と爲し、此地方商業の中心たらしめんとせしが、其効果は既に幾分か現はれ來り、商港としてのボルドウの發展は近來見るべきものあり。從來

單に葡萄の栽培を以て知られし西南部が、商工業の方面に發展せんとするは、西南部に於ける經濟上の一大變動である。ボルドウ銀行は、此地方の發展に依て利益を蒙り、大に其業務を增加するに至つた。

同行の營業振は、頗る堅實にして、熱心割引及び當座貸越に勉めて居る。近來巴里の動產銀行たる「ユニオン、パリジアンヌ」及び白耳義最古の銀行たる「白耳義一般會社」(La Société Générale de Belgique)と特別關係を結び、此二行の代表者が其重役となれる程なれば、此二行の取扱ふ發行物には自然加入す。最近に於て南部地方の開發を目的とする「ボルドウ及西南部財務調査會」なる者の設立に關係した。但し今日迄自ら工業會社を創立せし事實無し、要するに普通銀行業務に重きを置くのである。

一九一二年十二月卅一日締切貸借對照表中重要なる數字左の如し。

割引手形	一六、三七（百萬法）
當座貸越	二六、六〇
所有有價證券及び發行加入額	二、四六
引受	七、四七
預金	二〇、七〇
純益	一、三
配當率	六分

營業狀態は良好なるが、是は此銀行が由緒あり且つ地盤鞏固なる爲めである。「白耳義一般會社」が其株主となれる關係に依り、其株式はボルドウの外、巴里及びブラッセルの取引所にも係つて居る。

第七節　地方銀行の中央機關

地方銀行中央會社

Société Centrale des Banques de Province.

本章緒言第二に記せる如く、地方銀行協會は法人にあらず、又營業機關にもあらざるを以て、地方銀行の爲に充分用を爲すに足らざりき、故に地方銀行の團結は一九〇四年十二月に至り、其の實行機關として、地方銀行中央會社なるものを巴里に創設せしが、其後一九一一年五月之を改造して、現今の組織としたのである。創立の資本は僅々一百十八萬五千法なりしが、今日は一億法四分一拂込である。單に資本

額を比較すれば、巴里の「クレデイ、アンデユストリエル」及びナンシイの「ソシエテ、ナンシエンヌ」と同額にして、地方銀行中第二位に居る。株式は一株五百法にて、甲乙二種に分れ、甲種四萬株は、地方銀行協會の會員銀行之を所有し、乙種十六萬株は、一般公衆之を所有するを得ることゝし、甲種株は株主總會に於て一株一票の權利を有し、乙種株は十株一票とし、又甲種株の讓渡は、重役會の承認を要することゝし、乙種株を發行して、增資する場合には、甲種株主は新發行株數の半額に對する優先應募權を有することゝなつて居る、要するに地方銀行協會の會員たる地方銀行の特權を確保する爲である。

創立の目的は地方銀行の爲めに中央市場に於ける發行業務に關與するに在るが、定款第二條にも『自己の勘定に於て、若くは地方銀行協會會員銀行の勘定に於て、佛國及び外國に關する各種財的業務を營むを以て唯一の目的とす』と明記してある。而して今日迄利益を占め得たる重なる業務は、卽ち發行及び賣出である。故に此銀行は其性質に於て純然たる動產銀行と謂ふべく、又其の成立の事情より見るも、他の地方銀行とは自ら選を異にして居る。

當初は其發行力微弱なりしかば、唯下引受を爲すに過ぎざりしが、漸次其業務の發展すると共に、或は他の銀行と協力し、或は單獨にて發行、賣出等を爲すに至つた。佛國內地の業務としては、一九一〇年巴里にて乘合馬車會社 (La Compagnie Générale des Omnibus)の株式發行の際、其發行額の七分の一を引受けた、又佛國工業會社の創立に關與せし事實も少くないが、其の最も重要なるは、資本六百五十萬法にて設立せられしペレニー電力會社 (La Société Pyrénéenne d'Energie Électriques) である。然れども內國の業務は比較的少數にして、其利益を得たる業務の大部分は、外國有價證券の發行であつた。是迄其の關與したる外國有價證券の發行中重要なるもの左の如し。

紐育、ニユー、ヘヴン及びハートフオード鐵道社債
日本五分利國債(一九〇七年)
勃牙利四分半利國債(一九〇七年)
露西亞四分半利國債(一九〇九年)
丁抹三分半利國債五千萬法

毎年取扱ふ發行業務の種類は、頗る多數なるが、今之を列擧するは煩に堪へざる

を以て略し、最近の營業報告に依り、一九一二年度に於て、發行及び賣出を爲せるものを見るに、總數二十七件にして、其の重要なるもの左の如し。

内國發行物

「クレデイ、フオンシエ」コンミユーン債券(三分利)
巴里市債二億五百萬法
西部國有鐵道社債(四分利)

外國發行物

加奈太土地抵當銀行社債四分利(ケースイポテケールウナデイエン)
匈牙利不動產抵當銀行債券(四分利)
露國農民土地抵當銀行債券(四分利)
「ミゾリー、オクラホマ、アンド、ガルフ」鐵道社債(五分利)
サンタ、フエ州鐵道株式及び社債
伯羅西爾國不動產抵當銀行增資株
墨西哥國不動產抵當銀行增資株

此等有價證券の多數は、巴里の大銀行と協力して發行したのであるが、之が爲め此銀行の名は發行業者として大銀行と並び稱せらるゝに至り、大に其の信用を高むることを得た。

業務の性質上、調査機關を必要とするため、巴里の大預金銀行及び動產銀行に倣うて、財務調査局を組織し、必要の場合には、技師を現場に派遣して、實地調査を爲さしむ。又地方銀行協會の會員より要求あれば、些少の報酬にて、調査報告を爲すを以て、地方に於ける發行、投資業務に關係せんとする地方銀行は、少額の費用にて公平且つ有力なる報道及び助言を得るの便あり、又地方に於ける財務或は工業上の業務にして一地方銀行のみにては之を引受くること能はず、然ればとて巴里市場に賣出す程の問題にもあらざる場合には、此銀行自ら仲介者となりて關係地方に於ける地方銀行協會々員銀行の團結を圖り、以て其業務の引受を容易ならしむることは屢々之あり、之は調査以外の實際的援助である。

普通銀行業務殆んど無く、擔保貸附を爲せるも、唯地方銀行協會の會員銀行を主たる對手とし、特別の保證を徵して貸附くるのみにて、普通の貸附には非ず。又此等

會員銀行の取引勘定はあれども、普通の當座取引は無し。其の貸借對照表には「所有手形」の科目あれども、之は普通の割引手形を指すに非ずして、其の買入れたる内外手形、利札、外國政府の大藏證券及び外國都市の證券等を含有して居る。

一九一二年十二月卅一日締切貸借對照表の要項は左の如し。

所有手形	一一・一〇（百万法）
擔保貸附	二・七一
所有有價證券	一八・八七
發行加入額	二・三六
積立金	一〇・一六
純益	二・二〇
配當率	一割

營業狀態良好にして、信用厚く、一九一三年十一月、巴里取引所に於ける其株式の現物取引相場は、百二十五法拂込株にして五百八十三法の高値を唱へたりき。

七地方銀行營業狀態比較表

一九一二年十二月卅一日現在　單位＝百万法

銀行名稱	巴里	ナンシイ	リール	マルセイユ	ボルドウ
	「クレディ、アンデウストリエル」	「ソシエテ、リヨネーズ」	「ソシエテ、ナンシエンヌ」	「ソシエテ、マルセイエーズ」	銀行
現金、預ケ金及び利札	二五・七四	一・九三	五・〇八	八・七八	三・二二	二・五〇
割引手形	一三四・三	三五・一一	一四・九九	五二・六四	五六・三八	一六・三七
ルポール	二二・一九	八・六二	—	—	三・六〇	—
有價證券及び商品擔保貸附	八七・〇三	二三・一八	× 一一・三九	四九・五八	六二・四〇	〃 二〇・九五	—
當座貸越	二九・一七	八一・五二	四八・八七	八九・五八	四二・三二	〃 七四・八〇	二六・六〇
所有有價證券	二二・二三	七・三八	—	四・八一	△ 二・二四	○ 一四・三六	二・二三
發行加入額	—	八・五一	—	—	—	—	〇・二三
雜勘定	〇・九四	—	—	—	—	—	—
不動產及び初度設備費	四・〇	一〇	四四・四〇	二・五五	四四〇	四四〇	〇・六三

未拂株金	七五・〇	—	二二・五〇									
資本金	一〇〇・〇〇	五〇・〇〇	三〇・〇〇	七五・〇〇	四五・〇〇	一〇・二七	—					
積立金	二一・五〇	一・六六	三・〇〇	一五・八〇	一〇・三二	一八・九七	三・五〇					
各種預金	二二三・九二	一〇二・八三	四〇・二九	一一九・八九	一〇七・一二	八一・五〇	二〇七・〇					
雜勘定	〇・八八	〇・二二	〇・二二	一六・四〇 ▲	一六・二七	〇・五九	〇・一一					
引受	二九・九五	二一・二九	一・七三	五八・五	一八・七七	三三・五六	七・四七					
總收益	一〇・二七	—	二・九三	—	五・一三	五・八六	二・三一					
純益	四・〇五	二・二八	一・五六	二・六三	四・〇五	三・三五	一・三〇					
配當率	一二%	五%	一一%强	一〇%	一五・二%	九%	六%					

×ルボール及び所有有價證券を含む
‡商品擔保貸附は貸越の項目中に含蓄す
△所有有價證券、發行加入額及びルボールの合計とす
○發行加入額を含む
▲新株拂込金一千六百萬法を含む

第八章　個人銀行

次に叙述すべきは、即ち個人銀行である。是は個人として銀行業を營む大資本家を指すのであるが、其資力豐富なる爲め、何れも權勢强大である。而して其數も亦少からず、有名なるロスチヤイルド家を始めとし、有力なる個人銀行の巴里に現存するもの、實に約百五十である。然れども地方にては個人銀行の數比較的に少なく、而も漸次減少する傾向である。此等個人銀行は株式組織の銀行とは異なり、普通銀行業の全般に亘らずして、多くは財的業務を專門として居る。勿論其の或者は普通銀行業務を營まざるにあらざれども、其營業振は依然投資家の態度より出で、預金の取扱、手形の割引等を以て其の專務とはしないのである。殊にロスチヤイルド家以下六七種の個人銀行は、多大の資本と勢力を有し、而も主として高等財務に携はるを以て、佛國にて之を呼んで「高等銀行（オートバンク）」(Hautes banques)と言ふて居る。故に其業務の性質より言へば、此等個人銀行は、即ち動產銀行にして、巴里和蘭銀行以下の諸行と並稱せらるべきものである。但其組織が個人主義にして、他の株式組織銀行と全然相

異なり、延て其營業方法も多少の相異あるを免れざるが故に、此に區別したのである。此等大個人銀行中にても、ロスチヤイルド家は地位、勢力共に群を抜き、自然其上に君臨するが如き概あるを以て、先づ之を叙し、然る後に他の「高等銀行」及び其他の個人銀行に言及せん。

第一節　ロスチヤイルド兄弟商會

Rothschild Frères

ロスチヤイルド家は世界最大の富豪にして、財界に於ける勢力絶大なれば、先づ其來歴より叙述せん。同家は猶太亞人種にて、最初獨逸のフランクフォートに起り、急激に其の富を成して、現在は其の分家が倫敦、巴里、維也納の三個所に在りて、夫々銀行業を營み、絶大の勢力を有して居る。同家の創業者たるマイエル、アムスケル、ロスチヤイルド（一七四三―一八一二年）は、ナポレオン一世帝政時代に於て、歐洲の諸首府に其業務を擴張し、各國公債の發行、應募を爲し、財界の覇權を掌握して居たが、彼に五人の男兒あり、長男はアムスケル、マイエル、ロスチヤイルド（一七七三―一八五五年）とて、フランクフォートの本家を繼ぎ、次男ソロモン、ロスチヤイルド（一七七四―一八五五年）は維也納の商會を開き、三男ナタン、マイエル、ロスチヤイルド（一七七七―一八三六年）は倫敦に赴きて、英國に於けるロスチヤイルド家を起し、四男カール、ロスチヤイルド（一七八八―一八五五年）はネープルスの商會を開き、五男ヤコブ、ロスチヤイルド（一七九二―一八六八年）は巴里の商會を引受けた。何れも其の父の開始せる事業を分擔し、夫々其所在國の財權を把持して居たので、一時は彼等の力を假らずんば戰爭さへ爲すこと能はざる勢であつた。而してナポレオン一世のウオータルーに於ける敗戰を豫測し、倫敦株式市場にて極度まで下落せる有價證券を買占めて一時に巨利を博したるは、此五子中の傑物たる倫敦ロスチヤイルド家の元祖ナタンであつた。斯く夫々有力なる財務家なりしを以て時人此五人の兄弟を呼んで『歐洲の命令者（ディクテーター）』と謂ひ、大に其勢力を恐れたのである。或佛國史家は當時の事情を叙して曰く、

『歐洲には唯一個の強國あるのみ、此強國は即ちロスチヤイルド家である、同家の周圍には、他の銀行十數種ありて之を支持して居る、同家の臣民及び兵士たるも

のは、總て信用ある實業家である』。

蓋し同家の勢力が殆んど一國家を成すの觀あるを謂ふのである。

其後、ネープルスのロスチヤイルド商會は引上げられ、フランクフオルトの本家も閉鎖せられしため、現在は前記の如く倫敦、維也納及び巴里の、商會のみ存續して居る次第なるが、其の巴里に在るものは、卽ち本文に掲ぐる巴里の「ロスチヤイルド兄弟商會」にして、一八一二年卽ちロスチヤイルド家の元祖たるマイエル、アムスケル、ロスチヤイルドの死去したる年に於て、前記五人の末弟なるヤコブ、ロスチヤイルドが開始したのである。一八六八年ヤコブ沒するに及び、其長子アルフオンズが相續して、依然事業界に活動し、一八七〇年普佛戰爭の頃には、實に巴里取引所を左右するの勢力を有した。一九〇五年アルフオンズ死するや、其子エドワール、ロスチヤイルド男爵其業を繼ぎ、亡父の弟、卽ち其伯父二人之を補佐して居る。卽ち現在は此三人にて巴里のロスチヤイルド商會を組織して居るのである、但し一家の實權は勿論當主たるエドワール男爵に在り。

少しく歷史上の事實を記せんに、一八一五年ナポレオン一世一敗地に塗れ歐洲の平和成るや、聯合軍巴里入城式の費用見積額十億法、償金二十億法、合計三十億法の巨額を佛國政府に融通したるものは、卽ち巴里ロスチヤイルド家であつた。此事實は偶ま巴里ロスチヤイルド家の信望を增す機會を與へたので、爾來同家の信用と地盤は、佛國に於て漸次築上げらるゝに至り。一八二二年始めて佛國々債を內國に於て發行するや、ロスチヤイルド商會は一手で之に應募した。爾來ナポレオン三世治世の初期に至るまで、ロスチヤイルド商會は、佛國公債の應募に於て事實上獨占權を有して居たのである。由來佛國公債を募集する時は、公然之を金融界に發表し、最好條件を申込む銀行に其の發行を委托する例なりしが、金高多額なるものは、他の銀行も引受を難んずる色ありしを以て、常にロスチヤイルド商會の手に歸し終つたのである。一八四一年より一八四七年までに於て、ロスチヤイルド家の引受けし公債は、額面八億法に上りしといふ。然かし佛國史に所謂「七月王政」時代卽ちルイ、フヒリツプ王の治世（一八三〇―一八四八年）に於ては、國內の秩序整頓し、又外國政府に對する佛國の信用も回復せしため、政府自ら直接募集を爲すことあり、爲にロスチヤイルド商會の業務も、幾分減少したのである。尋でナポレオン三世の第二

帝政時代に入りては、ペレイル兄弟の「クレデイ、モビリエイ」及び之に倣うて設立せられし財務銀行の競爭ありしため、ロスチヤイルド家の業務は益減少して來た。第三共和政治即ち現代の治世に入ても、其業務尙不振である、先代アルフオンズ男爵の永逝が其の一原因を成して居るとも思はれるが、何れにしてもロスチヤイルド家の勢力も今日は多少衰退の傾向あり。然れども往年に於ては同家の資力多大にして他を凌駕し居たるは爭はれぬ事實にて、一八四八年六月一日の或巴里新聞の見積に依れば、當時同家の資產は六億法にして、他の高等銀行（オートバンク）全體の資產を合計して尙三億六千二百萬法に過ぎざりしといふ。

上記の如き形勢なれば、最近二十年間に於て、ロスチヤイルド家が國債の發行に關係せしことは寧ろ稀少である、縱令同家にて應募申込を受附ることありても、責出は大抵大預金銀行に委托するを例とす。斯くて近來發行業務に遠かる傾向なれども、同家は依然として各國政府と特種の關係を持續して居る。殊に露國政府とは、神聖同盟當時よりの古き關係を有し、一八八九年より一九〇一年迄には、自ら發行團の主宰となりて發行したのである。但し其後は單に

露國公債の利拂及び償還の爲め、露國大藏省の預金を取扱ふのみにて、同國の發行物には手を出さぬことゝなつた。

斯く近來は往年の如く公債發行に熱心ならざるため、其取扱ふ發行物は比較的少く、最近十年間に於て發行せし公債の種類を擧ぐれば、一九〇六年及び一九〇七年の二回に日露戰費に關する日本公債、一九〇八年に伯剌西爾公債、一九一〇年に日本公債四億五千萬法等である、此外には自ら國際的發行團の主宰となりて、伊太利公債八十億法を借換へし位のことである。斯く自ら發行業務に當ることは稀であるが、國債發行業務に就て多年蓄積せられたるロスチヤイルド家の勢力は爭はれぬもので、巴里及び其他の歐洲市場に於て國債を發行する時は、何人も先づロスチヤイルド家に交涉して其の加入を請はざるもの殆んど稀である。

以上各國公債に就て述べしが、ロスチヤイルド家は、國債の發行以外に於て、鐵道、鑛業、其他一般工業會社の創立にも關係し、其財的業務を引受け、又自ら其株式を所有するのである、即ち一般動產銀行と同一の業務を扱ふのであるが、多數の場合に於て、自ら其關係會社の重役會に加入し、又は其信用する人物を代表者として重役

會に出し、以て自己の勢力を維持して居る。ロスチヤイルド家の關係せる會社中最も重要なるものは、巴里にある北部鐵道會社である。此會社は拂込資本二億三千一百萬法餘にて、佛國有數の大鐵道事業であるが、ロスチヤイルド家は、當初より此會社の財務を援助し來り、現在は同家の代表者が四人迄此會社の重役となつて居る、殊に社長の位置は、常にロスチヤイルド家の主人之を占むることに決定し、現に巴里ロスチヤイルド家の當主ヱドワール男爵が其社長である。此外に倫敦ロスチヤイルド家の代表者二人が別に同鐵道會社の倫敦駐在取締役となつて居る。要するに北部鐵道はロスチヤイルド家の財力に依て經營せらるゝものと謂ふも不可なし。其の他ロスチヤイルド家の關係せる鐵道會社中にて、重要なるものは、佛國の東部鐵道、西班牙のサラゴス鐵道、濠太利の南濠鐵道、伊太利の南伊鐵道等である。又鑛業會社に多大の投資を爲せるものも少くないが、何れも歐洲有數の大會社である、即ち其の重なるものは、歐洲の大銅山なる西班牙のリオ、チントウ鑛山會社を始め、ル、ニツケル會社、ド、ビーアス會社、ボレヲ會社、ベナニヤ鑛業會社等にて、外に露國高加察地方の石油採掘事業數種、及び西班牙水銀鑛事業數種である。

ロスチヤイルド商會には、組織完備せる技術調査部ありて、夫々專門的研究を爲して居る、是は一般動產銀行と同じく、業務上必要を感ずる爲なるが、近來迄は毎年必らず技師を露國高加察地方に派してバクウの石油鑛區を調査せしめて居た、之は調査に熱心なる一例である。近頃は往日の如く年々技師を外國迄派遣せざれども最近に於てロスチヤイルド家が平素大に囑望せる南亞弗利加のシヤムソ金山を調査する爲め技師を派遣せしことは注意すべき事實である。近年には巴里和蘭銀行と接近し來り、同行と協同して發行物に應募すること屢次之あり、其場合には同行の完備せる技術調査局を利用して調査を爲すこと少からず。

ロスチヤイルド商會に預托せらるゝ資本は實に莫大である。同家の關係せる會社は、多少共其の現金をロスチヤイルド商會に預け、金錢の受入及び支拂を委托するのである。前に記せる北部鐵道會社の如きは、事實上ロスチヤイルド家にて經營するものなれば、勿論其の資金を同商會に預托するが、此會社は元來佛國一流の鐵道會社なれば、其の預金も時には莫大の金額に上ることあり。又既記の如くロスチヤイルド商會は近來直接に外國政府の公債發行に與ること、往年の如くには頻繁

ならずと雖も、而も尚此等公債の利拂を委托せられ居るを以て、其支拂準備として常に外國政府より巨額の資金を預つて居る。而して此種の預金は利率も低く、且つ利札支拂時期の外には殆んど拂出なきを以て、ロスチヤイルド商會は之を運用して餘程多大の利益を得るのである。尚利札支拂の必要なくして、多額の資金をロスチヤイルド商會に預托し居る外國政府も亦少からず。又外國の君主にしてロスチヤイルド家を信用して、其の王室資財を同家に預托せるものも多いが、之はロスチヤイルド家祖先の時代より連續して居るもので、昨今始まりし事實には非ず。其他貴族の舊家及び大資產家も亦ロスチヤイルド家祖先の時代より、其財產を同家に預入れ、其の保管運用を委托して居るが、中には其の運用に就て頗る多大の權限をロスチヤイルド家に與へて居るものもあり、此等貴族、富豪とロスチヤイルド商會との取引は、二三代連續して居るものにて、ロスチヤイルド商會は事實上無期限にて此等貴族、富豪の財產の全部を運用して居るのである。此等預金者の注文に依り巴里取引所にて有價證券を買入るゝことゝもあるが、此場合には其の買入れし有價證券は依然ロスチヤイルド商會に保管せられるのである。

ロスチヤイルド商會の信用と勢力の絶大なることは、同家が英蘭銀行と佛蘭西銀行との仲介者となりし事實を見ても明瞭である。其一例を擧んに、一八九〇年倫敦ベアリング商會破綻事件より恐慌を來せし際、佛蘭西銀行より英蘭銀行へ資金を融通せしは、有名なる事實なるが、當時此貸附金は實際巴里を離れずして、唯英蘭銀行の勘定にて、巴里のロスチヤイルド商會に預けられて居たのみであると傳へらるゝ、以て其の財界に於ける地位を卜するに足る。又此商會は佛蘭西銀行と密接なる關係を有し、現に巴里ロスチヤイルド家の當主エドワール男は、同行の理事を勤めて居る。

ロスチヤイルド家は常に多額の金準備を有するを以て、一朝金塊市場、外國手形市場、其他財界の形勢に有利なる機會現はるゝ時は、驀進して大口の取引を爲すの餘裕がある。此金準備以外に於て平時に運用し得べき資金は、多く手形、殊に外國手形の買入に投下す、數年前には其の外國手形の買入額が五億法に上りしこともありきと。ロスチヤイルド家は事實上巴里に於ける外國手形買入者の最大なるものである。而して外國手形の買入に於ても、同家は頗る堅實なる方法を取り、相應なる巴

里銀行の裏書せるものにあらざれば買入れず。巴里の財界は資金豊富なるを以て知らるれども、而もロスチャイルド家の資本が常に其の中心的勢力となり居るを以て、若し同家が俄に其資金を回収することあらば、忽ち巴里金融界に一波瀾を來すのである。一例を擧れば、外國手形の期限切迫の際に於て、ロスチャイルド家が英國又は獨逸手形の切換に應ずるや否やに就て、巴里取引所にて見越附かざる時は、外國手形の相場は忽にして千分の二又は其れ以上も下落することあり、巴里取引所に就ては第十三章に之を説明するが、同所に於ては外國手形の賣買をも取扱ふのである。

普通銀行業務は甚だ少くして、當座取引も多額に上らず、倫敦のロスチャイルド商會は、相當の當座取引高を有すれども、巴里の商會は前記の如き狀態にて、殊に現在に於ては當座取引は殆んど休止して居ると謂ふも不可なき程である。爲替手形は外國大銀行及び殊に南米方面よりロスチャイルド商會宛に振出し來るものが時々あるのみにて、餘り頻繁には非ず。故に其の重なる業務は、往年よりして依然財務的性質を有するものである。

ロスチャルド家の營業方針は、頗る手堅く、常に其の資本を流動的狀態に置くことに注意して居る。是れ其の財界に於て、克く偉業を成し、其勢力を保ち、而も益信用を高むる所以である。方今巴里財界に於けるロスチャルド商會の信用は第一位に居り、「クレディ、リヨネ」「ソシエテ、ゼネラル」「コントワール、ナショナル」等の一流銀行と雖も遠く及ばず。又ロスチャイルド家は世人に指彈せらるゝ猶太亞人種ではあるが、現代のロスチャイルド家は、所謂猶太亞人的傾向なく、却て寬裕仁恕の精神に富み、財界困難の場合に於ては、常に進んで其の救濟に盡力す。佛國にて銀行の破綻、其他財界に波瀾ある時には、大抵ロスチャイルド家自ら救濟運動の主動者として盡力するが、其の信用と勢力とは克く難局を救濟するの効あり。ロスチャイルド商會從業員の待遇、報酬も他銀行に比して良好なれば世間の評判も好し。昔時各國公債の一手引受者として財界に雄飛せし時代に比すれば、今日のロスチャイルド家の活動は大に局限せられ、又一九〇九年に自家財政上の都合にて商會の資本を五千萬法に制限せしため、其の業務も大に縮小せられたのであるが、然も多年の信用と一家の資產巨大なる爲め其勢力は依然衰頽せず、今日巴里に於て大財務業を

爲さんとする時は、何人も必らず先づ同家の助力を請はねばならぬ。實に偉大なる財務家と謂ふ可し。

第二節　高等銀行（オートバンク）

ロスチヤイルド商會以外に、高等銀行と名くべきものは巴里に六七種あり、何れも大資本家にて世間の信用厚し。往年は夫々手廣く營業して居たが、漸次にロスチヤイルド家の勢力に壓迫せられ、今日は餘り重大なる業務に携はらず、唯外國大銀行又は外國政府の銀行となり、嘗て自ら發行したる外國公債の利拂を取扱ふて居る。現在に於て直接外國の大發行物を取扱ふものは、此等高等銀行中最も重要なる「オツチンゲール商會」のみにて、其他は大抵重要なる財的業務を巴里和蘭銀行其他の動産銀行に委托するのである。此等高等銀行は昔時より外國政府及び内外大會社と關係を持續して居るため、自然財的業務を獲得するの機會を有して居るが、縱令之を獲得しても今日は之を大財務銀行に取次ぎ、特別の手數料を貰ふのみである。彼等の或者は當座取引に力を注ぎ、又工業會社の株式を引受けるが、其他に至つては自己の資本又は其の懇親なる人士及び特別關係ある資本家の預入資金を運用利殖するに過ぎないのである。

然れども此等高等銀行の代表者は代々引續きて重要會社の重役となり居るため、之に依て多大の收入を得るのである。例せば彼等の内三種は、ロスチヤイルド家の如く、佛蘭西銀行の理事となり、其の五種は一八六三年英佛兩資本家の協力にて設立せられし土耳古の中央銀行たるオトマン帝國銀行の重役となつて居る。又佛國の大鐵道會社に重役たるものもあり。斯くして此等富豪は夫々佛國の金融界、事業界に其根柢を深くし居るを以て、以下各高等銀行を叙述する際に於て、其の關係會社の名稱をも擧ぐることゝせん。

オツチンゲール商會（Hottinguer et Cie.）

高等銀行中の最有力者にて、十九世紀初頭、ロスチヤイルド家が巴里の商會を設けし頃よりして既に佛國財界の重鎭であつた。家柄は新教徒派にて、舊家である。ロスチヤイルド家が佛國公債に應募し、巴里財界に活動せし頃には、當時有力なりしラフイツト、カジミル・ペリエール、ドレセル、マレー等諸家の銀行と共に大財務業に

關係し、主として倫敦及び巴里にて發行せられし伊太利、澳太利、葡萄牙、希臘等の公債に應募した。現在は外國大銀行の巴里代表者であるが、其の代表者するものは何れも一流の銀行にて、倫敦のベアリング商會も實に其一である。現に露西亞及び土耳古の政府より巨額の資金を預り、此兩國の公債の利拂を取扱うて居る。殊に露西亞とは特別の因緣ありて、直接同國の大發行物に關係す。當座取引も取扱へども、多大の金額には達せず。勿論ロスチヤイルド家には及ばざれども、同家と同じく外國手形の買入に力を注いでゐる。

他會社との關係は甚だ深く且廣く、當主ロドルフ、オツチンゲール男自ら佛蘭西銀行の理事たる外、同男又は一族の人が、オトマン帝國銀行、澳太利不動產抵當銀行、「ユニオン、パリジアンヌ」等の銀行に重役となつて居る、其他には數年前同家の代理人一名が「コントワール、ナショナル」の重役となつた。鐵道會社にては、巴里、里昂地中海鐵道、北部鐵道、東部鐵道、巴里循環鐵道等の大會社を始めとし、巴里の鐵道會社、保險會社の多數にも重役となつて居る。

マレー兄弟商會 (Mallet Frères et Cie.)

オツチンゲール商會と同じく十九世紀初頭より佛國財界に重きを爲し、屢次外國公債に應募して名を得た家柄はオツチンゲールと同じく新敎徒派である。此商會の當座取引は往年は餘程手廣く行はれしが、今日は稍減少して居る、但しオツチンゲールには優る。特にバルカン地方と關係あり、其取引先は主として佛國の大資本家及び外國の大銀行である。銀行では佛蘭西銀行、オトマン帝國銀行、「ユニオン、パリジアンヌ」等、鐵道では東部鐵道、巴里、里昂、地中海鐵道等に重役たり、其他內國の鐵道、保險會社及び諸種外國會社にも重役となつて居る。

ヴエルヌ商會 (Vernes et Cie.)

取引客中に大資產家多く、隨つて株式、社債の賣出には多大なる便宜あり。取引所注文の取次多額に上り、特に割引の金額甚だ多大である。同時に引受信用も取扱ふ。ユニオン、パリジアンヌ」、北部鐵道、南部鐵道に重役たり、其他多數の鐵道、保險會社等にも重役を出して居る。

ミラボウ商會 (Mirabaud et Cie.)

ロスチヤイルド家と聯絡を通じて居る。工業會社の計畫、創立等に關係すること

多く、外國の大事業にも投資して居るが、ロスチャイルド家が投資して居る「リオ、チントウ」「ボレヲ」「ル、ニツケル」「ペナロヤ鑛業」を始めとし、「モクタ、エル、ハデッド硝石會社」(Société Mokta-el-Hadid Phosphates)「ガフサ硝石會社」(Société Gafsa Phosphates)等何れも有名なる者である。佛國の事業にて其の投資し居るは、巴里南北鐵道(地下電車及び數種の鑛業會社である。「オトマン帝國銀行」「ユニオン、パリジアンヌ」「巴里・里昂・地中海鐵道を始め、其他佛國會社十五種に重役となつて居る。

ド、ノウフリーズ商會(De Neuflize et Cie.)

割引、當座取引、引受信用等に重きを置き、近來大に其業務を擴張した。故に外國との取引及び支拂に便利である、南米及び葡萄牙に對して殊に然り。元來此銀行は南米及び葡萄牙とは特種の關係を有して居るため、時々此等諸國の發行物に關係す。佛蘭西銀行、オトマン帝國銀行「ユニオン、パリジアンヌ」「巴里・里昂・地中海鐵道を始めとし、土耳古烟草會社、葡萄牙烟草會社、各種の保險會社に重役を出して居る。

ハイネ商會(Heine et Cie.)

多額の外國政府預金を持て居る。特に外國貿易に留意し、貿易の發展に助力し、各國に對する引受信用を與ふ、オトマン帝國銀行及び「ユニオン、パリジアンヌ」に重役となつて居る。

ドマシイ、セリエール商會(Demachy et Seillière)

特に露國の發行物に關係し、或種の工業會社に投資す。往年は佛蘭西銀行の理事たり、又巴里和蘭銀行と特別の關係を有し、此商會の主人が其の頭取たりしこともありしが、今は何れも其地位を去つた。

第三節　其他の大個人銀行

巴里には所謂高等銀行の外に、有名なる個人銀行約百五十あり、悉く大富豪とは言ふ可らざるも、其中には餘程富裕にして營業の基礎固く、往々高等銀行の名稱を與へらるゝものさへあり。

此等銀行の業務は悉く同一に非ず、或は唯自己の資產及び昵懇の關係ある資本家の資產を保管、利殖するのみに止まるものあり、或は進んで發行業務に關係するもあり、又單に外國爲換及び貴金の賣買に從事するもあり、又普通銀行業を營み、手

形割引、短期貸附を爲し、大銀行よりも高き預金利子を附して、預金を吸收する者も少からず。但し普通銀行業を營む者にも、又種々ありて、唯自己が特別に習熟せる商業に關する手形のみを割引して其の他の手形に關係せざるもあり、又外國輸出業者の手形のみを割引し、又特別の知識を要する眞珠寶石類の取引に關する手形のみを割引するもあり。

就中最も富裕にして且つ信用あるものを十六だけ撰擇して、左に略說す、之は勿論其の一班にて、決して全豹を示すものに非ず、此以外にも茲に採錄する價値ありと思はるゝ大個人銀行十二三あれども何れも省略す。左記排列の順序はアルファベットに依り、特に等級を定めしに非ず。

バルダアク商會(N. J. et S. Bardac)

預入資本の運用、利殖を爲し、發行資本團に加入す、殊に近東諸國の財的業務に關係し、巴里の近東財務會社(Société Financière d'Orient)と關係あり、オトマン帝國銀行を創立せし佛國派資本家の一である。土耳古とは特別の關係あり。

ベナール、ジヤリロウスキー商會(Bénard et Jarilowsky)

發行業務に關係し、特に亞爾然丁國の發行物を取扱ふ巴里のメトロポリタン鐵道會社に投資し、現に此商會のシジスモン、ジヤリロウスキー氏は同會社の重役である。

カモンドウ商會(J. Camondo et Cie.)

預入資本運用、利殖を爲す。巴里和蘭銀行とは特別關係あり、大財務團には大抵加盟す。

ルイ、ドレフユウ商會(Louis Dreyfus et Cie.)

穀物輸出入業者の金融機關として有名である。露西亞との取引多き爲め、同國に代理銀行を持て居る。當座取引、手形割引、外國手形賣買を爲し、特に南米諸國の發行物を取扱ふ。近年には露國の發行物にも關係した。

ガンス商會(Gans et Cie.)

獨逸銀行が此商會に投資して居る。自然獨逸との關係深く、同國と當座取引を開て居る。又發行業務にも關係す。

グンツブルグ商會(Jacques Gunzburg et Cie.)

主として發行業務に携はるが、近來外國發行物に手を出すこと多く、殊に日本及び支那の業務に興味を有することは其の特色である。商會主グンツブルグ男爵は現に日佛銀行を始め二三銀行の重役である。

ルイ、イルシュ (Louis Hirsch)

コンミューン及び外國銀行の爲めに、引受信用を與ふ。大に割引に力を注ぎ、一流の手形及び外國證券を買ふ。其の他手形、證券、貴金屬を賣買す。

アルベル、カーン (Albert Kahn)

財的業務を主眼とし、亞爾然丁、伯羅西爾、其の他南米諸國の發行物に關係す。此人は嘗て日本に來遊せしことあり。

ラザール兄弟商會 (Lazard Frères et Cie.)

米國に對する金塊賣買、倫敦及び西班牙に對する諸種證券の賣買を爲し、割引も扱ふ。

シモン、レーマン商會 (Simon Lehmann et Cie.)

手廣く割引を爲し、特に金剛石商の手形を取扱ふ。外國手形及び證券の賣買も爲す。

ユウゼーヌ、ルヴィ商會 (Eugène Levy et Cie.)

盛に割引を爲し、倫敦との手形賣買を行ふ。

マルキユアール、メイエー、ボレイ商會 (Marcuard,Meyer-Boreil et Cie.)

外國に居る輸出商人及び佛國の地方人の爲に當座取引を開く。

オフロワ、ギャール商會 (Offroy, Guiard et Cie.)

地方の皮革問屋及び一般輸出業者の爲に手形割引を爲す。

セリグマン兄弟商會 (Seligmann Frères et Cie.)

北米及び伯羅西爾の發行物に關係す。爲換を取扱ひ、外國手形、證券を賣買す。

ステルン商會 (A. J. Stern et Cie.)

預入資金の運用、利殖を爲す。主として、財務發行團の業務を取扱ふ。巴里和蘭銀行創立者の一人にて、之に投資せる金額多大に達し、エドガール、ステルン氏は、今現に同行の重役である。同氏は又印度支那銀行の重役にもなつて居る。其の他に重役を出して居る會社多數である。

タルマン商會(Thalmann et Cie.)

財務家として大に活動す、殊に南北兩米の財務業に關係す。

現在巴里にある個人銀行は其の總數實に三百を超えるのであるが、右に列擧せるものと、其の外十二三を除けば、他は比較的に重要ならざるものである。此等は概ね當座取引、割引等を爲し、商工業者と佛蘭西銀行或は其の他の銀行との間に、仲介者として營業するに過ぎず。此以外に割引屋とも名くべき手形仲買人があるが、彼等の或者は相當の資本を有し、佛國商人の振出す外國手形を買ひ、之を其の振宛たる國の銀行に賣りて鞘を取るのである。

第四節　地方の個人銀行

地方にも個人銀行は多數あるが、勿論巴里の大個人銀行とは比すべくもあらず、小個人銀行として觀察するも、由來地方的金融機關なれば、餘り重要にも非ず、勿論一々列擧する必要なしと信ず。今佛國地方都市の內にて、巴里と同じく正式仲買人(バルケイ)を有するブールス、即ち佛國にて組織完全なる株式取引所の設けられあるは、里昂、馬留塞、リール、ボルドウ、ナント、トウルーズの六市なるが、此等は夫々經濟上重要なる地方大都會なるを以て、假に此六市に於ける個人銀行の數を見るに、里昂に二十一、リールに十九、ボルドウに十七、マルセイユ及びトウルーズに各八、ナントに四である。

此等地方個人銀行中にて、資產多大にして、信用厚く、其の營業資本二千萬法以上のものを擇べば、極めて少數である。但し彼等の中には「七月王政」時代より存續せる古き家柄もなきに非ず。其の業務は地方工業に關する金融を圖るので、低き程度に於て地方工業に關する發行物を取扱ふのである。其の中には手廣く支店を設け、他縣にまで之を及ぼし、又巴里に支店を開き居るものさへあり。殊に里昂、馬留塞等大都會の個人銀行は、恰も巴里に於けるそれの如く、其の業務を局限して分業的に營業して居るのもある。今其の重要なるものを示せば左の如し。

里昂

エナール親子商會(Aynard et Fils)

ゲレン親子商會(Veuve Guérin et Fils)

モラン、ポンス商會(Veuve Morin, Pons et Cie.)

サン、オリーヴ、シヤムブオール商會(Saint Olive, Chambeford et Cie.)

馬留塞

マチウ、マルテン商會(Mathieu et Martin)

リール

ジヤーン、ジユアール(Jean Joire)

ボルドウ

ゴメー、ヴアエツツ親子商會(Gomez Vaez et Fils)

トウロウズ

クールトワ商會(Courtois et Cie.)

其の他にはアーブル市、ニーム市及びクレーモン・フエラン市にも、相等有力なる個人銀行あり。

此以外の地方個人銀行は、巴里に於ける小個人銀行と同じく、單に商工業者と他の銀行との仲介者として當座取引割引等を爲すに過ぎず。

第九章　屬領地の銀行

佛國の海外屬領即ち殖民地の廣袤は、アルゼリア及びチユニスを含みて合計約四百萬方哩に亘り、其の人口は合計約四千四百萬である。就中アルゼリアは、母國との關係密接にて、寧ろ佛國の一部なるが如く思はる、又チユニスは保護國にして、現に外務省の管轄に屬し、其の他は、一八九四年設置されし殖民省の管轄に屬して居る。而して此等屬領即ち殖民地の銀行は、勿論其の所在地の開發を目的とするもので、夫々其の營業區域内に於て、銀行券發行の特權を與へられて居る。設立の順序より言へば、マルチニック島銀行、ガードループ銀行、レユニオン島銀行、ギアナ銀行、西部阿弗利加銀行(舊セネガル銀行)の五行は、一八五一年七月十一日の法律に基きて創立せられ何れも同時代に屬す。アルゼリア銀行は、一八五一年八月四日の法律に依るものにて、殆ど同時と謂ふを得可し。印度支那銀行は最も晩く、一八七五年一月十五日の命令に依て創立せられた。此の中アルゼリア銀行は、當初其の計畫及び規模に於て一般殖民地銀行と選ぶ所なかりしが、今日の狀態に於ては、純然たる一個

の中央銀行にして、一般殖民地銀行とは其趨向を異にし居るを以て、當然區別するの必要あれども、他に適當なる場所なきが故に此章に編入したり。印度支那銀行及びマルチニック島銀行以下五行は、即ち純然たる殖民地銀行であるが、就中印度支那銀行は最も重要の位地を占め、今日では佛國大銀行の一として數へらるゝ、其の他の殖民地銀行中にて、西部亞弗利加銀行は舊セネガル銀行より改造されし以來顯著なる發展を遂げしが、殘餘の四行に至つては今尚營業不振である。以下順次に叙述する諸銀行は、何れも特許權を有する銀行にして、此以外に殖民地の業務に關係する普通銀行なきにあらざれども、餘り重要にはあらず、故に第一節に「アルゼリア銀行會社」の記事を挿入する外には、一切省略す。

第一節　アルゼリア銀行

Banque de l'Algérie.

附　アルゼリア會社 (Compagnie Algérienne)

アルゼリア銀行は即ちアルゼリアの中央發行銀行にして、其營業及び制度に於て、宛然小佛蘭西銀行たるの觀あり。而して佛蘭西銀行が有事の日に於て佛國財政上の支持者たる場合に於ては、アルゼリア銀行はアルゼリアの中央銀行たる資格に於て、佛蘭西銀行に附隨して其援助者となるのである。現に一九一四年八月以降の歐洲戰亂に於て然りである。故に佛國銀行論者中往々佛蘭西銀行と共に「アルゼリア」銀行を叙述するものあるは、無理ならぬ次第である。

一八五一年八月四日の法律に基つき創立せられ、最初の資本は僅々三百萬法にて、「マルチニック」銀行、「ガーデロープ」銀行、「レユニオン」銀行等と同額なりしが、漸次增資して、一九〇七年以來二千五百萬法拂込濟である。アルゼリアに於ける兌換券の發行權を授與されて居るが、此發行權は是迄三回更改せられ、最近の更改は、一九〇〇年七月五日の法律に依るもので、發行期限を一九二〇年十二月卅一日まで延長した、即ち佛蘭西銀行の發行期限と同一である。而して其の發行方法は亦佛蘭西銀行と同じく最多額制限法にて、發行額最高限は順次增加せられ、一九〇〇年に一億五千萬法、一九〇七年に二億法、一九一一年の定款改正の際、二億五千萬法、其の後三億法となつた。然るに歐洲大亂の爲め一九一四年八月五日の法律を以て佛蘭西銀行の發行最高限を一躍百二十億法に增加せし際、アルゼリア銀行の發行最高限も

亦四億法迄擴張されたのである。又佛蘭西銀行と同樣、發行特權に對して毎年公課金を政府に支拂ふのであるが、其の率は毎百法につき五十賛にして、勿論發行總額に對して支拂ふのである。但し其の支拂年額の最小限は七十五萬法である。

本店は最初アルゼリアの首府アルゼールに在りしが、一九〇〇年巴里に移された。支店はアルゼリアの三縣に亘りて設けられ、別にチユニスに代表店を開て居る。現在に於ては北亞弗利加の保護國及び殖民地一般に亘りて支店を開き、又兌換券を發行するの權利を有して居る。尙一九一一年定款改正の結果として、佛領亞弗利加と密接なる商業關係ある外國に支店を置くことも許可せられて居る。

其の組織は佛蘭西銀行と同一の方式にして、總裁一名、副總裁一名は共に政府の任命に依る。總裁は巴里本店に、副總裁はアルゼールの支店に在任す。其の他の重役は理事九名、監事三名なるが、何れも株主總會にて選擧せらる。株主總會は十株以上を供託する株主のみにて組織す。

現在は純然たる中央銀行の業務に當り、主として發行と割引とを爲せり。殊に本店が巴里にあるので、アルゼリアの金融機關であるが、常に中央財界に重きを爲して居る。佛蘭西銀行の如く契約に依て政府貸上金を提供するが、同時に此銀行の營業權が現在はチユニスにも及んで居るため、チユニス政府にも貸上を爲す。又アルゼリア國大藏省の預金を扱ひ、其の出納に當るは勿論、チユニス大藏省の預金も持て居る。故に其の營業振より言へば、小規模の佛蘭西銀行に外ならぬのである。若し强て相異の點を擧れば、佛蘭西銀行は三個署名の手形にあらざれば割引せざれども、アルゼリア銀行は二個署名のものを割引すといふのみにて、其他に於て兩者の間殆んど區別なし。隨て其の發行政策の如きも佛蘭西銀行と歩調を一にし、一八七〇年普佛戰爭當初には、佛蘭西銀行と同じく兌換を停止し、一九一四年八月歐洲大戰の初頭に於て、復た同樣兌換停止を斷行した。要するに佛國政府の對中央銀行政策は常に佛蘭西銀行とアルゼリア銀行とを同律に取扱ふのである。其の銀行券發行額は、勿論歐洲大亂の影響もあれども、一九一五年一月卅一日に於て、三億四千五百八十七萬二千八百八十五法に上つて居た。

然れどもアルゼリア銀行は、本來此の如き純然たる中央銀行にあらずして、當初は專ら農業金融機關として營業したのであるが、其の結果一大失敗を演じて、爲に

其の方針を一變し、遂に今日の如きものとなつたのである。此はアルゼリア銀行の歴史中注意すべき事實にして、研究上興味多きが故に此に一言を附する必要あり。

一八八〇年より一八八六年にかけて、佛國西南部の葡萄園に大虫害あり、葡萄を毀害すること多大にて、爲めに西南部は非常の恐慌に會ふたのであるが、其の結果葡萄酒の供給激減し其の代價は俄然暴騰した。アルゼリアにても葡萄を栽培するが、同地の栽培者は、此機に乘じ一擧に巨利を博せんと欲し、競うて其の栽園を擴張し、大に生産額を增加した。然るに纔て虫害去り本國の葡萄産額復舊するに及び、茲に生産過剩となり、葡萄酒の價格は反對に極度迄下落した。是に於てアルゼリアの葡萄栽培者中には、破産者相踵ぎ、其の振出せる手形の取立は何れも困難となつた。而してアルゼリア銀行は是迄農業金融に沒頭して居た爲め、此時其の所有せし此等葡萄栽培者の手形は自然他の手形よりも多く、其の金高三千二百萬法に上つた。爲めにアルゼリア銀行は多大の損失と資金の固定を來すの已むなきに至つた。故に一八八七年より一八九二年まで鋭意恢復を謀りて、此の缺損を補塡し、更に其の拂込資本と同額の積立金を得んことを勉めたる結果、此銀行の所有不動產を擧て或

不動產會社に賣渡し、漸やく損失を補塡し得たれども、而も此失敗の創痍は容易に癒へなかつたのである。要之、此失敗迄は、アルゼリア銀行は未だ充分に發行銀行としての職責を自覺せず、却て其地位を下げて危險多き農業金融に沒頭し、自己の信用を濫用したのであつた。然も此の苦き經驗は一大敎訓となり、爾來營業方針を一變して、發行銀行としての本來の業務に服するに至り、其の基礎も、之より漸やく固まつて來た。隨つて此銀行が眞正にアルゼリアの經濟的發達に貢獻するに至りしは、一八八六年葡萄大虫害の恐慌熄みし頃、愈明かに中央銀行の任務を自覺し、其の營業方針を確立せし以後のことである。

其の後アルゼリア銀行の業務は順調に向ひ、其の兌換券の流通高は大に增加し、割引額も亦大に增加した。兌換券流通高は一九〇一年より一九一一年迄の十年間に於て倍額となつた。即ち一九〇一年六月三十日の流通高は一億零一百萬法なりしが、一九一一年六月三十日には、二億零四百萬法となつた。而して兌換券の增加は一面手形割引の增進を示し、割引額の增加は、此銀行の經濟界に及ぼす利益の增進を示すのであるが、前記十年間に於て、實に三倍以上の增加にして、四億五千八百萬

法より十四億六千萬法まで上つたのである。

營業方針確立すると共に、アリゼリアと本國殊に巴里との關係益親密となり、又外國との商業取引も頻繁となりし爲め、此銀行の信用と聲價は漸次高まり來つた。殊に近來其の營業堅實にして而も繁盛なるが爲め、成績甚だ良好にして、配當金も左記の如く順次增加し、最近に於ては二割餘の高率に達して居る。

	一株の純配當金（所得稅差引濟）	配當率
一九〇二年	三〇法	六%
一九〇三年	三〇	六%
一九〇四年	四〇	八%
一九〇五年	四〇	八%
一九〇六年	四〇	八%
一九〇七年	四二·五〇	八·五%
一九〇八年	四七·五〇	九·五%
一九〇九年	五五	一一%
一九一〇年	六〇	一二%
一九一一年	六〇	一二%
一九一二年	八五	一七%
一九一三年	一〇五	二一%

一九一一年十二月より一九一二年八月迄の七個月間に於て、其の株式五百法拂込濟）の市價は二千四百九十法より三千四百零一法まで騰貴した。試に一九一三年中巴里ブールスに於ける現物取引市價を擧ぐれば、最高三千五百五十五法、最低二千九百九十八法であつた。

附　アルゼリア會社

Compagnie Algérienne.

アルゼリアを目的として營業する普通銀行數種あれども、悉く擧るを要せず、但アルゼリア會社は其の資本多大、營業亦繁昌にして、重要なる銀行なれば、簡短に附記し置かん。アルゼリアの不動產銀行たる「アルゼリア及チユニス不動產抵當銀行」

は、同じく注意する價値あるも、之は第五章に述べし如くである。此アルゼルア會社は、一八七七年に創立せられ、民間普通の銀行にして、アルゼリア銀行の如き特種銀行には非ず。現在の資本金は六千二百五十萬法(拂込濟)なるを以て、單に資本より見るも相當なる銀行である。本店は巴里に在り、別にマルセイユ、ニイス、マントン等の南部都市に支店を置き、アルゼリアは其の營業の目的地なれば、自然同國には多數の支店を開き、又チユニス、モロツコにも支店を設て居る。其の取扱ふ所は普通銀行業務にして、殊に佛本國とアルゼリアとの商業關係を助長し、またアルゼリア内地に於ける農業金融に資すること多大である。同行はアルゼリアに七萬五千エクタール(一「エクタール」は約二「エークル」半、約一町二畝歩)の地所を所有し、其の内四千二百「エクタール」は自ら之を使用し、殘餘は小作人に貸與へて居る。又アルゼリアの農業中心地には、農産物を收容すべき倉庫を有し、倉庫證券割引の形式にて收容農産物に對して貸附を爲す。其の貸附金高は一九一一年末に於て、一億五千九百萬法に上つた。其の營業範圍廣きため、アルゼリア、チユニスは勿論、佛國及び外國宛の商業手形の割引及び取立を爲す、殊にアルゼリア及びチユニスに多數の支店を有するを以て此の兩地に於ける取立業務には特別の便利を有す。北部亞弗利加の金利は勿論歐洲より高き爲め、低利なる佛本國の預金をアルゼリアに運用し、以て利益を擧るのである。隨て佛本國に於ける預金には比較的高率の利子を附するので、預金高は自然多額にして、一九一一年末に於て、總額二億零五百萬法に上つた。此外アルゼリア會社はアルゼリア及びチユニスの鑛業に投資し、且つアルゼリアの發行物にも關係す。其の營業狀態は良好にして、配當率も一八九九年には七分二厘なりしが、其の後順次增加して、一九一二年以來一割以上に達して居る。其の株式の現物取引市價は、一九一三年十一月に於て、五百法拂込株が一千四百二十六法を唱へし程である。

第一節に記せる如く、アルゼリア銀行は農業金融機關たることを止めて、アルゼリアの中央發行銀行たる業務に復歸したのであるが、而も他方に於て此のアルゼリア會社ありて、一般銀行業務を營むと同時に又農業金融機關として活動するを以て、兩々相俟つてアルゼリアの經濟的發展に貢獻するのである。而してアルゼリア會社が特に佛本國とアルゼリアとの商業關係を助長するに與りて力あるは、注意すべき事實である。

第二節　印度支那銀行

La Banque de l'Indo Chine.

殖民地銀行中最も重要なるものなるが、最も後れて一八七五年に創立せられた。當初資本金僅に八百萬法なりしが、其の後漸次增資し、一九一〇年一月の命令に依て承認されたる株主總會の決議を以て、四千八百萬法(四分一拂込)に增資した是れ現在の資本額である。當初より銀行券發行權を授けられ、割引、貸附を以て目的とせしが、一八八八年其の發行權をニユー、カレドニヤ、カンボジヤ、安南、及び東京(トンキン)に擴張することを許可せられた。發行權の期限は一九〇〇年の命令にて一九二〇年一月廿一日迄延長せられた。勿論特種銀行として政府の監督を受くるものなれば、其の定款は政府の承認を經て決定したのであるが、定款の改正も亦政府の承認を要す。又支店の開閉も一々政府の承認を經ねばならぬ。其業務の範圍に就ては定款中に詳細なる規定ありて、勿論之に準據するのであるが、配當金の決定も豫じめ殖民省と協定するのである。然かし其重役は官選に非ず、多數株を有する佛人株主一百名

を以て組織する株主總會に於て選擧す。又會計の監査は嚴重にして、政府の監理官一名及び殖民卿の指名する監査人數名之に當ることゝなつて居る。斯の如く佛國政府は此銀行に對して、多大なる監理權を有するのである。

此銀行の創立には、「クレディ、リヨネ」、「ソシエテ、ゼネラル」、「コントワール、ナショナル」の三大預金銀行は勿論「クレデイ、アンデウストリエル」及び巴里和蘭銀行も亦關與して有力なりき。故に此等創立銀行の代表者は、現に印度支那銀行重役中の多數を制して居る。「ソシエテ、ゼエラル」のルイ、ドリゾン氏、「コントワール、ナショナル」のウルマン氏、其の他經驗ある銀行家が其の重役として業務を指導して居る。以て此銀行の根據確實なることを窺知するに足る、

此銀行は他の殖民地銀行とは異なりて、其の本店を巴里に置て居る、加之創立者たる諸銀行が其の業務を補佐するを以て、預金の吸收及び其の他の方法に依て營業資金を得ることは容易である。隨て巴里に於ける低利の資金を集め、之を金利高き東部亞細亞に運用するものなれば、利益は自ら多し。殊に印度支那方面より本國に對する取立を爲す時は、無利子にて其取立資金を流用するの利益がある。而して

前記の如く、一八八八年以來印度支那は勿論、印度洋及び太平洋に於ける佛國殖民地及び保護國の全體に對して、其の營業特權を擴張したるを以て、支那に對する業務も自ら發展し、近き將來に於ては日本との取引も亦增加し來るならん。

東部亞細亞に於ける其支店擴張の事情を一瞥せんに、創立の年なる一八七五年に於て直に柴棍に支店を設け、翌一八七六年には、ボンドシェリーに、一八九〇年には、ハイフォン、ハノイ（以上東京（トンキン））、トウレーン（安南）、プノムペン（カンボジャ）の四個所に、一八九四年には、從來其の爲替取組先たりし「コントワール、ナショナル」香港支店閉鎖の際之れを引繼ぎて香港に、一八九七年には遲羅國盤谷府に、一八九八年には上海に、夫々支店を開いた。事實上東亞細亞に於ける商工業の中心地には殆んど皆其の營業所を開いたのである。殊に香港は此銀行に取て頗る重要なる地點である。そは交趾支那及び東京（トンキン）より支那へ輸入する米及び此等殖民地に輸入さるゝ英國及び支那の商品は、大抵香港を經由するものにして、香港に於ける業務は餘程多大なるが爲めである。故に印度支那銀行は香港を通過する貨物に對して荷爲換を取扱ふて居る。然れど香港には二個の强力なる競爭者あり、一は獨逸東亞貿易の金融機關たる獨亞銀行（ドイチエ、アジアチツシエ、バンク）の香港支店にして、他は極東に於て至大なる信用と勢力を有する英國の殖民地銀行たる香港上海銀行の香港本店である。此以外に印度支那銀行は、ニユー、カレドニヤ及び東太平洋上のタヒチ島に支店を置き、飛んで亞弗利加ソマリ、コースト保護國の首府ジブチにも支店を開て居る。其の支店の總數は約二十である。斯く其の營業範圍は佛領印度支那全部を根據として、遲羅、英領印度、支那、香港を含み、東は南洋諸島に及び、西は紅海の入口にまで達して居るのである。

印度支那銀行の業務は、主として手形の割引であるが、獨り海外貿易に關する手形に限らず、東亞に於ける佛國殖民地の內部、東亞諸地方及び支那の地方的商業に關するものをも割引す。而してアルゼリア銀行と同じく、二個署名の手形を割引するのである。又歐洲より東亞及び東亞より歐洲に宛つる手形の取立、及び電信爲換を取扱ふ。殊に手形の取立は頗る手廣く行はれ、其の爲換作用にて利する所多し。其他には佛領印度支那と支那との間に於ける貴金屬の賣買を爲す。又他の殖民地銀行と同じく、土民の生產品（主として農產物）及び此地方にある歐洲商人が歐洲より輸入する貨物に對して貸附を爲すため、自然の必要上、一方に倉庫業、物品送達業、代

理販賣業等を營んで居る。然かし其業務は決して以上に限らず、其の定款には當座貸越を爲し、其の營業區域内に於て公債に應募し、其の他商工會社の創立及び一般財的業務に關係することを承認しあり。印度支那銀行の營業範圍は斯く廣濶なる爲め、他國の殖民地銀行と競爭する點に於て多大の利益を有するのである。現に佛國殖民地にある鐵道會社の創立に關與し、又東亞細亞にある佛國殖民地及び保護國の公債を發行せしのみならず、支那の財的業務にも關係したのである。廣東漢口線及び其の外一線の支那鐵道の借款に加入せる佛國資本團の首長たりしは、實に印度支那銀行であつた。

交趾支那は單一農產物の國にて、殆んど米のみを生產するものなれば、印度支那銀行の業務に幾分か危險を與ふることは注意に値す。交趾支那の耕作地の面積は合計一百五十二萬二千六百六十六「ヘクタール」にして、其の内一百三十五萬八千七百六「ヘクタール」は米の耕作に使用せられ居るを以て、其の農產物の殆んど全部は米であると謂うも可なり。東京に於ける米と他の農產物との比例は、交趾支那に於ける如く多大の相異を示さざるも、而も主要農產物は依然米である。而して此多量の米は大抵支那方面に輸出さるゝものので、日本には支那を通じて輸入せらる。交趾支那では柴棍を經、東京では主としてハイフォンを經て輸出するので、定期航海船が此等輸出港に寄航するのである。而も農產物の恒例として、年に豐凶あり其の生產額一定せざるを以て、其の輸出額も時々大に變化するを免れず、今一九〇二年より一九一一年に至る十年間に就て見るに、交趾支那の最高輸出額は、一九〇七年の約百四十二萬三千噸、其の最低額は一九〇五年の約五十萬六千噸にして、一年の平均輸出額は約八十五萬六千噸である。又東京の方は前記十個年間に於て、輸出最高額は一九〇八年の二十五萬三千噸、最低額は一九〇六年の六萬噸にて、平均一年に約十二萬七千噸である。以上の數字に依れば、此兩殖民地の輸出米は餘程多額なると同時に、其の產出額に變動多きを知るべし。一九一一年の如きは、交趾支那の輸出額は僅かに六十五萬二千噸にして、東京は割合に多く十九萬噸であつた。其の理由は同年交趾支那の米作は凶歉にして平年作以下に落ちたので、其の結果印度支那總督の命令にて交趾支那及び東京よりの米の輸出を制限して、漸やく内地の需要を充たせし程にて、之が爲め印度支那の米價は前年に比して二倍半乃至三倍方暴

騰したのである。安南も亦米を產出すれども、遙に少額にして、輸出年額は六千噸乃至一萬五千噸に過ぎず。斯の如く米は印度支那經濟界の消長に深甚の關係あるものにして、其の輸出の增減の爲め、爲替相場に變動を來すこと甚だしきは明瞭である。其の結果は勿論印度支那銀行の業務に至大の影響を與へるのである。是れ曩に單一農產物が此銀行の業務に幾分の危險を加ふべしと言へる所以である。

同時に貨幣問題も亦爲替に影響するのである。貨幣問題に對する困難は略排除せられし如く見ゆれども、其の實未だ根本的に救治せられしには非ず。當初印度支那銀行創立の際、佛領印度支那に流通せし貨幣は重もに墨西哥一弗銀貨即ち墨銀と俗稱するものなりしが、其の總量目は銀二七・〇(グラム)七三にして、東亞英領地の壹弗銀貨及び日本の舊壹圓銀貨よりも多量なる爲め、漸次驅逐せられ、香港を經て支那へ入れり。之が爲め通貨收縮し、其弊殊に交趾支那に甚だしく、印度支那銀行の正貨も爲に危險に瀕するに至つた。其結果巴里造幣局に於て墨銀に對抗すべく、其の一弗に相當する佛國ピヤストル(總量目二七・二(グラム)一五)を鑄造し、其の額五百萬ピヤストルを交趾支那に輸入した。實に一八八六年のことであつた。然るに此の新銀貨は速か

に土民の手中に入り、又外國に驅逐されて還り來らず、爲めに印度支那銀行に取りては何等正貨の補充と爲すに足らず、困難は依然として前日と同樣であつた。是に於て一八九〇年に至りて、已むなく一「ピヤストル」の兌換券を發行した。其の後墨銀が支那へ輸出されし反動として、一時佛國ピヤストルは印度支那に還る傾向を生せしが、而も永續せずして、又々墨銀の後を逐うて輸出さるゝに至つた。蓋し新銀貨は墨銀に比し量目多きを以て、其の驅逐せらるゝは寧ろ當然であつた。是に於てか佛國ピヤストルの量目を減ずるに如かずと爲し、一八九五年に至りて之を銀二七グラムに減じた。即ち總量目に於て墨銀に劣ること〇・〇(グラム)七三にして、而も尙英弗及び日本圓に優つて居た。此新銀貨二千萬ピヤストルを巴里にて鑄造し、之を輸入したので、漸やく佛國銀貨の地位堅確となり、殖民地內の流通貨幣となるに至つたのである。從來日本の壹圓銀貨は東亞佛領地に於て墨銀と相並んで流通して居たのであるが、其後廢止せられ、漸次引上げられしことは邦人の熟知する所である。斯くて東亞佛領地の貨幣問題は解決したるが如くなるも、而も銀相場の變動劇甚なるを以て、依然佛銀貨の價格の動搖を免れず、故に佛國識者の間には、根本的解決策とし

て現在佛領印度支那に於ける銀本位制を廢止し、金本位制を採用するに如かずと論ずる人さへあり。

印度支那銀行が東亞殖民地の發達に資益せし程度は、其の同地方の金利を低下せし事實に依て明瞭である、總て何國に於ても殖民地の金利は比較的高率なるを常とするが、印度支那銀行の業務發展と共に漸次低利の資金を此地方に供給するに至りしかば、此等殖民地經濟上の發達を扶けしことは言ふ迄もなく、延て其の一般金利を低減する結果となつたのである。今印度支那銀行の割引利息を見るに、一八九五年迄は七分九厘乃至一割二分なりしが、同年以後は稍減少して六分乃至一割二分となつた。又東亞殖民地に於ける商品擔保貸附も、一八八二年には一割五分なりしが、其の後は六分乃至九分に低下した。特に著しく低下せるは、未收穫農產物に對する貸附の利子にして、一八八五―一八八六年迄は一割五分なりしが、一八九〇年より一九〇〇年迄の十年間に一割となり、一九〇〇―一九〇一年には八分となり、一九一〇年には僅々六分となつた。對未收農產物貸附の利子が斯く他に比して著しき低減を爲せるは、近來印度支那政府が農業金融を助くる趣旨を以て、此種

貸附に對して保證を與ふるが爲めである。同時に一般倉庫又は印度支那銀行自己の倉庫に收容しある米に對する貸附及び歐洲よりの輸入商品に對する貸附は、漸次其の利率を低下し、延て其の取扱高も大に增加して來た。殊に注意に値するは、印度支那銀行の業務未だ發展せざる頃には、土民なる農業者は資金の必要に迫られ已むなく支那人の高利貸より月四分の高利にて資金を借りし時代もあつた。而も今日は印度支那銀行より低利資金の供給を受るを以て、此等農民の享有する利益は勿論莫大にして、延て佛領東亞殖民地農業の發達を助くること亦多大である。

既に記せる如く印度支那銀行は東亞殖民地に於て兌換券の發行權を有するが、アルゼリア銀行とは其の趣を異にし、單に發行銀行の業務のみに從事せず同時に大に農業金融に盡力するのである、上來記する所即ち之を證明するに足る。然かし發行銀行としての業務も亦發達し、其の兌換券發行額は漸次增加し來つた、即ち一八八三年には其の發行額は七百七十八萬二千九百法なりしが、一九〇九年には六千零二十七萬四千法、一九一一年には六千三百十六萬四千法となつた。而して一般發行銀行とは、事情を異にし、正貨準備が却つて發行額よりも多きことがある、即ち

一八八三年には正貨在高は非常に少額にして、一百九十四萬法に過ぎざりしが、一九〇九年には、發行額六千萬餘に對して、正貨在高は九千二百二十九萬三千法であつた。尚同時に對未收農產物貸附は漸次增加し、割引及び當座取引も著しく發展した。左に一八八三年より一九〇九年迄の營業成績表を揭載せん、之に依るも其の營業は餘程盛大にして、配當は一九〇八年及び一九〇九年は四割の高率に達せしが、一九一〇年及び一九一一年も同じく四割にて、一九一二年には、配當金五十二法五十貰、即ち百二十五法拂込株に對して四割二分に達したのである。而して將來に於ても此高率の配當を持續し得べきことは、營業の狀態より推論して疑ふべき餘地なし。

一八八三—一九〇九年印度支那銀行營業成績表

年次	正貨在高	銀行券發行額	諸種貸附及割引	二個署名手形割引	未收穫農產物擔保貸附	當座勘定	配當率
	千法	千法	千法	千法	千法	千法	
一八八三年	一、九四〇・二	七、七八二・九	二〇、四二九・三	一〇、三七四・〇	三一〇・〇	二二、九四一・四	一割八厘
一八八五年	四八三・七	八、一三八・五	五三、〇二五・三	二九、九九三・七	一九四・〇	三六、二八九・一	一割六分
一八九〇年	八三二・五	一五、九一一・二	六〇、〇〇九・七	三一、五二六・二	二七三・〇	四九、六八六・〇	一割六分
一八九五年	九、二〇九・一	一七、〇二九・〇	九四、〇九〇・三	四九、二九七・六	八八・二	五六、六四四・六	一割七分六厘
一九〇〇年	二九、四三七・四	二七、七二四・〇	二二八、三五六・六	一一二、二五六・六	二七四・九	一四九、四五八・〇	二割
一九〇五年	二六、五七〇・〇	四六、八六一・七	三五九、二八一・八	一八二、七一〇・六	一、七三九・六	三〇〇、二四九・一	二割六分
一九〇六年	三二、八三八・六	五六、〇七九・八	三七三、四八〇・〇	一八二、四五三・三	一、二五五・二	三二七、六四五・六	二割六分
一九〇七年	三五、三〇六・五	五二、七四九・四	五二四、一三四・九	二一七、九〇七・一	七一七・一	三二七、六〇一・一	二割八分
一九〇八年	六五、六五二・九	五七、〇〇〇・二	五二八、五七二・九	二〇六、三一五・二	三六七	四三、六四〇・〇	四割
一九〇九年	九二、二九三・八	六〇、二七四・二	四九三、二二九・四	二九六、二七四・二	三〇六・四	三七二、四八六・六	四割

其營業範圍廣大にして、業務着々發展する爲め、自ら資本の增加を要するので、次節に記すべきマルチニック島、ガーデローブ島、レユニオン島の三銀行が、創立以來三百萬法の小資本にて少しも增資せざるに拘らず、此銀行の資本は、一九一〇年以來四千八百萬法四分一拂込に增加せられて居る。而も之と同時に其の積立金は非常の增加を爲し、一八八五年には僅に十九萬法なりしものが、順次增額して、一九一一年には、實に三千七百四十八萬法に達した、即ち資本金の約四分の三に當て居る。故に資本金と積立金を合せば、自己資金が約八千五百五十萬法に上るのである。而して積立金は新株發行の打歩に依て多大の增加を爲したのである。印度支那銀行

の株式の市價は、一九一三年十一月に於て百二十五法拂込株が一株千五百五十一法を唱へた、實に拂込額の十二倍餘である。

以上の事實を綜約すれば、印度支那銀行の業務は非常の成功と謂はねばならぬ。元來殖民地の金融業は危險多く、又爲替作用に幾分不利の事情あるに拘らず、印度支那銀行が此の如き好成績を擧ぐるは、勿論佛國政府の特別なる庇護に因るが、他の有力なる原因は、「レユニオン」島ガーデロープ島、及びマルチニック島の銀行と異なりて、本店を巴里に有し、佛國の低利資金を東亞殖民地に使用するの利益あることと、及び其重役中に佛國錚々たる銀行家を有することである。序に一言せんに、余輩は敢て殖民地銀行の本店を其の本國の首府に置くことを主張するものに非ず。現に獨逸の獨亞銀行（ドイツチ・アジアチシエ・バンク）の本店は上海にあり、英國の香港上海銀行の本店は香港にありて、夫々東亞に於て活動して居るのである。殖民地銀行經營策としては、寧ろ本店を其の營業地なる殖民地に置くを以て理想的と爲す。然れども佛國は一般に中央集權的傾向を帶び、且つ其殖民地の發達寧ろ遲緩なるが故に、本國首府の金融界を離れては、殖民地銀行の發展を期し難き事情あり。隨つて印度支那銀行の如きも其の本店を巴里に置く爲め營業上多大の利益を蒙るのである。次節に於て他の殖民地銀行を叙述する際、再び此の問題に言及すべければ、此には詳說せず。

第三節

レユニオン銀行
Banque de la Réunion

ガーデループ銀行
Banque de la Guadeloupe

マルチニック銀行
Banque de la Martinique

ギアナ銀行
Banque de Guyane.

西部亞弗利加銀行（舊セネガル銀行）
Banque de l'Afrique Occidentale.

最後に置かれたのである。

然同様に一創型の殖民地銀行は今此五行中レユニオン・ダガスカル島の東約四百二十哩に在りダダガスカル島の一部たる英領モーリシャス・百餘平方哩人口十七萬三千餘ルーデ・ア・ナ・百餘平方哩人口十五萬九千餘ガ・ヂ

此等銀行は何れも其の所在殖民地に於て銀行券を發行する特權を有す、銀行券の種類は、五百法、百法、廿五法、五法にして、正貨準備の三倍迄之を發行することを許可されて居る。但し流通銀行券、當座預金、其の他銀行の負債となるべき諸勘定の合計は、拂込資本と積立金との合計の三倍を超過することを得ざる制限あり、勿論正貨準備が增加する場合は、此限りにあらず。此等銀行は何れも印度支那銀行と同じく二個署名の手形を割引くのであるが、其の割引歩合は六分乃至七分にして、期限は九十日乃至百二十日である。又船荷證書、倉庫證券及び未收穫農產物に對して割引を爲すことを得べし、其他には殖民地の一般產物に對して貸附を爲す。西部亞弗利加銀行は其本店を巴里に置くを以て、姑らく別とし、他の殖民地銀行が資金を要する時は、自然巴里にて之を調達するのであるが、殊に「コントワール、ナショナル」より其の供給を受ること多く、此等銀行は何れも「コントワール、ナショナル」に當座勘定を有して居る。勿論佛蘭西銀行より借入れしこともあるが、「コントワール、ナショナル」とは、特別の關係を有して居る。第四章「コントワール、ナショナル」の部に記せし如く、同行がレユニオン島支店を閉鎖せし際、レユニオン銀行が之を引繼きし位なれば、以て相互の關係を察するに足らん。レユニオン、ガーデルーブ、マルチニックの三銀行は、是迄七分五厘乃至九分三厘五毛の配當を爲せしこともあるが、是は、大抵砂糖の收穫多大にして、一般農工業殷賑なりし年にして、凶歉又は農產物市價暴落の際は、餘程窮境に陷ゐつたのである。

今姑らく西部亞弗利加銀行を除きて論ずれば、此等殖民地銀行は、其の營業區域餘り狹小なると、其の土地の經濟事情に夫々特種の困難あるとに依り、從來充分の發展を遂ぐること能はず、何れも失敗である。故に其の營業狀態を詳說するよりも、寧ろ其の所在殖民地の經濟事情を研究し、其の失敗の理由を考査せば更に有益ならん。レユニオン、ガーデルーブ、マルチニックの三島に於ける主要農產物は砂糖にして、其の他の農產物の生產額は之に比して言ふに足らざる程の少量である。今一九一〇年に於ける此三島よりの食料品輸出總計を見るに、左の如し。

	一〇、九一六、五六五法
レユニオン	
ガーデルーブ	二〇、一五九、五七五
マルチニック	一七、三四八、二〇二

合　計

而して右の數字の八割五分は、實に砂糖にして、砂糖は其の農產物の殆んど全部を占めて居るのである。是れ亦殆んど單一農產物にして、砂糖が其の經濟事情を左右する勢力を有し、其の收穫の多少と價格の變動に依て、影響を與ること甚だしく、一朝砂糖市場に恐慌ある時は、直に多數の倒產者を出すのである。其の結果は恰も印度支那に於ける米と同樣なるが、印度支那銀行は其營業區域が廣大なると、巴里の中央財界と緊切なる接觸を保ち居る爲め、其弊を受ること爾く甚大でないが、此等銀行は何れも營業區域狹小にして、而も單一農產物の影響を蒙ること痛切なるを以て、頗る不利と謂はざるを得ず。此三島の經濟事情は、一に砂糖市場に支配せらるゝものなれば、此等の銀行は何れも其の市況に隨伴して營業せねばならぬ、若し砂糖の輸出が著しく減少する時は、急激なる爲換相場の變動を來すのであるが、此等銀行は苟くも殖民地の發行銀行たる以上、此の爲換相場の變動を避くるの必要あり、隨て輸出の減少に對して、他方に於て輸入を制限する策を取らねばならぬ、此間に處して爲換相場を調節するは、決して容易の業に非ず。現に今日迄砂糖市場の變

動の爲め恐慌に罹りしこと一再ならず、一八九〇年の如きは、砂糖の價格暴落の結果、レユニオン銀行は殆んど破產に瀕し、其銀行券の兌換に應ずること能はざる窮況に陷つた。幸に當時巴里の「コントワール、ナショナル」との勘定が貸越となり居たるため、此資金を引出して一時の急に應ずることを得た。ガードループ銀行、マルチニック銀行も、亦砂糖に關聯して同樣の恐慌に會せしこと數次であつた。

次にギアナは前記の三殖民地とは稍其の事情を異にす。往年は亦砂糖を以て主要農產物とせしが、奴隸廢止の結果、其の生產著しく減少し、今日では其減少の程度一層甚だし。隨つて此殖民地發展の望愈微少となり、銀行業務も自然減退し、ギアナ銀行は一時廢業するを免れざる狀態に陷つたのである。然るに幸にもギアナ全土は金を產するので、漸やく新發展の素地を見出すことを得た。ギアナに於ける金鑛の發見は、一八五五年のことにて、ギアナ銀行の設立と殆んど同時なるが、其後金の採掘額漸次增加するに隨ひ、銀行業務も之に連れて增加し、遂に此銀行の命脈を維ぐことを得たのである。

最後に西部亞弗利加銀行に言及せん。其前身たるセヂガル銀行時代には、單にセ

セネガルのみを以て營業區域となせしが、セネガルに於ける殆んど唯一の農産物は落花生なるを以て、是れ亦單一農産物たる不利あり。而して此銀行の業務は此の一小區域に局限せられ居たるを以て、實際何等の發展を爲すこと能はざりき。一九〇一年、其の營業區域を佛領西部亞弗利加全體に擴張し、今日の西部亞弗利加銀行と爲して以來、上部セネガル及びナイジャーの主要産物たる護謨、其他各地の種々なる産物を合することを得て、茲に始めて單一農産物の不利を免れ、業務上大に便利と安全を得ることゝなつた。故に西部亞弗利加銀行に改造せられし以後の發展は實に顯著なるものあり。此の營業區域擴張の好結果は、同行を促して更に一段の進歩を企圖するに至らしめ、進んでマダガスカル島にある「コントワール、ナショナル」の諸支店を引繼ぎ、同島を其營業區域内に包擁し、資本を增加して東西亞弗利加銀行と改稱するの計畫既に進捗し居りて、今現に佛國政府の許可を待ちつゝあり。以て其の前途の多望なるを知るべきであるが、之と同時に營業區域の擴張は、此等殖民地銀行發展の一要件なることを寃ふに足らん。尚又西部亞弗利加銀行は、一九〇一年「セネガル」銀行より改造の際、其の本店を巴里に移せしが、是れ亦其の一般殖民地銀行中、別に一頭地を抽て發展せし原因の一である。同行の營業成績は良好にして、一九一一―一二年度の配當は一割、一九一二―一三年度は一割二分にして、其株式（百二十五法拂込）は、一九一三年十月に於て八百六十法の現物相場を唱へた。故に此銀行は印度支那銀行と共に佛國殖民地銀行中の成功者である。

以上叙述せる如く、西部亞弗利加銀行を除けば、他は何れも停止的狀態に在りて毫も發展せず、寧ろ全然失敗なりと謂て可なり。抑もレユニオン、ガーデルーブ、マルチニック及びギアナは佛國の古き殖民地にして、而も多額の農産物を有し、殊にギアナは金を産する程にて、天然の財源豐富なるに拘らず、此等銀行は創業以來茲に六十年、其資本は今尚創立當時の三百萬法（ギアナ銀行のみは更に少くして六十萬法）にて毫も增加せられず、營業依然不振にして、殖民地の經濟的發達に資益する所少きは、果して何に職由するや。由來佛國の殖民政策は不成功にして、殖民地の發展見るべきものなく、現にマルチニック島及びガーデルーブ島の如きは、今尚鐵道を有せず、唯レユニオン島に百二十七キロメートルの線路ある位に過ぎざれば、殖民地銀行の發展も自ら困難なりと謂はねばならぬ。然かし又反對に殖民地金融機關

の不振が、殖民地萎微の一原因を成すと言ふことを得べし。此等銀行不振の原因として第一に挙ぐべきは、其營業區域餘り狹小なる爲め、土地の生產物に制限あり、其の取引も寡少なれば、充分なる銀行業務を得る能はざること是れである。現にセヰガル銀行が西部亞弗利加銀行となり、其の營業區域を擴張して以後顯著なる發展を爲せし事實に依ても明瞭である。第二は其本店が殖民地にありて、巴里に無きことである。印度支那銀行發展の一原因は、既記の如く巴里に本店を置けることとなるが、西部亞弗利加銀行も亦巴里に本店を置て以來長足の發達を爲したのである。既に印度支那銀行に就て言へる如く、香港上海銀行は本店を香港に置き、倫敦には唯支店を置くに過ぎざれども、彼が如く多大の發展を爲して居る。又獨亞銀行の本店は上海にある位なれば、殖民地に本店を置くことは、殖民地銀行本來の目的に副ふのであるが、佛國の銀行業は英國等とは趣を異にし、巴里を中心と爲さざれば、諸種の關係に於て不利なるのみならず、佛國殖民地其者が英國のそれの如く發達し居らざるを以て、此等銀行の發展策として、巴里に其本店を移すは亦已むを得ざることならん。第三には其資本寡少にして今尙增資せざることである。是れ實は其の不

振の原因にして、又結果である。然かし資本を增加すれば、其業務も自ら擴張せらるゝこと疑を容れず、尤も資本の增加は、其の營業區域の擴張と相俟つて效を奏すべきは勿論である。

此等四銀行が全然失敗なることは、佛國の識者も既に之を認め、其改革を希望して居る。彼等の改革意見は、此四行を合して一團と爲し、其營業區域を現在四行の包擁する殖民地全部に擴張すべしといふのであるが、彼等は斯くせざれば必らずや多大の發展を見るに至るべしと唱道して居る。佛國政府も今日は既に此種改革の必要を承認し、殖民省は現に殖民地銀行調査委員を任命して、之が改革案を調査せしめて居る。一九一三年四月、殖民卿は政府の意向を示すため、左の宣言を發した。

『殖民省はガーデルーブ、マルチニック、ギアナ、レユニオン四殖民地銀行の特權を更改繼續するの意志無く、寧ろ殖民地銀行調査委員の採用せる決議に基づき、佛國に其本店を置き、此等四殖民地を通じて、發行權を行使する一個の銀行を設立し、之に營業特權を附與する法案を議會に提出する意向である。

此目的の爲め必要なる法律、及び新設銀行定款の案文を起草すべき特別委員

は、既に任命せられ、其事務は着々進捗しつゝあり、故に其準備成ると共に、殖民省は必要なる法案を議會に提出する豫定である云々』

此宣言に依れば、佛國政府は此四行を打つて一團と爲し、更に廣大なる營業區域を有する銀行と爲し、而も其本店を巴里に置かんとするものにして、恰もセヂガル銀行を擴張して、西部亞弗利加銀行と爲せる如くせんとするのである、是れ此四行に比して西部亞弗利加銀行が獨り成功せる理由如何に鑒みる所ありて然るや、察するに餘あり、此改革案は即ち既に提唱せる如く、此四行の營業區域を擴張し、同時に本店を巴里に置くことを骨子とせるを以て、將來殖民地銀行の面目を一變するは勿論、之に依て佛國銀行系統の弱點たりし殖民地銀行制度に刷新を見るに至るべきは、期して待つべしである。

第十章　外國業務に關する銀行

佛國銀行及び資本家が、外國にある外國銀行の株主となり、又は外國銀行及び資本家と協力して外國に銀行を設立せるものは頗る多し、是れ佛國銀行業の海外發展を示すものにして、同時に佛國の資力の甚だ豐富なることを證するに足る、然れども此等は何れも外國の商事會社として設立せるものなれば、純然たる佛國銀行とは言ふことを得ず、今此等の銀行を一々叙述する時は、甚だ煩雜となるため省略し、唯外國に關する業務を目的とし、佛國の會社として設立せられたる諸銀行の概況を叙述することゝせん、勿論佛國の大銀行は、三大預金銀行を始めとし、何れも外國の業務を取扱ふのであるが、茲に叙述する銀行は、當初より外國業務を專門とし、其存在の條件として、多數の場合に於て外國に支店を有し、常に外國との關係を持續するものである、何れも未だ以て大銀行とは爲すに足らずと雖も、而も外國との特種關係を保持する點に於て有用にして、佛國の海外發展を助長するに與つて力あり。

曩に第四章第二節第三に於て、大預金銀行の外國同盟銀行として擧げたる五銀行は、悉く佛國の會社にあらざるも、卽ち此種外國業務に關する銀行である。就中

佛國銀行及預金會社 (Société Française de Banque et de Dépôt)

露亞銀行 (Banque Russo-Asiatique)

佛葡銀行 (Crédit Franco-Portugais)

の三行は、夫々巴里大預金銀行の庇護を受るに相違なきも、而も其組織に於て獨立の會社にして、何れも外國との取引を主眼として營業し、且つ相當の歷史を有するものなれば、茲に叙述するを適當とすれども、既に第四章に說明し置けるを以て今之を再錄せず。

此種の銀行として舊來存續し、茲に叙述すべきもの一行あり、そは卽ち瑞佛銀行である。

瑞佛銀行 (Banque Suisse et Française)

一八九四年、佛國銀行家と瑞西銀行家との協力に依て創立されしものにて、其目的は佛國の與ふる金融上の援助を瑞西に及ぼさんとするに在り、隨て巴里市場に於て瑞西の有價證券を發行するに便し、又佛國と瑞西との商取引に資益する所多く、同時に巴里にて預金を吸收することを得べし。資本は現在四千萬法全額拂込、本店は巴里にあり、支店は北部の要地なるリールと南部の商港たるマルセイユに設けられ、其他に北部のトウルコアンに代理店を置く、而して瑞西には支店無し。リール及びトウルコアンは北部毛織物業の中心地なれば、此地方との取引に便する爲め前記の二市に營業所を置くのである。

其金額は多大ならざるも或種發行物の賣出に當つて成功した、又別に巴里市內二三の事業に投資して居る。他銀行に比し高き預金利子を附して預金の吸收に勉むるため、其預金高は比較的に多く、一九一二年十二月卅一日現在の狀態は左の如し。

預金	一二七・四	(百萬法)
割引手形	六三・三	
擔保貸附	四一・五	
引受	二五・二	

現金、預ケ金、ルポール	五七・一
貸越	二九・七
取立利札	五・二

積立金は一九一二年に於て八百萬法に上り、同年度の配當は六分五厘であつた。一九一三年度に於ては配當率に變化なきも、積立金は一千一百七十七萬法餘に達して居た。

從來佛國が外國殊に獨逸の資本家と協力して設立せし外國銀行は、却つて佛國の爲め貿易上又は其の他の關係に於て左程援助とならざる傾向あり、例せば伊太利にある伊太利商業銀行(Banca Commerciale Italiana)の如きは、資本金一億三千萬リラ(全額拂込)を有する大銀行にして、元と獨逸銀行家の計畫に成り、其の增資の際、巴里和蘭銀行が株式の多數を引受け、其有力なる投資者となつたのであるが、空しく獨逸の機關と爲り了りて、佛國の爲めには餘り用を爲さないのである。其他羅馬尼、勃牙利に於ても之と同樣の事實がある。故に佛國の銀行家も近來大に覺る所あり、獨逸と離れ、自國の資本のみを以て、若くば其設立地なる外國の資本を合して、佛國銀行

を海外に設立するに至りたり。現に最近十年間に於て、佛國の銀行家及び資本家が、外國の銀行家及び資本家と協戮提携して、佛國と當該外國との金融上の聯絡を固ふすべく、本店を巴里に、支店を關係外國に有する所謂外國業務の銀行を設置せる事例は、著しく多數である。是れ佛國の海外銀行政策の一轉機を示すものとして、注意するの價値あり、今此等の新銀行中重要なるものを、其創立年次に依て左に略叙するが、何れも開業後日尙淺く、未だ充分なる發展を爲さざるを以て、記すべき事實少し。

亞佛銀行(アルゼンチン・フランス)(Banque Argentine et Française)

一九〇九年十月設立、資本一千萬法四分三拂込、本店は巴里に在り、亞爾然丁の「リオ、デ、ラ、プラタ佛國銀行」(Banque Française du Rio de la Plata)と特別の關係を有し、其の巴里コルレスポンデントである「リオ、デ、ラ、プラタ佛國銀行」は、一八八六年に亞爾然丁の法律に依て創立されしものにて、本店は同國首府ビエノス、アイレスにあり、支店を巴里に置て居たが、佛國の出資多額なれば、要するに亞爾然丁との取引を主眼とする佛國の機關である。然るに其本店が亞爾然丁に在り、而も營業不活潑にして、其

競爭者たる西班牙國の會社なる「リオ、ド、ラ、プラタ(西國銀行(Banco Español del Río de la Plata)に壓迫せらるゝ傾向なりき。此の西班牙銀行は同じく亞爾然丁の業務を目的とし、而も同年なる一八八六年に設立されしもので、本店を西班牙國首府マドリッドに、支店を巴里に置て居るが、巴里支店の業務は比較的繁昌である。故に之と競爭するため、近年佛國側リオ、ド、ラ、プラタ銀行の巴里支店を此亞佛銀行に讓り、之を巴里コルレスポンデントとしたのである。元來佛國と亞爾然丁とは貿易關係親密にして、殊に巴里在住の亞爾然丁人多く、商業又は娯樂の爲め歐洲に旅行する亞人は、大抵巴里を根據地として諸般の事務を處理する傾向あるを以て、亞爾然丁に關する銀行の巴里コルレスポンデントは相當に業務を有するのである。一九一一―一二年度及び一九一二―一三年度の配當率は共に五分であつた。

佛伊共立南米銀行(Banque Française et Italienne pour l'Amérique du Sud)

一九一〇年五月設立、資本二千五百萬法全額拂込、巴里和蘭銀行及び伊太利商業銀行(イタリアナ)の助力に依て成立せるものにて、伊太利及び伯羅西爾の資本家も亦關與して居る。目的は伯羅西爾國に關する業務を取扱ふのである。此銀行は伯羅西爾國サン、パウロ市にありし伊伯商業銀行(Banque Commerciale Italo-Brésilienne)を合併せしため、佛國對伯羅西爾の金融機關として有力である。將來伯羅西爾に於ける佛國勢力の發展に資する所大なるべく、殊に巴里和蘭銀行及び伊太利商業銀行の庇護あるを以て、世人は皆其前途に囑望して居る。本店は巴里に在り、支店は伯羅西爾國サン、パウロ、リオ、デ、ジャネロ等の要地十數個所に置かれ、別に亞爾然丁の首府ビュエノス、アイレスに支店を開て居る。一九一三年末の積立金は一千一百十五萬法餘であつた、最近配當率は未だ詳かならず。

佛塞(ヘルヒヤ)銀行(Banque Franco-Serbe)

一九一〇年六月設立、資本一千二百萬法全額拂込である、創立者は主として「ユニオン、パリジアンヌ」にして、オトマン帝國銀行、「ソシエテ、ゼネラル」等之に協力した。其本店は巴里にあり、別に營業所を塞爾比亞の首府ベルグラード府に置き、之をベルグラード本店と稱す。特にベルグラード本店と呼ばざるは、塞爾比亞側出資者に幾分の勢力と格式を保たしむる爲めである。又ベルグラードに塞爾比亞側出資者を代表する相談會なるものありて、地方的業務の諮問機關となつて居

る。此相談會は三名乃至五名を以て組織せらる。一九一四年度の配當率は六分であつた。

平丁共和國國民銀行(Banque National de la République d'Haiti)

一九一一年二月設立、資本二千萬法四分一拂込「ユニオン、パリジアンヌ」主として其創立に與かり、米國資本家も亦協力した、重役中に紐育の資本家四名あり、外に獨逸人一名あり。本店は巴里に、支店はヘイテ島内に若干あり。一九一三年度の配當率は七分にして、外に收益持分に對する配當あり。

北國銀行(Banque des Pays du Nord)

一九一一年二月設立、資本は當初二千五百萬法なりしが、一九一二年正月、三千萬法(全額拂込)に增資した。但し定款の規定に依り、單に重役會の決議を以て七千五百萬法迄增資することを得べし。設立者中には、巴里和蘭銀行を始めとし、ストックホルム、コペンハーゲン及びクリスチアナに於ける有數の銀行あり、此等創立銀行の重役が現に此銀行の重役を兼て居る。目的は巴里金融市場に於て丁抹、瑞典、諾威諸邦に關する發行其他一般財的業務を取扱ふに在り。然るに近年に於て彼得具羅土のアゾウ・ドン商業銀行の頭取が此銀行の重役となりしは、注意すべき事實にして露西亞との關係も亦深くなつたのである。其本店は巴里にあり、關係諸國には別に支店を設けず。最近の配當率は未だ詳かならず。

伯羅西爾佛國銀行(Banque Française pour le Brésil)

一九一一年九月設立、資本は壹千五百萬法である。佛國資本家と伯羅西爾資本家の協力に依て成立せるものにして、伯羅西爾人三名其重役となり、而も其一人は副頭取である。本店を巴里に、支店を伯羅西爾國サン、パウロ及びサントスに置き、專ら佛伯兩國間の業務に當る。最近配當率は未だ詳かならず。

日佛銀行(Banque Franco-Japonaise)

一九一二年七月設立、資本二千五百萬法四分一拂込、佛國と日本の協同出資に依りて成立し、佛國側の創立者は「ソシエテ、ゼネラル」「コントワール、ナショナル」「巴里和蘭銀行」「グンツブルグ商會」等を主とし、日本側の創立者は、日本興業銀行を主とし、三菱合資會社銀行部、三井銀行、第一銀行、橫濱正金銀行等である。佛國と日本との財的聯絡を圖るため計畫せられしものにて、兩國政府に於て其設立を奬勵したのであ

る。重役中には「ソシエテ、ゼネラル」、巴里和蘭銀行、グンツブルグ商會、日本興業銀行、三井銀行、横濱正金銀行等の代表者あり。本店は巴里に、支店は東京にあり。日佛間の財的業務及び一般銀行業を營んで居る。此銀行は日佛兩國に於て何れも一流銀行の援護を有するが、佛國に於ては創立以來「ソシエテ、ゼネラル」と深甚の關係を有し、頭取アンリー、ゲルノウ氏は、現に「ソシエテ、ゼネラル」の頭取を兼て居る。副頭取は日本興業銀行總裁が之に當る規定である。一九一三年三月「ソシエテ、ゼネラル」及び巴里和蘭銀行と協力して、東洋拓殖會社外債五千萬法を巴里にて發行した。一九一二—一三年度の配當率は五分八厘餘にして、外に收益持分に對する配當あり。

支那實業銀行 (Banque Industrielle de Chine)

一九一三年、佛人側の勸誘に依て組織せられしものにて、資本四千五百萬法四分一拂込、其三分一は支那政府の出資と稱す。但し定款の規定に依れば、單に重役會の決議を以て、一回又は數回に一億法迄增資することを得べし。其定款は一九一三年一月中、支那民國政府の承認を經たり。本店は巴里にあり、別に北京に支那本店とも稱すべきものを置く。頭取はアンドレイ、ベルトロー氏にて、副頭取二名の內一名は支那人を選任する規定である。又定款に依れば、支那民國に於て、銀行券を發行する特權を有し、支那政府の財的業務及び支那に於ける一般事業界の金融に當り、又普通銀行業を營むのである。然れども實際に於ては、今日尙銀行券を發行し居らず。此銀行は所謂支那興業公債壹億五千萬法を發行する計畫を有し、一九一四年四月、其半額七千五百萬法を巴里にて發行したり、其際此銀行と共に發行者として名を列せしは、第七章第七節に記せし地方銀行中央會社と「クレディ、フランセイ」(Crédit Français) とて一九一一年設立、資本五千萬法(全額拂込)の一巴里銀行とであつた。支那實業銀行は未だ巴里大銀行との聯絡を有せざるも、近來稍活動し來り、相當の利益を擧げて居る。一九一四年度の配當率は八分であつた。

次に注意すべきは、外國の土地に對する金融を圖るため設立せられたる佛國の不動產抵當銀行である。是れ亦外國業務に關する銀行なるを以て、茲に合せ錄することゝせん。此にいふ外國とは主として亞爾然丁、伯羅西爾、墨西哥、埃及等にして、其の國內の金利何れも高率なるを以て、巴里市場より低利資金を引出さんとして、此等外國不動產銀行を設立したのである。其本店は何れも巴里に設置せられ、而も其

數亦鮮少ならず。從來佛國資本家は外國に設立されたる此種の外國土地抵當銀行に投資し、而して此等の銀行は夫々巴里に支店を置き、佛國の低利資金を得て居たのであるが、而も此等銀行が其土地抵當債券の應募者に充分の安心を與ふるには、勢ひ自ら佛國の會社となるの必要あるを以て、自然佛國の法律に依て組織されたる外國土地抵當銀行が增加し來りしものにて、何れも其本店は巴里に設けられ、其資本金の大部分は佛國人の拂込である。今此等の外國に於て土地抵當債券を發行するには、勢ひ六分以上の利息を拂ふのであるが、巴里の市場にて發行する時は、四分乃至五分以內にて足るべきを以て、其の利鞘は正に一分乃至二分である。故に此種の外國土地抵當銀行は巴里市場の低利資金を當該外國に於ける不動產金融に支給する機關として、頗る便利且つ有用なるものである。而して此種の外國土地抵當銀行が、巴里にて增加せしは、是れ亦近年の事實なるに注意すべし。三大預金銀行及び有力なる財務銀行は、此種銀行中或一部の設立に關係し、又自ら其設立に關係したる銀行の土地抵當債券の發行に助力するため、比較的に賣出困難なるべき外國土地債券も、數週間、長くも一個月にて賣盡されるのである。是れ亦巴里財界の消化力が頗る多大なることを證明するに足る。此の如き事情なるを以て此等佛國會社なる外國土地抵當銀行は概ね其の保護者たる巴里の大銀行と親密なる關係を持續して居る。今其の重なる者を示せば左の如し。

佛亞(アルゼンチン)土地抵當銀行 (Banque Hypothécaire Franco-Argentine.)
　資本七千五百萬法(四分一拂込)
西爾然丁不動產抵當銀行 (Crédit Foncier Argentin)
　資本五千萬法半額拂込)
亞爾然丁土地抵當銀行 (Caisse Hypothécaire Argentine.)
　資本一千二百五十萬法
佛埃(エジプト)土地抵當銀行 (Banque Hypothécaire Franco-Egyptienne)
　資本一千五百萬法
伯羅西爾不動產抵當銀行 (Crédit Foncier de Brésil)
　資本五千萬法
墨西哥不動產抵當銀行 (Crédit Foncier Mexicain)

墨西哥不動產抵當會社(Société Foncière Mexicaine)

第十一章　庶民銀行

庶民銀行とは商工農民が小額資本を醵出し、共働主義にて組織する相互的信用組合にして、多數の場合に於て株主に對してのみ融通するものである。此種金融機關の設備に於ては、佛蘭西は大に他國に劣つて居る。歐洲にて此制度の最も發達せるは、獨逸と伊太利とである。獨逸にては、ライフアイゼン氏の創始せし方式に依るものとシユルチエ、デリツチ氏の方式に依るものと、二種ありて、其組合數合計約一萬七千に達し、會員數約二百五十萬人と稱す、而して各組合は相互に聯絡を通じ、系統的に活動して居る。其多數は田舍の組合にして、都會の組合は比較的少しと雖も而も尙二千以上と言はれ、其會員數は殆んど百萬人に達して居る。伊太利の庶民銀行は、獨逸に及ばざるも、而も亦大に發達して居る。獨り佛國のみ此點に於て大に遜色あり。

佛國に於ける共働主義信用機關に關する法律は、一八六七年に發布せられしものを嚆矢とす、法律既に制定されしも、事實に於て其後此種機關は更に發達せず、一

八八〇年以後に於て漸く少數の都會地庶民銀行の設立を見るに至つたのである。即ち巴里、トウルーズ、リモージユ、マンス、ロアーンヌ、サン・シヤモン等に設立されしもの等であるが、而も何れも後日に至つて解散せられた。但此前後に設立されしものにて今日迄存續し、而も成功せるは、カーンヌ市とマントン市にある銀行である。前者は一八七五年に設立せられ、其後增資して、一九〇六年に百四十萬法全額拂込となり、後者は一八八三年資本十萬法にて設立せられ、其後增資し、現在は六十七萬一千三百法にして、モント・カルロ、ボールウ及び伊太利に支店を開て居る。然れども實際庶民銀行が陸續設立さるゝに至りしは、一八八九年には佛國經濟學者の大會がマルセイユに開かれ、專ら庶民銀行問題の調査及び其の設立方法に就て評議せしが、其の結果庶民銀行調査擴張協會なるものが組織された。其目的は此協會の趣意書に依れば、『外國に行はるゝ共働主義金融機關の根本義を研究して、之を佛國に普及し、以て內國に於ける此種銀行の設立を奬勵する』に在りき。是に於てか庶民銀行の設立は佛國に於ける公然の問題となつたのである。其後此大會は殆んど毎年引續きて開催せられ、此問題の研究を重ねたのである。更に其後に於て前記のカーンヌ及びマントンの庶民銀行の成功に刺激せられ漸次此種銀行が多數設立せられしが、其一部は遂に成功せずして解散し、今日尙存續せるは、ニース、アンチーブ、カーニユ、マルセイユ（但し第二回目に同市に設立せられしもの）等の庶民銀行である。斯の如く一旦設立されしも後日解散するもの多く、結局減少の傾向にして、一九〇八年には、唯二十八行を殘すに過ぎざりしが、之さへ其の一部は亦短命にして廢業し、一九一三年正月一日に於ては、僅々十五行を殘すに過ぎず、其會員數も僅々數千人に止まつたのである。斯の如き事情にて、都會に於ける庶民銀行は、歲月を經過すると共に漸次減少する傾向である。

佛國にて共働主義金融機關の發達せざる理由は、主として佛國中級以下の人民が、獨逸及び伊太利のそれに比して、富の程度高く、又貯蓄心深くして些少ながら各々貯金を有し、此種銀行の助力を要することと比較的少き事實である。之と同時に佛人の性格が個人主義に偏し他人との協同的經營を爲すことを好まざるも、亦一の理由ならんか。

都會に於ける庶民銀行は斯く不振なるに拘らず、田舍に於けるもの、即ち農民の

共働的金融機關は、最近の事實に過ぎざるも相當に發達し、尚益增加する傾向を示して居る。其理由は一に政府の保護に在り。當初一八九四年十一月五日の法律にて、小地方農業金融組合（ソシエテ・ロカル・ド・クレディ・アグリコル）の組織方法を規定せしが、而も政府より其財源を供給せざりしを以て、何等の效果を擧ぐるに至らざりき、其後一八九九年三月卅一日の法律を以て、大地方農業金融組合（ケース・レジョナル・ド・クレディ・アグリコル）の組織を規定し、同時に佛蘭西銀行が其發行權延期の際に於て政府に供給すべき無利子貸上金四千萬法及び其の政府に支拂ふ公課金を無利子にて此大地方組合（ケース・レジョナル）に貸下ることゝなりしため始めて發達の端緒が開かれたのである（第三章第二節第三參照）。此特典が開始せらるゝ迄は、種々勸誘するも農民自ら無頓着にして、又佛蘭西銀行其他にて農民の手形を割引くことも不可能なりしを以て、農民の共働的金融機關は、豫期の如き發展を遂げざりき。是に於てか漸やく其發達の徑路に就たのであるが、今其組織を概說すれば、此大地方組合の下に多數の小地方（ケース・ロカル）組合ありて、之は無資本にて組織するを得べきも、此の場合には組合員が無限責任を負ひ、若し有資本にて組織する時は、會員の分擔出資に依るのである。而して其會員の爲めに當座預金手形取立を取扱ひ、又小地方組合として自ら資金の借入を爲すのである。他方に於て大地方組合は政府の無利子貸下金を以て其配下にある小地方組合の爲め融通を開き、其手形を割引し、又其の運轉資金を供給するものにて、此以外の業務を爲すことは禁せらるゝと同時に、小地方組合員より小地方組合に宛て振出し、大地方組合が之に裏書したる手形は、商業手形と同格とし、佛蘭西銀行にて割引することを得ることゝなつた。更に一九〇六年四月卅日の法律にて「農産物證券（ワラント）」なるものを公認せしを以て、此證券を用ゐて諸種の農產物及び農業用家畜を借主の手許に置き乍ら抵當に供することを得る一種の便法を開き、同時に此法律の結果、同一抵當物件を幾番にも書入るゝことゝ即ち抵當物價格の全部に對して借入を爲すことを許したのである。更に一九〇六年十二月廿九日の法律にて、大地方組合より小地方組合に對して長期貸附を爲すことを許可した、其貸附最高限は、小地方組合の現金拂込資本の二倍、其期限は廿五個年迄とし、大地方組合に於て此貸附の責任を負ふことゝなつたのである。其後一九一〇年三月十九日の法律にて、組合員に對し個人的に長期貸附を爲すを許したり、即ち相當の擔保を取り、又は本人死亡の場合に其債務を引受くべき保證人を立て、金額八千法以下、期限十五個年

以内にて貸附くるのである。斯の如く農業者の庶民銀行は漸次法律の制定に依て便宜を得、着々發達したのである。

隨つて農業金融相互機關は、漸次其數を增し、一九一〇年に於ては、大地方組合の數九十六に達し、政府無利子貸下金の殘高は、五千七百十七萬法、其資本總計一千六百萬法にして、其の配下に屬する小地方組合の數は、三千三百三十八、其會員數十五萬一千六百廿一人であつた。又同年に於ける割引手形總高は一億三千零三十萬法、農民貸附金合計一億一千三百萬法に達した。而も最近に於ける發達は甚だ顯著にして、一九一二年末に於ては、前記一九一〇年に比して一層の進歩を示して居る。農務省の報告に依れば、一九一二年末に於て、大地方組合の數は九十八、其拂込資本二千一百五十五萬法餘、政府貸下金殘高六千二百七十四萬法餘、其配下にある小地方組合の數は、四千二百零四、其會員數二十一萬五千六百九十五人であつた。而して一九一二年中に此等小地方組合を通じて會員に貸附けしもの、八千五百五十萬法にして、貸附總額一億四千七百萬法に上つた。試に一九一〇年と一九一二年の中間にある一九一一年の狀況を見れば、小地方組合の數は、三千九百四十六、會員十八萬五千五百五十二人、同年中の貸附高八千二百五十萬法なりしを以て、一九一〇年以降累年發展を續けて居るのである。

佛國諸縣の報告を綜合するに、佛國には前記小地方組合の外に、大地方組合に屬せざる農業金融組合ありて、夫々獨立して居る。此種組合の數は一九一二年に於て、百二十に上り、各縣に散在し、其會員數は、合計約八千人に上つて居た。是れ亦一種の農業相互金融機關にして、研究上計數に入るべきものである。

由來佛國は農業繁盛にして、屢次記せる如く、農民は同國經濟界の柱石とも謂ふべきものなれば、農業の發達を圖るは、重要且つ緊急の問題にして、農業金融は一日も忽にすべからざるものである。故に前述の如く前後數回法律を制定して、其設備を完全にしたので、今日にては都會に於ける庶民銀行の不振と正反對に、田舍に於ける庶民銀行の隆盛を見るに至つたのである。

上來叙述せる如き事情なれば、農民に對する庶民銀行は、漸次發展すれども、商工民に對する庶民銀行は却つて衰退する形勢である。而して佛國にては小賣商業益〻增加する傾向にして、而も此等小商人の中には資金を需要するもの自然多數なる

を以て都會に於ける庶民金融機關を擴張することは、實に現下の急務である。故を以て佛國の識者は、小商工社會に於ける庶民銀行の不振を以て、佛國銀行制度の一大缺陷と爲し、大に之が改革を唱へて居る。近今佛國にては、銀行集中の大勢に依り大銀行の勢力多大となり、小業務は自ら顧みられず、小商工民に對する金融上の設備甚だ不充分なるは、同國銀行業を研究する者の等しく認識する所である。從來は地方小銀行が小商工民の爲めに長期金融機關となつて居たのであるが、大銀行の發展と共に其壓迫を受けて、漸次廢業するに至り、小商工民の機關は愈缺如たるに至つたのである。故に小商工民自身も、銀行制度の改革を唱へて已まず、殊に前に記せる庶民銀行問題調査會議に於ても、屢次小商工民が高利資金に苦しみ居る事實を指摘し、大に改革を促して居るのである。要するに銀行集中に對する一種の反動と見る可し。然れども此種の改革を提唱するものは、獨り銀行界に限らず、新聞社會にもあり、又佛國議會にもあるが、殊に近年は上下兩院に於て、種々の改革案が提出せられたのである。

一九一一年正月、前大藏卿ジョゼフ、カイヤウ氏は、北佛リール市に於て演說して曰く。

『佛國に於て中級商工業、例せば二十萬乃至三十萬法程度の事業に關係する商人又は工業者は、其の活動を爲すに必要なる性格其他の條件を具備するとしても、果して何に依て其の事業を發達せしむることを得べきや、其の必要なる資金は、之を私人より得るの外、別に手段あるを見ず、或特別の場合を除く外は、彼等に資金を供給する銀行機關は一として存在せず、更らに小なる事業、例せば一萬法、二萬法、五萬法程度の事業に關係する小商人、小工業者に至つては、其の不便は一層甚だしきものあり云々。』

此の演說は克く佛國金融界の缺陷を道破して居る、カイヤウ氏は既に此缺陷を認識して居たのであるが、其の後大藏卿となるや、其の政策を行はんと欲し、自ら盡力したる結果、一九一一年五月、政府の命令を以て「銀行制度改革院外調査委員」を選任することゝなり、佛蘭西銀行總裁以下、一流の銀行家、官吏、學者を以て、此委員を組織した。此委員は三部に分たれ、夫々分擔科目に就て調査する所あり、其の報告は大體に於て委員の採用する所となつた。委員は又之に基づきて、其の改革案を決定し、

一九一一年十一月之を佛國議會の事務局に交附し、議員の名を以て、正式に議會に報告したり。其の後一九一二年十一月、政府は此改革案を基礎とする法律案を議會に提出せしが、其の要領は現在の缺陷を補塡する爲めに、左記四種の金融機關を新設するに在つた。

第一　相互保證組合(Sociétés de Caution mutuelle)

第二　庶民銀行(Banques populaires)

第三　商工金融中央機關(Etablissement Central)

第四　補助銀行(Banques auxiliaires)

第一の相互保證組合と第二の庶民銀行とは、短期金融の機關にして、第三の中央商工銀行と第四の補助銀行とは、長期金融の機關たらしむる計畫である。就中第三の中央機關とは、此の法案に依れば、佛國商工銀行(Crédit à l'Industrie et au Commerce de France)の名稱を以て設立せらるべき中央大銀行にして、恰も「クレデイ、フォンシエ」が不動産金融の中心たるが如く、商工金融の中心たるべき機關にして、同時に「クレデイ、フォンシエ」と同じく債券の發行權を有し、頗る重要なるものである。故に此等四種の金融機關が設立せらるゝ日に於ては、克く佛國銀行制度の缺陷を補塡し、大に商工金融を盛んにするに足らん。要するに之は佛國銀行業の將來に一變化を齎らすものにして、研究上頗る興味ある問題である。此等四種の銀行は未だ設立せらるゝに至らざれども、重要なる事項なれば、之に關する政府提出法律案及び議員提出修正案を附錄として卷尾に添付することゝせり。

第十二章　銀行類似の機關

以上佛國銀行系統の大要を叙述せしが、此外に特種の信用機關と名くべきもの數種あり、此等は勿論銀行にはあらざるも、銀行に類似する機關なるを以て、最後に之を略說せん。

公設質屋 (Monts-de-Piétés)

此等特種信用機關中、最も注意に値するは、公設質屋、即ち所謂「モン、ド、ピエテ」である。此語は素と伊太利語の Monte di pietà (慈善銀行の意) より轉化したのである。此制度は十五世紀の中頃、伊太利に始まり、最初は高利貸に苦しめらるゝ者を救濟する目的を以て設けられしものにて、十六七世紀中、佛國に擴がつた。現に巴里の「モン、ド、ピエテ」の如きは、一七七七年に設置せられたのである。

其の營業方法は、一八五一年六月廿四日の法律及び一八六五年六月三十日の規則に依て定められて居る。勿論公益機關にして、私人の營業に非ざれば、內務卿監督の下に置かれ、縣知事之を統理し、其の下に市長區長又は村長直接に之を監理し、其の取締役は縣知事之を任命し、市長區長又は村長が取締役會を主宰するのである。但し何れも名譽職にして、唯支配人のみ有給となし、直接業務を執行せしむ。支配人は取締役會の推薦に依り、縣知事之を指名す。

其の資金は、公益事業として供與せらるゝ動產、不動產、自ら發行する債券の募集金及び其の收得利益金より成る。質物は各種動產にして、金銀、寶石、衣服等が其重なるものである。質物價格の六割五分乃至七割五分まで貸附け、利息は場所に依て多少の相異あるも概ね年七分見當である。利息は十日、十五日、又は一個月毎に計算す、貸附金高の最低限は、場所に依りて異なるも、一法乃至六法にて、最高限はトウルーズにては三千法、リールにては六千法、其の他夫々差等あり、唯巴里のみは無制限である。期限は大抵一年なるが、場所に依ては六個月もあり、アヴイニオンの如きは、廿二個月まで貸す。何れの「モン、ド、ピエテ」にても、利息を支拂へば期限を延長することは勿論である。

質入品に對しては受取證を交付し、以て質入人の質物所有權を確保するのである。故に質入人の希望に依り、元金、利息及び費用を支拂へば、期限の如何に拘らず、何

時にても質物を受出すことを得べし。期限に至りて切換へられざる質物は、相當官吏の承認を經て之を公賣し、其の賣上金より質入金及び利子を差引き尚剩餘ある時は二年乃至三年間、質入人の所得として之を保管し置き、此期間内に請求せざれば、始めて之を沒收して利益金に繰入るゝのである。

殊に巴里の「モン、ド、ピエテ」は、既記の如く十八世紀の末に創立せられ、多年の經歷を有するのみならず、其の業務に於ても全國の同種機關中第一位に居る。然かし別に自己固有の資本を有せず、資金の必要ある時は、年三分弱の低利にて債券を發行す、債券の額面は五百法を以て最高限と定む。而して巴里の「モン、ド、ピエテ」に限りて一八九一年七月廿五日の法律にて、有價證券に貸附くることを許されて居る。其の貸附額は、佛國公債、大藏證券、「モン、ド、ピエテ」債券に對しては、其の時價の八割迄、佛國鐵道の株式及び社債は、六割乃至七割迄である。但し此種業務は、一般銀行の取扱ふ有價證券擔保貸附と區別する爲め、其貸附高を一人一口五百法迄とし、期限を六個月以内とす。勿論切換は自由である。利息は年六分にて、十五日毎に計算す。之は銀行に提供する程に多數の有價證券を有せざる人々の爲めに開きし便法である。殊に注意すべきは、身體に附隨する動産即ち金銀寶石に對する貸附の利息は、最近に於て六分七厘五毛迄低下されしことである。然るに近年の傾向を見るに其貸附高は却つて減少して居る。一八九四年の貸附年額は一千二百萬法なりしが、一九〇七年には七百五十萬法に減じ、同時に一口の貸附平均額も、二百七十三法より二百五十法に減じた。巴里の細民も依然貯蓄心强く各々少許の貯金を有するを以て、餘り質入を爲さざるに至りしものならん。

之を要するに「モン、ド、ピエテ」は、銀行取引なき細民の爲め、又銀行取引ある も、銀行に提供すべき擔保品なき者の爲めに便利なる機關にして、其の利息も低廉なれば、効益甚だ多し。殊に私利を目的とせざる公共機關なるを以て、其の結果は一層良好である。

高等出納官（トレゾリエー・ペイヨール・ピヤロウ）

佛國には大藏省の高等出納官なるもの各縣にあり、其の下に屬吏ありて、稅金の收納、政府及び公共團體の支拂等、公共の出納事務を管掌す。是等は純然たる官吏なるも、從來銀行類似の事務を取扱ふ所は、其の取扱ふ所は銀行

業務の全般に亘り、公衆より利子附にて預金を取り、之を手形割引、政府貸上資金及び工業資金に使用し、甚だしきは投機に濫用して、破産を來せしものさへあつた。數十年前、此弊害を匡正する爲め法律を制定し、出納官としての權限を劃定し、同時に其の取扱ふべき銀行業務に制限を附した。卽ち預金收納額は每年限定せらるゝ最高限を超過することを得ず、而も之を手許に置かずして、利子附にて預金及供託局に預入るゝことゝし、往年の如く割引貸附等に預金を使用することを許さず、其の他には單に手數料を取りて佛國々債の賣買を爲し、又巴里市債及び「クレデイ、フオンシエ」債券を賣出すのみで、此以外の有價證券に對する取引所注文を受附ることを禁せらるゝ故に現今に於ては、我邦の郵便局が郵便貯金事務を取扱ふと餘り徑庭なし。然れども佛國の論者中には、尙異論を唱へ、元來官吏として銀行と競爭するは宜しからざれば、此制度を改革せよと言ふ人もあり。由來佛國にては官吏の信用勢力共に多大なれば、此等出納官の手許に集まり來る預金は、今日尙餘程の多額に上つて居る。

公證人

公證人も亦出納官と同じく、銀行業務の一部を取扱ふ。彼等も往時には手廣く銀行業を營み其の取引人の財產を保管、利殖し、又未丁年者及び無能力者の財產を管理せしが、殊に田舍に於て然りであつた。然るに其の信用を濫用して屢次失敗を演じ、資金預託者に損失を蒙らせしことあり、恰も前項に記せる出納官に酷肖す。之が爲め彼等の業務に制限を附する必要を生じ、今日にては其の受入るゝ預金及び保管を托せらるゝ未丁年者及び無能力者の資金は、悉く之を預金及供託局に預入れしむることゝなれり。然れども田舍にては、此法規を守らずして、依然前日の如く銀行類似の業務を營み居るものありと聞く。公證人が預金を取り、資金の預託を受けることは、殊にピカルデイ及びノルマンデイ地方、其の他田舍に於て一層盛である。

預金及供託局

出納官及び公證人が其の預かりたる資金を預託すべき預金及供託局なるものは、一八一六年ナポレオン一世が創設せし所にして、當初の目的は、佛國の減債基金庫たらしむるに在つた。然も佛國の償還公債は餘り多額にも上らざれば、減債基金の必要爾く大なら寸、自然に變化して、政府の行政資金及び公共機關、半政府機關の

資金の保管所且つ佛國貯金局、政府保險局の中央金庫となり、又民間保險會社の保證金、其の他一般の供託金を收納する機關となつた。此外出納官及び公證人の預托する預金を受入るゝことは、既記の如し。其の預金高は普通幾十億法に上り、公債の市價を維持する爲め、政府の命を承けて公債の買入を爲し、殘餘の資金は國庫に繰入れるのである。要するに我大藏省預金部に類似す。

第十三章　巴里株式市場

第一節　株式取引所の性質及び任務

今日の株式取引所は、獨り佛國に限らず、何國にても要するに昔時の市場（イチバ）の進化せるものである。昔時商品、農產物等を取引する爲め、所在相集りて市場を開きしは、歐洲諸邦皆然りであるが、之は大抵臨時開催にして、今日の如く常に一定の時間に開くものにあらず、又時に依て其の開催の場所を變更せるものもあつた。蓋し當時文化の程度尙低くして、物品運搬の通路に危險多きと、運送の便利設備を缺きしが故に、已むを得なかつたのである。然かし近世文明の進歩と共に、交通機關完備し、途中の危險もなく、且つ商業の發達著しき爲め、此種市場は連日而も一定の場所に於て開催せらるゝに至れり。是れ即ち現代の商品取引市場の由來である。之と同時に近今經濟界の進歩に伴ひ、有價證券增加し其の賣買益頻繁なるが爲め、同じく一定の場所と一定の時期とに於て、其の賣買取引を爲すことゝなつた。是れ即ち現今の

株式取引市場である。故に其の形態こそ相異なれ、今日の有價證券市場は昔時の市場の進化せるものに外ならぬ。今日佛國のブールスにては、あらゆる有價證券の賣買取引を爲し、同時に商品取引も爲す、然かし商品取引は見本又は見本に代るべき相當方法に依るものにて、決して現物にて賣買せず、要するに商品の卸賣取引である。之に對して商品の現物取引を爲す機關として別に商品市場（halle）がある、佛語にて之を Halles 又は Marchés と云ふ、要するに我邦に於ける靑物市場、魚市場の如きものにて、直に消費者に供給し得べき商品を現物にて取引するものなれば、即ち小賣又は半卸賣取引である、隨つて其間投機を行ふ機會は勿論無し。斯の如く佛國のブールスでは、獨り有價證券に限らず、商品の見本取引も爲すのであるが、吾人が今特に研究するは、即ち有價證券の市場としてのブールスである、而して巴里ブールスは世界四大市場の一にして、有價證券の取引盛大なるを以て、佛國銀行制度の研究者として合せて之を考究するも、無用の業にはあらざるべし。

有價證券とは要するに流動的財產にして、賣買容易なるものである、具體的に言へば、公債、株式、社債の三種に外ならぬ即ち社會公衆が政府、都市の債務を代表する公債、又は株式會社の株金を代表する株式及び其債務を代表する社債を所有し、自ら直接事業の經營に與らず、唯投資者として之に關係するのである。而して政府、都市、及び會社の信用は、此等有價證券に輾轉賣買せらるべき特性を與へ、無記名式のものは自由に一の所有者より他の所有者に移轉し、記名式のものは、簡短なる名義書換の手續に依て移轉し、直に現金に代るのである。要之、有價證券は社會公共の生活及び一般經濟界の資本の一部にして而も流動的性質を有するため、社會資本の固定を防ぎ、其の活動の機能を增すの効あり。株式會社なる制度が、近世經濟界の進歩を促したる巧妙なる一工夫たるを知る者は、株式及び社債が資本活用の好方便たることを認むるならん、道理は之と同一で、政府及び都市の公債も、亦資本活用の一手段である。而して此等有價證券は既記の如く流動的資產にして、佛語にて之を Valeurs Mobilières といふ、第六章「動產銀行」に於て言へる如く、動產と譯して可なり。而して佛國にては有價證券の數量多きを以て單に動產といへば、普通唱ふる所の動產即ち器具、衣服等を指さずして、有價證券を指すのである。而して第三節に於て詳說するが如く、歐洲に於て有價證券の增加せるは、殆んど十九世

紀初頭以後の事にして、眞に是れ近世經濟界の一特徴なりと謂て可なり、而して既往百年間に於ける經濟界は迅速の進歩を爲し、今日の如く諸種の有價證券が市場に滿溢するに至つたのである。隨つて今日にては巴里ブールスに於て取引せらるゝ有價證券の種類も、著しく增加し來つた、換言せば、佛人が其の財產として所有する有價證券は、往年に比して多大の增加を爲したのである。今日佛人の所有する有價證券の金額を計算するは、勿論困難なるも、約一千億法以上に達すと云はる。然らば何人が之を所有する乎。佛國には大資本家多しと雖も、必らずしも、大資本家のみ此等有價證券を專有するにあらずして、多數人が之を分有して居る。佛人中縱令少額にても佛國々債又は佛國大會社の株式及び社債を所有せざる者は、甚だ少いのである。佛國の貯蓄者が、夫々多少の資金を蓄積し、大抵之を有價證券に投下することは、一般に知らるゝ事實である。

有價證券の增加迅速にして、其の賣買亦頻繁なるは、經濟界の進歩として、何人も慶賀する所であるが、而も其の克く斯の如きを得るは、其の賣買容易なるが爲めである。若し其の賣買困難若くば面倒ならんには、有價證券は自ら下落せざるを得ず、隨つて此等有價證券に依りて資金を得る會社事業は隆盛なることを得ないのである。故に有價證券の賣買を容易にすれば、大に經濟界の利益を增進すべきは、自ら明白である。此の賣買を容易圓滑ならしむる機關は、即ち株式市場である。株式市場あるが爲めに、個人の投下せる資本は克く流動性（モビリザシヨン）を保ち、小額貯蓄者も一般商工界に投資する機會を得、延て有價證券の發行を容易にし、一國經濟界の發達に資益するのである。同時に株式市場は有價證券の市價を決定する機關である。元來市場の相場は重要供給の法則に隨ひ、同時に世間の狀態如何を參考し、將來の見越に依て、決定するものなれば、縱令些細なる出來事にても、株式市場に影響し、市價の變動を來すのであるが、其の變動の多少は其の出來事の影響程度を示すものにして、假に虛構の風說の爲めに、下落を來すことありとせば、風說其の者は齒牙に掛くるに足らずとするも、之が爲めに事實上多數人が悲觀したとせば、其の風說は夫れだけ市價を下落せしむべき原因を爲すのである。之は唯一例であるが、此の如く株式市場は神經鋭敏にして、克く經濟界の形勢を反映するものにして、眞に以て財界の「バロメートル」と爲すべきものである。隨つて其の決定する相場は練りし上にも練りし

ものにて、何人の眼より見るも最も公平と謂ふべく、市場時に變調ありて必らずしも常に絶對的公平を期すべからずとするも、市場にて決定せらるゝ相場は、即ち實際相場なるを以て、之を除て他に依るべき標準なし。

隨て充分發達せる經濟社會に於ては、株式市場は層一層其の必要を增すのである。獨逸の學者エーレンベルグ氏は、株式市場を呼んで『近世的經濟生活の心臟である』と曰つた。蓋し經濟界に於ける血液循環の中樞なるの謂である。而して株式市場は復た一國の企業を奬勵し、其の財的活動を助くるものである。佛國知名の經濟學者ボールル、ルロア、ボールユウ氏は、巴里ブールスが同國財界の恢復に貢獻する所多大なりしを賞賛して左の如く曰へり。

『ブールスは佛蘭西の活躍せる勢力の一種を代表し、戰敗後に於ける佛國財力恢復の機關となり、又戰時に於ても、平和に於ても、吾人の爲めに有力の機關たるを失はず。若し巴里市場の盛大なる賣買取引及び投機心に鼓吹されたる我邦富源の開發なかりせば、當時無暗に重荷を負はせられし我邦の財政に取りては、爲さんと欲して而も爲す能はざる事蓋し頗る多かりしならむ、即ち吾鐵道網を完成することも、新に國民的設備を整頓することも、將た廣大なる殖民地を創設することも、皆遂に不可能なりしならむ。』

佛國が屢次戰敗に會うて、而も尙極度まで疲弊せざりしは、必らずしも悉くブールスの力に依るとは謂ふべからざるも、ブールスが其の財界恢復の一助たりしことは、爭ふべからざる事實である。

我邦の株式市場は今尙內國の有價證券を賣買するに過ぎざれども、倫敦、巴里、紐育、伯林の株式取引所は、何れも世界的にして、各國の有價證券を取引するのである。而して巴里に於ては外國有價證券の發行常に多額なるを以て、其の株式市場は、何時も多數の外國物を取引して居る。由來佛人は諸種の有價證券に投資すること多く、有價證券は佛國の資產の重要部分となり居るを以て、巴里に於ける其の取引頻繁なるは、正に其の所である。而して佛人の常として直接株式仲買人に其の注文を發せずして、却つて銀行に申込む場合多し、之は英人とは異なりたる習慣にして、佛人は何事に依らず、自己の投資に就て、其の取引する銀行家の助言を求め、銀行家も亦欣んで其の助言者となるのである、故に各種銀行は殆んど皆取引所注文の取次

を爲せり。是れ佛國銀行の營業科目に、取引所注文（なるものある所以にて、銀行の取引人は指値にて其の預金を以て有價證券の買取を依頼し、又は其の所有するものを賣ることもあり。隨て銀行にては平生より其の華客に對する案内狀として、「取引所注文勘定書」を印刷しある位である。然かし銀行は其の華客の注文を仲買人に取次き、仲買人手數料の一部を貰ひ、直接取引所と交渉するには非ず。此の如き事情なれば、銀行と取引市場とは餘程密切なる關係を有して居る。

株式市場は、即ち有價證券の賣買決濟所にして、有價證券の「クリアリング、ハウス」と謂ふも可なり。我邦にて「株式取引所」といふは、克く其の業務を表言して居る。英語では、Stock Exchange といふが、「ストック」は流動的財産、「エキスチエンジ」は交換所の意にてまた克く株式市場の意義を表明する言葉である。然るに佛蘭西では此種の適當なる文字なきが故に、佛人は屢次此の英語の便利なるを羨むのである。佛國にては有價證券市場を呼んで、單にブールス（Bourse）といふが、其の字義は金嚢即ち財布を指すものにて、英語の Purse と同源の文字にして、別に株式市場の意味はなし。此文字の由來を尋ぬれば、今より五百年前に發して居る、即ち十五世紀中白耳義國ブルージュ市にヴァンデル、ビュールス（Van der Burse）と呼ぶ一商人ありて、其の家の入口に三個の財布（ブールス）を彫刻せる看板を掲げ居たるが、市内の商人は此家に集會して各種商品を取引した、要するに此家を以て商品市場としたのである。故に時人此看板に因み此の家を通稱して「ブールス」と呼んだのであるが、爾來傳承して今日の株式市場も亦ブールスと稱せらるゝに至れりと云はる。此家の主人の名も亦ブールスと相近き文字なれば、或は其の名より發せしやも知るべからざるも、今日にては先づ前記の事實を以て其の起因と爲して居る。

序に佛國に於けるブールスの系統を略記すれば、同國のブールスは全國七十三個所に設けられて居る、其の大多數は、一八〇一年及び一八〇二年、ナポレオン一世の領國官（コンスユル）時代に設置されしもので、其の後漸次增加せしが、一八七〇年普佛戰後に設けられしは、僅に九個所に過ぎず。然かし地方取引所の多數は、極めて微力にして、其の中巴里ブールスと組織を同ふし、所謂正式市場（パルケー）を有するものは、マルセイユ、リヨン、ボルドウ、リール、ナント、トウルーズ等六市のブールスに過ぎずして、何れも一八〇一年に創設せられたのである。佛國大都市の人口を比較すれば、巴里を第一と

し、其の次にマルセイユ、次にリヨン、ボルドウ、リール、ナント、トウルーズの順序なれども、此等は何れも佛國の最大都市にして、地方に於ける經濟上の中心地である。故に佛國にて單に地方ブールスと言へば、普通此六市のブールスを指すものにして、其他のブールスは爾く重要に非ず、然れども此六市のブールスとて、巴里に比すれば尙微々たるものにて、其の仲買人も少數にして、リヨンが廿六名、マルセイユ及びボルドウが各十七名、ナントが十名、リール及びトウルーズが各六名に過ぎず。而して其の取引するものは、殆んど皆地方的有價證券にして、取引高も勿論巴里とは比較すべからず。故に此等は一切省略し、以下單に巴里ブールスに就て研究を試みん。

第二節　巴里ブールスの組織

巴里ブールスは獨り佛國の株式市場たるのみならず、亦實に歐洲の市場である。而して茲に內外公債、株式、社債等の有價證券のみならず、亦た貸附資金、外國貨幣、金銀塊、手形殊に外國手形の取引も爲すのである。勿論第二に擧げし有價證券以外の取引は、第一に擧げし有價證券の取引の如く其の取引高多額に上らざるも、然かも外國手形の取引は、對外財務關係に重大なる影響を波及するものとして、重要視されて居る。元來ブールスに於ける外國手形の相場は、要するに國際支拂のバランスの如何を表示するものなるを以て、延て中央發行銀行の割引歩合政策にも至大の影響を來すものである。巴里市場に於ける外國手形の相場は、巴里資本家の態度如何に依て、變動することあり、外國手形の期日切迫の際に於て、ロスチヤイルド商會が其の切換に應ずるや否やは、ブールスに於ける其の相場に影響することは、曩に第八章第一節「ロスチヤイルド商會」に記せるが如し。

巴里ブールスは、仲買人が組織するコーポラシオンにして、仲買人は同所に於て賣買取引を爲す獨占權を有して居る。倫敦の株式取引所は、一個の株式會社にして、我邦も亦株式會社制度であるが、佛國にては此の如く仲買人自身の組織する團結である。尙巴里ブールスは、他の取引所と異なりたる點更に一つあり、それは其の編制が二重になり居りて、同時に二個の市場を有することにて、其一は正式市場(le Parquet)と稱し、他は自由市場(la Coulisse)と呼ぶ。而して正式市場に屬する仲買人を、俗に正式仲買といひ、自由市場に屬するものを場外仲買といふ。勿論ブラッセル及びマ

ドリツドの取引所にも、同様正式と自由の二種の市場あれども、其の他には無し。此二種の市場は、同時に巴里ブールスの建物内に開かれ、唯正式仲買のみ中央部に位置を占め、障壁を以て他と區別されて居る。其の開場期は、受渡の日を除き、毎日正午より三時迄とし、七八兩月のみ午後二時迄である。受渡は正式市場にては、毎月十五日と末日の二回、自由市場にては毎月末日の一回である。

仲買人（アジャン、ド、シャンジュ）の資格は我邦の制度に依るものと異なり、佛國の仲買人は宛然一の公吏である、即ち政府より授けられたる獨占權を行使して、有價證券の取引を爲すものにして、取引手數料に依て收入を得るので、政府の俸給に依て衣食するには非るも、其の身分及び責任は宛然公吏である。仲買人たる條件は廿五歳以上の佛國市民にして、公權を有し、仲買人の店舗、銀行、商店又は公證役場に於て四個年間見習として働きたるものにて、破產者に非ず、又仲買人の業務に關して處罰を受けたることなき者たるを要すといふのである。然も仲買人の資格は正式市場を有するブールスに屬するものと、正式市場を有せざるブールスに屬するものとに依て相異なり、前者に屬する仲買人は大藏省に從屬し、後者に屬する者は、商務省に從屬す。正式市場に屬する仲買人の員數は制限せられ、各ブールスにては、七十名を以て定員とす。既に記せる如く、巴里ブールス以外に正式市場を有する者は、マルセイユ、リヨン、ボルドウ、リール、ナント、トウルーズの六市のブールスのみである。場外仲買とは自由市場即ち La Coulisse に屬するものにて、之を Coulissiers と呼ぶ、多くは銀行家にして、同時に株式市場の取引に從事するものである。場外仲買と俗稱すれども、純然たる仲買人（アジャン、ド、シャンジュ）には非ず。今進んで正式市場と自由市場に就て說明せん。

正式市場

約言すれば、正式市場とは法律に依て組織せられたる仲買人團の取引する公式の市場である、故に又之を公定市場（Marché Officiel）とも言ふ。

既記の如くブールスは仲買人の組合を以て組織するものなるを以て、仲買人團體自ら其の理事機關を組織す、之を仲買人組合（サンディカ、デ、アジャン、ド、シャンジュ）と稱し、理事長（サンデック）一名、補佐役員八名を置く、何れも仲買人中より互選するのである。其の任務は主として取締機關たるに在りて、仲買人を監督、懲罰し、仲買人相互の間、又は仲買人と華客の間に於け

る爭議を調停し、公定相場表に加入を許すべき有價證券とを決定し、外部に對しては仲買人組合を代表するのである、又仲買人を監督する爲め、其の帳簿を檢査する權能を有し、其の他ブールスの處務規程を定め、受渡を處理するのである。

仲買人の特權は、一七二四年に始めて公定せられ、佛蘭西革命の際一時停止せられしが、ナポレオン一世之を復興し、其の後屢次法律を以て之を確定したのである、巴里ブールスの仲買人定員は、一七二四年以來六十名なりしが、一八九八年の法律にて、正式仲買と場外仲買の營業範圍を劃定せし際、七十名に增加したのである、仲買人は政府の指名する所にして、恰も公證人の如く、法律上の獨占權を有し、公定相場表に揭上せらるゝ有價證券の賣買取引を爲し、其の相場を決定し且つ發表し、又外國爲換手形其の他の商業手形を市場にて賣買するの權能を有す。

仲買人は仲買人組合理事會の同意を得て、大藏卿に後任者を推擧し、以て其の業務を讓渡すことを得べし、故に事實に於て仲買人の公職は株として賣買さるゝの觀あるが、其の代價は現在にて二百萬法である、而して其の在職中保證金二十五萬法を納め、其の個人資産としては公職の代價現在ならば二百萬法の四分の一に對する支拂能力あるを要し、同時に三十萬法乃至五十萬法の運轉資金を所有し居るべき規定である、其の公職の性質が既に無限責任を要するものなれば、仲買人は勿論個人たるべくして、會社たることを許さず、元來仲買人は純然たる市場取引の仲立人なるを以て、自己の勘定にて賣買を爲すことを許されざるは言ふ迄もなし、若し自己の勘定にて取引することわらば、規則違反なるを以て、理事會に於て仲買人の帳簿を檢査し、之を防ぐ居るも實際は假想的なる依頼客を作り、自己勘定にて賣買する者なきにあらずといはる、又法律の趣旨より言へば、仲買人は嚴正に賣買のみの仲立人たるべきものなれば、財務上の報道を頒布し、又は華客に助言を與ふべき謂はれなく、單に華客の依頼に依りて賣買を爲し、手數料に依てのみ其收入を得べきものである、其の手數料は一八九八年に正式仲買と場外仲買の營業範圍を劃定せし際、場外仲買の請求にて大に減少せられ、一九〇一年に復た少しく增加せられしが、現在の手數料は左の如し。

二百五十法以下の株式及び社債一個につき　廿五贊（サンチーム）

二百五十法乃至五百法の株式及び社債一個につき　五十錢
五百法以上の株式及び社債一個につき　千分の一

仲買人の業務は特に分類せられ居るにはあらず、各仲買人は正式市場にて取引せらるべき有價證券ならば、何れを取扱ふも差支無し、然かも取引の便利と處務の敏速を期する爲め、仲買人自ら部屬を定め、各々其の部屬に分れて取引して居る、近年理事會の決議に依り其の部屬の編制に多少の變更を加へ、一九〇九年十一月六日以降、現在の部屬制度を採用したのであるが、今此部屬及び各部に於て取引する有價證券の種類を示せば左の如し。

第一部―(一)西班牙の公債及び銀行會社の株式、(二)葡萄牙の公債、鐵道社債、煙草會社株、(三)南亞弗利加の銀行及び金鑛會社株式、(四)比列賓島煙草會社株式。

此部に於て最も多く取引せらるゝは、西班牙國四分利附外債なるを以て、ブールスの通語にて、之を「外債部」と呼ぶ。

第二部―(一)西班牙國リオ、チント銅鑛會社株式、(二)其の他西班牙の各種銅山會社株式。

リオ、チントは世界有數の大銅山にして、其の株式の取引頻繁なるを以て、ブールスの通語にて此部を「リオ部」と呼ぶ。

第三部―(一)巴里、里昂、ボルドウ等の市街交通機關(重に汽車及び電車)の株式(二)公果自由國公債及び鐵道株(三)硝石株。

第四部―更に左の二科に分る。

ブールスにて之を「交通機關證券部」と呼ぶ。

第一科―(一)土耳古の公債、銀行株及び煙草會社株式(二)塞爾比亞公債

第二科―(一)勃牙利國借款(二)塞爾比亞國借款(三)土耳古國借款(四)アゼンス銀行株五埃及土地銀行(埃及の會社)株六巴爾幹地方鐵道株七埃及精糖會社株

ブールスにて「土耳古部」と呼ぶ。

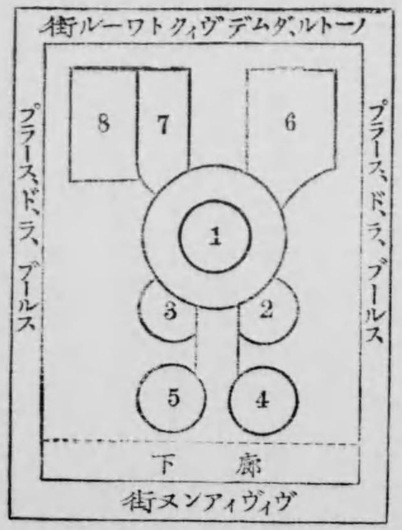
以上四部屬の外に

中央部―なるものあり、上記四部の何れにても取扱はざる有價證券は、皆此部に於て取引せらる。

中央部に對して、他の四部屬を特別部と呼ぶ。

巴里ブールスに於ける此等部屬の位置は左圖に示せる如く、ブールスの建物の中央部に在り、各部の仲買人は圓形に其の席を占む、而して現物市場は後方の右隅に在り、又佛國々債市場は後方左側に特設せられあり場外仲買にても佛國々債の取引を有す團體は、後方左隅に位置を占むれども、一般の場外仲買は、建物の前面にある廊下にて取引し、街路より之を見ることを得べし。

裏側



表側

1. 中央部
2. リオ部
3. 外債部
4. 土耳古部
5. 交通機關證券部
6. 現物市場
7. 國債市場
8. 國債自由市場

而して賣買は高聲にて呼はるのであるが、賣屋の呼聲は「吾はリオ株百を持つ」(J'ai 100 Rio)といふが如きものにて、買屋は單に「吾取らん」(Je prends)と答ふるのである而して公衆の觀覽は勿論自由である。

仲買人組合の一年間に於ける總收入即ち手數料は、數年前に於ては五千萬法内外であつた、其の内營業費と仲次人(Remisiers)へのコムミッションの合計が約三千五百萬法にも達せしなるべく、結局仲買人七十名に割當れば、其の取引高に依て相異あれども、一名當て一萬法乃至五十萬法の收入を得し計算である。我邦にては取引所の手數料と仲買人の手數料と二種に別れ居れども、巴里にては仲買人組合がブールスを組織するものなれば、手數料は全部仲買人の收入である。而して巴里ブールスの收入は、近年寧ろ減少する傾向である、公定相場表に掲上せらるゝ有價證券は、近年增加し居るに拘らず、却つて此現象を來すは、寧ろ奇怪なれども、要するに一方にては大銀行發展の結果、銀行自ら新發行物を引受け所有するもの多額なること、他方には自由市場が著しき發達を爲せしこと等が、其の原因なるべし。

政府との關係を言へば、大藏卿は取引所に對して多大の權力を有す。正式市場の仲買人は大藏省に隷屬することは既記の如くなるが、新しき有價證券を市場に加

入せしめ、之を公定相場表に掲上するには、勿論理事會の決議を要するのであるが、最後に於て大藏卿の認可を得ねばならぬ。而して外國有價證券を市場に加入せしむるに就ては、政府も特別の注意を拂ひ、豫じめ大藏卿と外務卿との承認を受けしむることゝなれり。此等は政府が人民の有價證券投資を監督する爲め必要なる手段と信せられて居る。

自由市場

自由市場とは即ち場外仲買人の取引する市場を指すので、純粋の仲買人の市場即ち公定市場に對して用ゆる言葉である。而して場外仲買人とは唯世間の通稱にして、勿論佛國法律の認むる仲買人（アジャン、ド、シャンジ）に非ることは既記の如し。彼等は多くは銀行家にして、單に市場取引を爲すに止まらず、他方に於て銀行業を營み、有價證券の發行に關係することあるを以て、有價證券の賣買を爲す一般公衆に取りては頗る便利なるものである。故に場外市場を呼んで一に又「銀行市場」（Le Marché en Banque）といふ。

場外仲買の制度は一七二六年即ち正式仲買人の特權が確定されし後二個年に創設されたのであるが、當時は特に永久的制度と爲す計畫にはあらざりき。然るにナポレオン一世の帝政時代に於て即ち一八〇七年の法律に依り、仲買人の取扱ふ有價證券に制限を加へ、且つ總ての定期取引を禁止せし結果、他方に於て制限以外の有價證券を取引し、或は定期取引を爲すべき代理人の必要を感するに至り、自然仲買人以外に此種不規則なる代理人の增加を見るに至れり。是れ即ち今日の所謂場外仲買人の起原である。故に其の發達は前記一八〇七年の法律が制定せられし以後であると謂て可なり。然るに場外仲買人の增加及び其の業務の繁昌は自ら正式仲買人の不利益なるを以て、一八一〇年以來、正式仲買人は屢次場外仲買團の解散を政府に要求した。然かし正式仲買人の取引すべき有價證券に制限ありて、自由に總ての有價證券を取引することを能はざるに拘らず、他方には重要なる有價證券新に增加するあり、而も其取引頻繁なるを以て、勢ひ場外仲買人の必要を生じ、所謂自由市場の便利が一般に認めらるゝに至つた。故に政府も強て場外仲買を抑制する政策を取らなかつたのである。場外仲買は法律上の仲買人には非るも、實際に於て市場の取引を增加するに與つて大に力ありき。佛國にて外國公債を取引するに至りしは、元と場外仲買が之を開始したのである。現在にて公定相場表に加へられ、

正式仲買の手にて盛に取引せらるゝ重要なる有價證券の一部は、當初場外仲買が之を市場に紹介したのである。西班牙國外債、土耳古國借款、オトマン帝國銀行株、リオ、チント銅山株の如き即ち是である。場外仲買人の功績は實に顯著にして、巴里の有價證券市場をして、今日の如く世界的に重要ならしめしは、實に此の場外仲買であると謂て可なり。

正式仲買の取引と場外仲買の取引との分界が今日の如く劃定されしは、幾多爭論の結果である。場外仲買開始の日より双方の確執已まざりしが、一八七〇年普佛戰爭以後、場外仲買の國債取引高大に增加したるに依り又々議論沸騰し、一八九二年一時調停成りしも、而も永續せざりき。其後一八九三年より一八九七年までに於て、場外仲買の取引大に增加し、其の取引の稅金額は、巴里ブールスの納稅總額の三分二を占むる勢となつた。殊に一八九三年の如きは、場外仲買の取引高は、正式仲買の取引高の倍額に上つた。是に於てか議論又々沸騰し、正式仲買は一層激烈にブールスの組織變更と場外仲買の廢止を主張するに至り、場外仲買の方では、自己の取引多額なるを誇りて、正式仲買の獨占權を剝奪せよと唱道し、爭論愈熾にして、諸新聞紙も之を論じ、議會にても議論が起つた。遂に一八九八年議會にて議員フラアリ、ラヴアレン氏の修正案を可決し、之が同年の法律となりて發布せられ、之に依て最後の決定を與ふることを得たり。此法律の規定に依り、場外仲買は正式仲買の取扱はざるもの、即ち公定相場表に揭上せざる有價證券のみを取引すべきものと限定せられ、唯佛國公債の定期取引を許可せらるゝことゝなつた。是に於て正式仲買と場外仲買との權限が明白に分劃せられたのであるが、之が爲め場外仲買人の取引を制限せし譯なれば、其の中には全然廢業するもあり、仲買を罷めて純粹なる銀行家となるもあり、又白耳義國ブラッセルには巴里と同樣、場外仲買あるを以て、同地に移住せしものもあつた。然かし此等移住者はブラッセルにても思はしき結果を得ざりしかば、後日各々巴里に歸來したといふことである。

此法律の結果、場外仲買の取引し得る有價證券に制限を附したるは、不利なるに相違なきも、他方に於て之が爲め場外仲買が公然確認せられしは其の利益である。且つ又公定相場表に揭上されざる有價證券中にも、南阿鑛業株の如き重要なるものあり、而も其の取引高多額にして、大に場外仲買の收入を增して居る。此外、佛國々

債の定期取引だけは許可せられ居ることは、既記の如くなるが、現在公定相場に掲上されざる有價證券中には、南米墨西哥等の有價證券、一部の歐洲國債及び市債、其の他鑛山、工業、運輸交通に關する外國會社の株式、殊に露國會社の株式あるを以て、場外仲買として充分に活動する餘地あり。

其の後正式と場外との間に尚種々の異論ありき、最近には一九〇一年二月、前藏相カイヤウ氏の仲裁にて、兩者の意思大に疏通し、圓滿なる關係を保つに至れり。現在の狀況を言へば、場外仲買は正式仲買の如く窮屈なる規則の束縛を受けざれば、其の活動自由にして、却て其の手にて正式仲買に對する注文を取ることもあるが、此場合には正式仲買より一定の手數料を場外仲買に支拂ふのである。又華客に依ては場外仲買へ注文を出すにも、直接注文しては危險と思ふ場合は、手數料の嵩むに拘らず、正式仲買を通じて注文することもあり。斯くて兩者相持合つて居るのである。然かし場外仲買の爲め不利なる點は依然存して居る、場外にて取引を開始せる有價證券にても、幸に取引頻繁となれば、正式仲買が之を正式市場に加入せしめんと欲するは、自然の勢にして、既に一旦正式市場に加へられたる以上、再び場外に於て取引することを能はざるべく、而して正式市場に加入すべき法律上の條件を具備せざる有價證券のみが場外に存置せらるゝ結果となるべし。是は如何にも場外仲買の不利なるを以て、將來此間に於て双方に滿足なる協定成立するにあらざれば、最後の解決を見ること能はざるべし。

方今場外仲買團は其の取引の種類に依て、左の三團體（サンダウ）に分れて居る。

第一團―定期取引場外仲買團

第二團―現物取引場外仲買團

第三團―佛國々債取引場外仲買團

此の中第三團は特に正式仲買の承認を得て佛國々債の定期取引を爲すのである が、之は甥て第一團と合併するに至らむ、第一團は一九一二年に於て既に此合併を決議して居る。斯く三部に分れ居れども、全然別種の團體にはあらず、場外仲買の大部分は、同時に此三團體に分屬して居る。恰も正式仲買の部屬が分れても、自在に各部に亘りて取引することを得ると同樣である。其の内會員數の最も多きは、第二團にして約百五十名、第一團は之に次ぎて約百七名、第三團は百名許である。各場外仲

買團の理事機關として、會員の選擧する委員ありて、恰も正式仲買の理事團の如く、種々の規則を決定且つ執行す。場外仲買團に加盟するには、當初は特別嚴重なる制限なかりしが、一八九八年の法律にて、場外取引を公定相場表に掲上せざる有價證券に限定して以來、加盟條件を嚴重にし、良好なる會員を選ぶ方針を取つて居る。現在の規則にては、會員たる者は場外仲買團員二名の推薦を要し一九〇七年三月十八日以前より存續せる場外仲買の拂込資本は五十萬法以上、同日以後會員たる者は少くとも一百萬法以上たるを要し、正式仲買と同じく、會員は個人にして、會社たるを許さず。尚保證金として、定期仲買は毎月金十萬法を、佛國々債仲買は毎月金二萬五千法を、夫々其の所屬組合團に拂込むことゝし、受渡の日に之を決算す。現物仲買は勿論保證金を要せず。場外仲買は正式仲買に比し資格に於て大に異なるを以て保證金の額も遙かに少し。

場外仲買理事團は、場外取引に加入せしめ又場外相場表に掲上すべき有價證券を選擇する任務を有す。然かし正式市場に加入を許されざる有價證券は、悉く場外取引に附せらるゝものとは決し居らず。殊に外國々債の如きは、一旦正式市場に加入を拒まれたる以上、場外仲買團に於ても、豫じめ大藏卿と協議するにあらざれば、取引せず。是れ特に法律規則ありて然るにあらざるも、亦政府が人民の海外投資を監督する必要より、此慣例を守るのである。

正式仲買人はルポールに投資せんと欲する個人資本家の資金を利用するの便あれども、場外仲買人は主として銀行よりルポール資金を得るのである。場外仲買人中の有力者は、據置抵當の形式にて、有價證券を銀行に提供し置き、必要に應じ抵當物を差換へ得べき條件にて、隨時資金を銀行より借る。隨て其資金の利子は、正式仲買人の利用する資金に比して高し、是れ場外仲買手數料が、比較的高き一原因である。現在に於ける場外手數料は、左の如し。

五十法迄の株式及び社債一個につき　二十五贊（サンチーム）
五十法より四百法迄のもの一個につき　五十贊
四百法以上のものは　百分の一八

昔時場外仲買市場は、街路の小ブールス（"Petite bourse de boulevard"）と稱して、「クレデイ、リヨネ」巴里本店の表廊下にて、午後九時より開始したのであるが、其後正式仲

買團の抗議に依りて廢止せられ、今日は「正式市場」の部に記せる如く、ブールスの建物の表廊下にて開催す。

場外仲買の取引高は、既記の如く一八九八年の法律にて正式場外の區別を劃定せし以前は、正式仲買の取引高を超過せしことあるも、此の法律制定後は、場外仲買の取扱ふものは、公定相場表に掲上する有價證券以外の者に限定されたれば、自然其取引高も正式市場に比し少きを免れぬ。然かし尚相等の金額に達し居りて、ネイマルク氏の計算に依れば、一九〇三年末に於て、場外市場にて取引されし有價證券の金高は、約七十億法なりしといふ。尚アリストワ氏の所述に依れば、一九〇三年末より一九〇八年末に至る五個年間に於て、場外市場に加入せられし有價證券は頗る多額に達し、其の初度の相場に基つき概算するも、約百三十億五千四百萬法に達せりといふ。以て場外取引の程度を推算するに足らん。

第三節　巴里株式市場にて取引せらるゝ有價證券

巴里ブールスは歐洲大陸に於ける有價證券取引市場の中心である、其の取引高に於ては、倫敦及び紐育の株式取引所に及ばざるも、歐洲大陸にては第一位を占め、而も其の取扱ふ有價證券は、獨り佛國物に限らず、歐洲諸邦は勿論、北米にては合衆國、加奈太、墨西哥、南米にては伯羅西爾、亞爾然丁、智利、亞弗利加にては南阿及び埃及、亞細亞にては日本、支那に及び、眞に世界的である。

有價證券の増加は、近世經濟社會の一特徴にして、而して又其の經濟的進歩の測量器である。然れども、是れ實は十九世紀初頭以後の事にして、一八一六年即ちナポレオン一世がウオータルー敗戰の翌年に於て、巴里ブールスの公定相場表に掲げられたる有價證券は、僅かに五種に過ぎざりしが、一八三〇年には其の數三十種となり、一八五二年には、四百二種、一八八三年には、七百八十三種となり、ネイマルク氏の計算に依れば、一九〇三年十一月に於て、一千一百三十一種に上り、其の金高合計約一千三百億法となり、其の内佛國有價證券は、約六百四十億法にして、外國有價證券は、約六百六十億法なりしといふ（アルフレッド、ネイマルク氏著「佛蘭西に於ける動産」）前節末段に述べし如く、ネイマルク氏は一九〇三年末に於ける場外仲買の取引高を約七十億法と計算せる位なれば、場外取引表に上せらるゝ有價証券を

加算せば、巴里ブールスにて取扱ふ有價証券の總金高は、驚くべき巨額に上るのである。然るに其の後新に發行せられ市場に加入されし有價證券は、餘程多數なるを以て、其の取引高は逐年增加する傾向である。チイマルク氏の擧げたる一九〇三年の翌年即ち一九〇四年より一九一二年迄に於て、新たに發行せられ、ブールスの取引に上せられし有價證券は、金高に於て三百八十二億五千七百萬法に達す。エコノミスト、イウロペアン」誌は之に就て興味ある統計を掲げしが、今其の數字と佛國大藏省の統計とを綜合して左に之を表示せん。

	佛國有價證券（公債、株式、社債）	外國有價證券（公債、株式、社債）	合計
一九〇四年	四四一・〇 百萬法	二、八八五・〇 百萬法	三、三二六・〇 百萬法
一九〇五年	八八六・〇	三、〇〇〇・〇	三、八八六・〇
一九〇六年	八七〇・〇	四、二〇六・〇	五、〇七六・〇
一九〇七年	九六八・〇	一、八七九・〇	二、八四七・〇
一九〇八年	七三一・〇	二、七四九・〇	三、四八〇・〇
一九〇九年	一、七八六・〇	二、五〇八・〇	四、二九四・〇

一九一〇年	一、八一四・〇	三、八八一・〇	五、六一一・〇
一九一一年	一、九六〇・〇	三、〇八一・〇	五、〇四一・五
一九一二年	八、四五六・〇 百萬法 *	二四、一八九・〇 百萬法	三八、二五七・五 百萬法

＊此の二個の數字の合計が、三八、二五七・五と一致せざるは、一九一〇年の發行物中、內國物と外國物の區別を知るべき資料なく、隨て同年度の數字を加算せざるに依る。

右の表に明示する如く、此九年間に於て三百八十二億法餘の有價證券を增加したのであるが、此內佛國有價證券は八十四億法餘、外國有價證券は、二百四十一億法餘である。曩にチイマルク氏は、一九〇三年十一月に於て正式市場にて取扱ふ有價證券の總金高を一千三百億法と見積りたるを以て、右の表に掲げし一九〇四年より一九一二年迄の增加額三百八十二億法餘を之に加算すれば、一九一二年頃に於ては、正式市場取扱有價證券の總金高は、大約一千六百八十二億法餘となる計算である。若し之に場外市場取扱有價證券の金高を加算せんには、其の數字は更に多大となるのである。以て巴里ブールス取引の大勢を窺知するに足らむ、尙序に附記せん。巴里ブールスにて取引されし有價證券は、一九一〇年に於て、公定相場表に掲上

されしものと、場外取引に附せられしものとを合して、三千種以上に上り居たり。

右の表に依れば、チイマルク氏が擧げたる一九〇三年迄の狀態とは異なりて、近年に於て新に發行されし外國有價證券の金高の增加は、內國有價證券の金高よりも遙かに多額である。チイマルク氏は、一九〇三年十一月に於て取扱はれし有價證券の總金高約一千三百億法、外國有價證券は六百四十億法、外國有價證券は六百六十億法と見積り居るを以て、內國物と外國物とは、其金額に於て殆んど伯仲して居たのである。然るに右の表に示す如く、一九〇四年以後に發行せられ市場に紹介されし新有價證券に就て見るに、外國有價證券の金高は、內國有價證券の約三倍である。尙佛國大藏省の統計には、外國事業に關係する會社にても、佛國法律に依て成立せる者は、其の株式、社債を佛國有價證券として擧げてあるから、右表の佛國有價證券中、公債は勿論別としても、株式及び社債は實際外國有價證券と見るべきものが含まれて居るのである。是等の事實は、佛人が近來益々外國に向つて投資することを示すものにして、特に注意に値せん。英佛兩國が世界の資本國として、海外投資に盡力し、其の金額亦年々增加し往くことは、近世に於ける世界的資本移動の趨勢を示すものとして、最も興味ある事實である（緒論第二「資本國としての佛蘭西」參照）。

何人も一驚を喫するは、巴里財界の消化力が偉大なることである。既記の如く年々巴里にて發行せらるゝ有價證券の數量及び金額は、甚だ多大なるが、巴里の財界は能く之を消化し得るのである。殊に近年巴里にて發行せらるゝ有價證券は、頗る多數なれども、未だ充分に佛國財界の消化力を滿足させること能はざる程にして、其の消化力の多大なることは、實に驚歎に値す。佛人の貯蓄心は強大にして、年々多額の富を貯藏すると同時に、其の海外投資より生する利益が、年々輸入さるゝを以て、愈益其の消化力を增加するのである。而して既に容易に利子を產むべき資本を有する以上は、危險を冒して自ら事業を起すよりも、既に成功せる內外の事業に投資し、又は最も安全なる內外國債、地方債等に投資するを求むるは、自然の趨向と謂はねばならぬ。殊に外國有價證券に對する投資は、元來金利の低廉なる佛國內地に於ける投資よりも、利廻良きを以て、佛國の資本が益海外に向ふは、是れ亦自然の趨勢と謂ふべく、隨つて巴里ブールスに於ける外國有價證券の取引高は近年益增加するのである。

叙上の如き事情なるを以て、動的資産即ち有價證券は、佛人財産の重要部分を成して居る。左れば佛人が現に所有しつゝある有價證券は、金高に見積りて果して幾何なるやを知ることは、甚だ興味多き問題なれども、不幸此種の研究に於ては、統計の據るべきなく、勿論仔細に之を知ることを得ざれば、唯其の概算を知るを以て滿足せねばならぬ。縱令概算とはいへ、學者に依て多少其の計算を異にすれば、研究上困難ではあるが、而も之に依て略其の概況を察することを得べし。ド、フォヴイユ氏が、一九〇二年に計算せし所に依れば、佛國の所有する有價證券は、九百億法を超過し、其の内佛國公債及び株式、社債が六百億法、外國公債及び株式、社債が三百億法であつたといふ（一九〇二年「政治及議會評論」）此計算に依れば外國有價證券は僅に總額の三分の一に當れども、而も近來外國有價證券の割合は漸次增加して居るのである。其の後「エコノミスト、イフロペアン」誌主幹エドモン、テリー氏の計算に依るに、外國有價證券の割合は少しく增加して居る。氏が「エコノミスト、イウロペアン」誌上に發表せし所に依れば、氏は一九〇七年末に於て佛人の所有せし佛國有價證券の金高總計を、六百十四億二千一百萬法と計算し、翌一九〇八年末に於て所有せし外國有價證券を三百八十四億八千萬法と計算して居るのである。故に其の間一年を隔つれども、此二個の數字を合すれば、テリー氏の計算にては、佛國にて所有されし内外有價證券の金高合計は、一九〇七、八年頃に於て大約一千億法となるのである。而してテリー氏の計算にては、右一九〇八年迄に於ける既往十年間の佛國所有内外有價證券の總金高の一年平均增加額は、十三億四千三百萬法にして、其の中十億零三千三百萬法は外國有價證券であるといふことなれば、最近に於ける外國有價證券の增加は、佛國有價證券に比して遙かに多大であると見ねばならぬ。尙テリー氏は一九〇八年に於ける佛國所有の外國有價證券を國別に列擧して居るが、其の中十億法以上に達する國を擧ぐれば、左の如し。

	百萬法
露西亞	一〇、九〇〇・〇
澳洪國	三、六五〇・〇
埃及	三、〇五〇・〇
土耳古	二、五〇〇・〇
和蘭	一、四五〇・〇

瑞西	一、四五〇、〇
伊太利	一、四〇〇、〇
葡萄牙	一、三五〇、〇
英國及び其殖民地	一、三〇〇、〇
白耳義(公果)	一、二五〇、〇
伯羅西爾	一、二〇〇、〇
亞爾然丁	一、一〇〇、〇
土耳古以外の巴爾幹諸邦	一、〇五五、〇

然れども實際に於ては、西班牙の有價證券も、十億法以上に達して居る、加之伯羅西爾及び亞爾然丁は近年數億法の有價證券を巴里にて發行したれば、佛國の所有する此二國の有價證券は、前表に示すよりも更に其の金額を增加せる勘定である、然かし佛國の發行印紙稅重きを以て、佛人が此稅金を免るゝ爲め外國に於て外國有價證券に應募し、又は之を買入るゝ場合少からず、之は佛國銀行の外國支店又は同盟銀行を經て爲すものにて、今日は既に周知せらるゝ事實なるに拘らず、前記テリー氏の計算には、之を含有し居らざるを以て、外國有價證券の金高は、實際同氏の計算せるよりも更に多からんと思はる、

既記の如くエドモン、テリー氏は一九〇八年より既往十個年間に於て、每年佛國の投資せし外國有價證券の金額は十億法强と見積つたのであるが、實際はテリー氏の計算せるよりも多きが如し、クレデイ、リヨネ」の創立者にて又頭取たりしアンリー、ジヤメイン氏が一九〇五年逝去の少し前に、佛人の外國有價證券投資年額を約十五億法と見積りしは、稍事實に近いのである、然かし、其後巴里に於ける外國有價證券の發行は益增加し居れば、最近に倫敦の「ステーチスト」誌記者サー、ジョージ、ペイシユが、佛人の貯蓄年額を二億磅と見積り、其十分四即ち八千萬磅が每年外國に投資されつゝありと言へるは、現在の事實を示せる計算と思はる(一九一四年五月「ステーチスト」「外國銀行號」參照)、今一磅を二十五法二十賛に換算すれば、一年の外國投資は約二十億法餘となるのである、單に海外投資と言へば、凡ゆる外國に關する投資を含むのであるが、佛人は英人の如く直接外國事業に投資すること寡ろ少く、主として外國有價證券を買ふて、資本の利殖を圖るものなれば、其の海外投資の大部分は外國有價證券であると

見て可なり（緒論第二「資本國としての佛蘭西」參照）。

斯く佛人の所有する有價證券多額なるを以て、前節に記せる如く、政府は人民の投資を監督する爲め、巴里ブールスの正式市場に上すべき有價証券に就ては、豫じめ大藏省の許可を受けしむることゝなせるが、殊に外國有價證券に就ては、其の取締が一層嚴重である。外國公債及び社債等を巴里に發行するには、豫じめ大藏省の許可を得ねばならぬ。而して既に發行されしものと雖も、之を正式市場に上すには、上記の如く大藏省の同意を要するのであるが、場合に依りては大藏省は、之を拒否することあり。現に亞爾然丁、洪牙利、土耳古等の公債が、大藏省の拒否に會うて、正式市場に加入を許されざりし事實あり。

然らば果して何人が此の多額の有價證券を所有するや。佛國には大富豪もあり、大銀行もあるが、此等有價證券が少數大資本家の手許に集注して居ると見るは、誤謬にして實際は多數人の間に散布せられて居る。勿論多額の有價證券を所有する者は自然大資本家、大銀行なれども、而も小資本者も亦各々相應に所有して居るのである。或人は此等有價證券の所有者は、約五百萬人ありと言ふて居るが、精確に其人員を知ることは、勿論困難なれども、唯多數人の間に散布せられ居るは事實である。佛人中縱令小額にても佛國々債、佛國會社の株式、社債等を所有せざる者は甚だ少いのである。小額資本を有する中級以下の佛人と雖も、尚且つ有價證券に投資するを喜ぶ風ありて、其の中には進んで外國物を買入るゝ者少からず。有價證券の投資は、佛人の得意とする利殖方法なれば、多數の佛人が此等動産を所有することは、自然の理數と謂はねばならぬ。

動産の文字既に之を示す如く、有價證券は輾轉流動すべきものにて、而も實際其賣買は常に頻繁である。賣買頻繁なる以上は、需要供給の法則に依り、自ら其の相場の騰落を來さざるを得ぬ。而して此等多數の有價證券所有者は、市場に於ける相場の變動に無頓着なること能はず、故に其の相場に變動多く、又は低落する不安の財産を賣拂うて、堅實にして相場好きものを買はんとするなるべく、縱令此等特種の事情なきも、賣りて利益ある時に賣り、買ふて利益ある時に買ふは、自然の勢である。又多大の現金を擁して、投資の途を求むる者は、買ふべく、事業の爲め現金を要する者は、賣るならん。斯くて市場の取引は愈頻繁となるのであるが、殊に近來巴里大銀行

の手許に集まる現物賣買注文は頗る巨額に達し、大に巴里ブールスを賑はして居るのである。隨てスペクユラシオン即ち投機が其の間に行はるゝは、亦已むを得ざる數である。一八八五年三月廿八日の法律を以て、定期取引を確認して以來、之を利用して空相場を爲す金額は、毎年幾千億法に上ると傳へらる。其の中には一時に巨富を成す幸運兒もあるべしと雖も、多くの場合に於て失敗を演ずるのである。空相場は吾人の關知する所にあらざれども、要するに上述の如き事情にて巴里市場の取引は、近來益頻繁となり、而も世界各地の有價證券を賣買するものなれば、自然巴里をして世界的大市場の一たらしむるのである。

然れども、外國有價證券の發行稅及び移轉稅比較的重きため、屢次發行及び賣買の障碍となり、實際佛國の資本にて引受けらるべき外國有價證券も、却つて發行元たる國、又は第三國に於て發行せらるゝことあり、之が爲め巴里に於ける發行業務は、事實に於て充分巴里の發行力を發揮すべき程度まで進んで居ないのである。元來佛國は世界の發行國として各國の發行物より得る稅金に依て政府の收入を增すものなれば、必ずしも遽かに其の重きを咎むること能はずと雖も、可成外國有價

證券の發行賣買を容易にし、以て外國發行物の益巴里に集注することを奬勵するは、賢明なる策にはあらざる乎。現に佛國の識者中には、單に稅金の問題に限らず、總ての點に於て外國有價證券の發行に便宜を與へて、之を佛國に吸收するは、即ち國力の增進を來す所以なりと論じ、大に政府の注意を喚起せんとする人士少からず。由來佛國の權威は、其の海外投資國たるに在るを以て、其の資本の勢力を利用して國運の發展を企圖するは、當然の理數と謂はざるを得ぬ。今其の一例として、佛國知名の經濟學者ラフアエル、ジョルジュ、レヴイ氏が、一九一四年七月、巴里「ランフォルマシオン」新聞に揭げたる「最近佛蘭西に於ける有價證券の增加」と題する論文の一節を左に抄錄して、此項を結ぶことゝいたしません。

『既往半世紀間に於て、吾人が爭ふべからざる優等權を運用せる範域は、即ち動産市場である。巴里の市場は久しく世界第一の位置を占めて居る。然るに不正當なる立法が巴里をして此位置を失はしめんとするの虞を生ずるは、慨歎すべき事實である。吾邦の所有する動的財産の增加は、吾邦政治的勢力の一要素である。故に前者をして永く後者を確保せしめんと欲せば、前者即ち我動的財産の增加